157160 **Shakespeare Production Ⅲ**

T.L.Medlock、辻　　英子

FLTナンバー: ELTb42-E, ARTa42-E

授業テーマ: Romeo and Juliet(『ロメオとジュリエット』上演

授業の概要: このクラスでは3年次の Shakespeare Production Ⅰ, Ⅱ で学んだシェイクスピアの戯曲 Romeo and Juliet (『ロメオとジュリエット』を舞台上演する。

到達目標: 1. 実際の舞台上演を通して、シェイクスピアの戯曲をより深く理解する。 2. 舞台制作にかかわる共同作業を通して、リーダーシップや仲間を思いやる力を養う。

授業方法: 通年を通して、舞台制作活動を行う。全体ミーティングとパートごとの作業の2本立てで進めていく。担当教員はあくまでアドバイザー的役割であり、参加学生が主体的に取り組んでいく。特に秋学期は上演本番までは、授業時間外の長時間の活動が必須となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	春学期 火曜日:オリエンテーション、スタッフの役割説明、キャストオーディションの説明 金曜日:アシスタント・ディレクター決定	授業後、各自、希望の役を決定し、必要な書類の提出を行う。 Around 60 minutes
2.	火曜日:オーディションのための事前打ち合わせ(個人面談含む) 金曜日:オーディション	
3.	火曜日:オーディション (予備日) 金曜日:キャスト発表、スタッフ(コミッティ、音響・照明・大道具、衣装・小道具・メイクアップ、字幕)決定決定	役割決定後、各自の取り組み内容を理解し、必要な準備を進めていくこと。 Around 60 minutes
4.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業(これ以降、全体ミーティングはSPルームで行う。キャスト、スタッフの作業はそれぞれの必要に応じて、学内の諸施設で行う。特にキャストは、授業時間外で身体訓練を行う。) 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(30−60分)
5.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(30−60分)
6.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(30−60分)
7.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(30−60分)
8.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(30−60分)
9.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(30−60分)
10.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(30−60分)
11.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(30−60分)
12.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(30−60分)
13.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(60分)

14.	火曜日：全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日：全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。（60分）
15.	火曜日：各パートの研究成果発表（スタッフ） 金曜日：各パートの研究成果発表（キャスト）	発表後、各パートでフィードバックを行い、秋学期の活動へ向けての準備始めること。
16.	秋学期 火曜日：全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備（シラバスの便宜上授業回数を週2回としているが、実際には週平均5回の活動となる） 金曜日：全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。 （長時間）
17.	火曜日：全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備 金曜日：全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。 （長時間）
18.	火曜日：全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備 金曜日：全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。 （長時間）
19.	火曜日：第1ドレス・リハーサルの予行演習 金曜日：第1ドレス・リハーサル	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。 （長時間）
20.	火曜日：第1ドレス・リハーサルのフィードバック、及び第2ドレス・リハーサルの準備 金曜日：第2ドレス・リハーサル	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。 （長時間）
21.	火曜日：第2ドレス・リハーサルのフィードバック、及び本番の準備 金曜日：本番1日目 土曜日：本番2日目	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。 （長時間）
22.	火曜日：反省会 金曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成（並行して個人レポートも作成）	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。 （30分）
23.	火曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。 （30分））
24.	火曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。 （30分）
25.	火曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。 （30分）
26.	火曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。 （30分）
27.	火曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。 （30分）
28.	火曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。 （30分）
29.	火曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日：パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。 （30分）
30.	火曜日：SPルームの整頓 金曜日：SPルームの整頓	

受講者へのメッセージやアドバイス：

舞台上演を行うに当たっては、参加者一人一人の積極的な取り組み、仲間との連帯が何よりも大切である。授業時間外の作業が多く（特に秋学期の上演までの期間）、体力と気力が大いに必要とされるので、覚悟の上、臨んでほしい。

フィードバックの方法：

春学期の成果発表、秋学期の本番の舞台上演へ向けての作業に対しては、担当教員が適宜、コメント、アドバイスをしていく。

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	30%	授業への意欲的な取り組み姿勢を評価する。
春学期の成果発表	20%	春学期の取り組みの成果を評価する。
本番での発表	40%	本番までの取り組みの成果を評価する。
レポート、資料作成	10%	授業内容の総括ができているかを評価する。

教科書：

ハンドアウト（上演用台本）を用意する。

参考文献等:	授業時に適宜紹介する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力
教員との連絡方法:	e-mail: htsuji@dwc.doshisha.ac.jp tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

194260

英文学特別研究Ⅱ

風間　　末起子

FLTナンバー:

授業テーマ: Thomas Hardyの小説研究

授業の概要: 19世紀後期のイギリス人作家Thomas Hardy (1840-1928)の6大作の一つThe Return of the Native (1878)を精読することによって、小説の高度な研究方法の習得を目指す。
(1)The Return of the Native (1878)の研究方法(講義)
(2)作品の精読と分析
(3)作品に関連した研究書のまとめの発表

到達目標: アカデミックな小説研究の方法を習得し、あわせて作品の読み方を学んでいく。

授業方法: 人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的には、講義と精読と発表を中心に授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	授業についての質問を準備しておく。15分。
2.	講義:The Return of the Nativeの研究方法(1)	質問を準備しておく。15分。
3.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
4.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
5.	講義:The Return of the Nativeの研究方法(2)	質問を準備しておく。15分。
6.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
7.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。15分。
8.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
9.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
10.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
11.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。15分。
12.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
13.	発表:研究書のまとめ	レジュメの準備をする。60分。
14.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
15.	学期末の総まとめ	これまでの授業内容を復習しておく。15分。
16.	授業オリエンテーション	授業についての質問を準備しておく。15分。
17.	講義:The Return of the Nativeの研究方法(3)	質問を準備しておく。15分。
18.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
19.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
20.	発表:研究書のまとめ	レジュメの準備をする。60分。
21.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
22.	レポートについて	質問を準備しておく。15分。
23.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。15分。
24.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
25.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
26.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
27.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。15分。
28.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
29.	作品の精読と分析:The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
30.	おわりに	質問を準備しておく。15分。

受講者へのメッセージやアドバイス: ハーディの中期の傑作小説The Return of the Nativeを取り上げます。中期の作品であるせいか、この作品は、ハーディが作家として評価されたいという、良い意味と悪い意味の野心にふれる作品となっています。ギリシャ悲劇の構造美を踏襲していること、ビクトリア朝の伝統的な価値観と並んで、ダーウィンの進化論以降の科学主義や宗教的懐疑論が顔を出しています。ストーリー展開は、きわめて世俗的な嫁姑問題や、若い女性の憧れや、現実離れした夢をあつかっていて、俗っぽい筋立てです。しかし、ハーディが描くと見事な芸術作品に変貌します、といった見本のような作品です。

フィードバックの方法: レポートは採点とコメントをして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
秋学期の学期末のレポート1回	50%	小説研究の方法論を踏まえてレポートが書かれているかどうかを基準とする。
発表	25%	レジュメの作り方や内容によって評価する。
授業への積極的参加度	25%	準備学習への意欲によって評価する。

教科書: Thomas Hardy, The Return of the Native (1878) (Norton Edition)

参考文献等: 授業中に提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:	Eメールやマナビーの連絡、および授業前後と授業外のアポで対応する。

194460

言語学特別研究Ⅱ

北尾　キャスリーン

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

In this class, students will learn about areas of communication of their choice and do research on those areas. (Note: The actual fields of communication covered in the class will depend on the students' interests. The schedule below is an example.)

到達目標:

The purpose of the course is for students to further develop their knowledge of communication theory and its application.

授業方法:

Students will read papers and chapters from books and will discuss them in class. They will choose an area of interest and write a research paper on it.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to Communication	none
2.	Interpersonal Communication 1	Read materials and answer questions.
3.	Interpersonal Communication 2	Read materials and answer questions.
4.	Interpersonal Communication 3	Read materials and answer questions.
5.	Interpersonal Communication 4	Read materials and answer questions.
6.	Interpersonal Communication 5	Read materials and answer questions.
7.	Interpersonal Communication 6	Read materials and answer questions.
8.	Interpersonal Communication 7	Read materials and answer questions.
9.	Interpersonal Communication 8	Read materials and answer questions. Work on research paper.
10.	Interpersonal Communication 9	Read materials and answer questions. Work on research paper.
11.	Interpersonal Communication 10	Read materials and answer questions. Work on research paper.
12.	Interpersonal Communication 11	Read materials and answer questions. Work on research paper.
13.	Interpersonal Communication 12	Read materials and answer questions. Work on research paper.
14.	Interpersonal Communication 13	Read materials and answer questions. Work on research paper.
15.	Interpersonal Communication 14	Read materials and answer questions. Work on research paper.
16.	Intercultural Communication 1	Read materials and answer questions.
17.	Intercultural Communication 2	Read materials and answer questions.
18.	Intercultural Communication 3	Read materials and answer questions.
19.	Intercultural Communication 4	Read materials and answer questions.
20.	Intercultural Communication 5	Read materials and answer questions.
21.	Intercultural Communication 6	Read materials and answer questions.
22.	Intercultural Communication 7	Read materials and answer questions.
23.	Intercultural Communication 8	Read materials and answer questions.
24.	Intercultural Communication 9	Read materials and answer questions.
25.	Intercultural Communication 10	Read materials and answer questions. Work on research paper.
26.	Intercultural Communication 11	Read materials and answer questions. Work on research paper.
27.	Intercultural Communication 12	Read materials and answer questions. Work on research paper.
28.	Intercultural Communication 13	Read materials and answer questions. Work on research paper.
29.	Intercultural Communication 14	Read materials and answer questions. Work on research paper.
30.	Intercultural Communication 15	Read materials and answer questions. Work on research paper.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Topics may vary.

フィードバックの方法:

Discussion with student about materials and research paper

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and class participation	50%	Participating in class; number of classes missed
Research papers	20%	Design of research, application of statistics, conclusion
Homework	30%	Application of theory

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、リーダーシップ

教員との連絡方法: kkitao217@yahoo.com

199860

言語学特別研究Ⅲ

若本　　夏美

FLTナンバー:

授業テーマ: Learner styles and learner strategies: Exploring the Best-Fit strategies for learning and using English as a global lingua franca

授業の概要: このコースでは, 外国語学習者方略 (Learner Strategy=LS) についての最新の研究を概観しながら日本のようなEFL環境下で外国語として英語をどのように学ぶべきなのかそのアプローチについて、Strategyをキーワードに議論します。

到達目標: 最終的には,
(1) 学習者の特徴に応じた最適の方略 (Best-Fit Strategy) を学習者に発見させる方法について理解が深まる、
(2) 教える側すなわちTeaching Strategyにも議論を拡げ、また現在の第二言語習得研究 (Second Language Acquisition Research) の知見にも依拠しながらEFL環境における英語教育のあり方について理解が深まる、

授業方法: 授業計画のテーマに沿い、授業を進めます。ディスカッションベースの自ら考え・意見交流ができるような形をとります。予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることも求めらます。できる限り、わかりやすい授業を心がけます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Section 1. Best-Fit Strategyを発見させる方法論としてのStrategying (ストラテジー・トレーニング)　LS研究の現在:定義の問題 (1)	授業に対する期待を考える (60分)
2.	LS研究の現在:定義の問題 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
3.	LS研究の現在:定義の問題 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
4.	LS研究の現在:分類の問題 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
5.	LS研究の現在:分類の問題 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
6.	LS研究の現在:分類の問題 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
7.	LS研究の現在:理論的枠組みの問題 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
8.	LS研究の現在:理論的枠組みの問題 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
9.	LS研究の現在:理論的枠組みの問題 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
10.	自己調整学習とLS研究 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
11.	自己調整学習とLS研究 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
12.	ストラテジー・トレーニングとStrategyig の理論的背景 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
13.	ストラテジー・トレーニングとStrategyig の理論的背景 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
14.	ストラテジー・トレーニングとStrategyig の理論的背景 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
15.	自己最適化方略(Best-Fit Strategy) の発見 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
16.	自己最適化方略(Best-Fit Strategy) の発見 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
17.	Section 2. 第二言語習得理論 (SLA)の知見、語彙の習得方略 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
18.	語彙の習得方略 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
19.	語彙の習得方略 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
20.	語彙の習得方略 (4)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
21.	読解方略 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
22.	読解方略 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
23.	コミュニケーションストラテジー (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
24.	コミュニケーションストラテジー (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
25.	発音能力向上の方略 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
26.	発音能力向上の方略 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
27.	Section 3. EFL環境における英語教育, 音読とストラテジー (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
28.	音読とストラテジー (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
29.	インプット、アウトプット、インターラクション、ストラテジー	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
30.	まとめ	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)

受講者へのメッセージやアドバイス:	全体を通して、予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることが求められます。
フィードバックの方法:	プレゼンテーションについては評価を事後にManaba等で提示します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業中のディスカッション態度	40	到達目標（1）～（2）に関する知識により評価する
ファイナルペーパー	60	到達目標（1）～（2）に関する知識により評価する

教科書:	同志社女子大学英語英文学会. (2017). English playbook. 京都: Author. ハンドアウトを配布します。
参考文献等:	授業中に提示します。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力
教員との連絡方法:	オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

244265

卒業研究

吉海　　直人

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に向けて

授業の概要: 四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集・調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。春学期は概要を含む演習形式、秋学期は個人発表ならびに論文執筆が主となる。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を研究発表するのみならず、授業担当教員の指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

到達目標: 卒業論文完成に向けて、各自のペースでスケジュールを考える。それに従って資料の収集・調査を行い、その結果を逐次口頭発表し、質疑応答を通してよりよい論文の制作をめざす。論文執筆にあたっては、書式の修得や論理的な展開・構成に留意しつつ、各自のオリジナリティーを明確に打ち出していく。

授業方法: 演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	各自研究テーマについて考えておく。時間無制限
2.	個人発表などのスケジュール調整	用例の調査などを行っておく。一時間
3.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。一時間
4.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。一時間
5.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。一時間
6.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。一時間
7.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。一時間
8.	個人発表後の論文執筆状況の確認並びに二回目の個人発表のスケジュール調整	二回目の個人発表の準備。一時間
9.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。一時間
10.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。一時間
11.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。一時間
12.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。一時間
13.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。一時間
14.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。一時間
15.	夏休み中のゼミ合宿についての話し合い	春学期提出のレポートの準備。一時間
16.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討論	三回目の発表資料を用意しておく。一時間
17.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討論	三回目の発表資料を用意しておく。一時間
18.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討論	三回目の発表資料を用意しておく。一時間
19.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討論	三回目の発表資料を用意しておく。一時間
20.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討論	三回目の発表資料を用意しておく。一時間
21.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討論	三回目の発表資料を用意しておく。一時間
22.	以後は卒業論文完成に向けての個人指導を行う	質問事項などを整理しておく。一時間
23.	個人指導を行う	質問事項などを整理しておく。一時間
24.	個人指導を行う	質問事項などを整理しておく
25.	卒業論文提出に向けて書式・体裁などの最終確認を行う	卒業論文の草稿をまとめておく。一時間
26.	論文提出に向けて最終チェックを行う	完成原稿を用意する。一時間
27.	提出後は反省・総括を行う	各自自らの論文を総括しておく。一時間
28.	卒業論文集作成に向けて作業を行う	論文原稿の再確認。一時間
29.	卒業論文集作成に向けて作業を行う	論文集の編集作業を行う。二時間
30.	卒業論文集を完成させる	論文集の編集作業を行う。二時間

受講者へのメッセージやアドバイス: 悔いのないよう全力で取り組んでほしい。

フィードバックの方法: 個人発表に際して意見を述べる。論文の草稿に朱を入れる。論文集作成に向けて全体の書式などを統一させる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合（出席状況ならびに授業への参加度を含む）を総合的に考慮して評価する。

教科書: 特になし

参考文献等: 特になし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力
教員との連絡方法:	研究室での応対、連絡メールによるやりとり。

244266

卒業研究

生井　　知子

FLTナンバー:

授業テーマ:　卒業論文作成に向けて取り組む授業である。

授業の概要:　開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

到達目標:　四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。

授業方法:　春学期には中間発表を各自一回する。
秋学期には夏休み中に書き上げた論文の下書きにもとづき、個別に指導する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
12.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
13.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
14.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
15.	今後に向けて	なし
16.	全体での打ち合わせ(秋学期)	なし
17.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
18.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
19.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
20.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
21.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
22.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
23.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
24.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
25.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
26.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
27.	ふりかえり	なし
28.	ふりかえり	なし
29.	ふりかえり	なし
30.	ふりかえり	なし
1.	全体での打ち合わせ(春学期)	なし
2.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
3.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
4.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
5.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
6.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
7.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
8.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
9.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
10.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
11.	学生による中間発表	発表の準備(180分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　面談

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文	70	卒業論文の完成度。
中間発表	15	中間発表が適切になされたかどうか。
推敲	15	努力を惜しまず論文を練り直したかどうか。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール

244267

卒業研究

生井　　知子

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に向けて取り組む授業である。

授業の概要: 開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

到達目標: 四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。

授業方法: 春学期には中間発表を各自一回する。
秋学期には夏休み中に書き上げた論文の下書きにもとづき、個別に指導する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	全体での打ち合わせ（春学期）	なし
2.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
3.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
4.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
5.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
6.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
7.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
8.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
9.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
10.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
11.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
12.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
13.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
14.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
15.	今後に向けて	なし
16.	全体での打ち合わせ（秋学期）	なし
17.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
18.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
19.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
20.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
21.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
22.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
23.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
24.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
25.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
26.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
27.	ふりかえり	なし
28.	ふりかえり	なし
29.	ふりかえり	なし
30.	ふりかえり	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 面談

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文	70	卒業論文の完成度。
中間発表	15	中間発表が適切になされたかどうか。
推敲	15	努力を惜しまず論文を練り直したかどうか。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

244269

卒業研究

森山　　由紀子

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に向けて取り組む授業である

授業の概要: 四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。
開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

到達目標: ①卒業論文作成のために必要な知識を集める（知識・理解）
②卒業論文作成のために論理的に考え、解決の方法を工夫し、主体的に取り組む（関心・意欲・態度）
③問題の設定、問題解決の方法、収集した情報の整理、推論の過程、その結果得られた結論を明快にわかりやすく論述し、卒業論文を完成させる。（表現・技能・能力）

授業方法: 演習方式で行う。各自が事前に用意した進捗報告やデータをもとにディスカッションをし、対話を通して次の問題点を見つけ、解決策をともに考える。データがまとまり、文章としての執筆に入る際に合宿を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	研究を進め、各自の現時点での卒論構想をレジュメにまとめてくる。（7時間以上）
2.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外の者も研究を進め、個別に質問ができるように進捗をまとめておく。（7時間以上）
3.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外の者も研究を進め、個別に質問ができるように進捗をまとめておく。（7時間以上）
4.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外の者も研究を進め、個別に質問ができるように進捗をまとめておく。（7時間以上）
5.	第1回発表会	研究を進め、レジュメ・PowerPointで発表の準備をしてくる。（7時間以上）
6.	発表の総括と合評会	研究を進め、個別に質問ができるように進捗をまとめておく。（7時間以上）
7.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外の者も研究を進め、個別に質問ができるように進捗をまとめておく。（7時間以上）
8.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外の者も研究を進め、個別に質問ができるように進捗をまとめておく。（7時間以上）
9.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外の者も研究を進め、個別に質問ができるように進捗をまとめておく。（7時間以上）
10.	第2回発表会	研究を進め、レジュメ・PowerPointで発表の準備をしてくる。（7時間以上）
11.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外の者も研究を進め、個別に質問ができるように進捗をまとめておく。（7時間以上）
12.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外の者も研究を進め、個別に質問ができるように進捗をまとめておく。（7時間以上）
13.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外の者も研究を進め、個別に質問ができるように進捗をまとめておく。（7時間以上）
14.	第3回発表会	研究を進め、レジュメ・PowerPointで発表の準備をしてくる。（7時間以上）
15.	夏休みに向けての計画	研究を進め、夏休みにするべきことをまとめてくる。（7時間以上）
16.	夏休み進捗発表会	夏休みの成果を完成データおよびレジュメまたはパワーポイントとしてまとめてくる。（7時間以上）
17.	卒論作成に向けて	卒論執筆についての基礎的事項の確認と今後の計画立案をしてくる。 研究を進め、個別に質問ができるように進捗をまとめておく。（7時間以上）
18.	進捗発表	研究を進め、個別に質問ができるように進捗をまとめておく。（7時間以上）
19.	進捗発表	研究を進め、個別に質問ができるように進捗をまとめておく。（7時間以上）
20.	第3回発表会	次回から執筆に入れるところまで研究を進め、レジュメ・PowerPointで発表の準備をしてくる。（7時間以上）
21.	進捗発表	研究・執筆を進め。作成過程の草稿を提出しておく。（7時間以上）
22.	進捗発表	研究・執筆を進め。作成過程の草稿を提出しておく。（7時間以上）
23.	進捗発表	研究・執筆を進め。作成過程の草稿を提出しておく。（7時間以上）
24.	進捗発表	研究・執筆を進め。作成過程の草稿を提出しておく。（7時間以上）
25.	個別指導期間	執筆・点検を進める。（7時間以上）
26.	個別指導期間	執筆・点検を進める。（7時間以上）
27.	卒業論文反省会	未定。受講者と相談。
28.	卒業論文反省会	未定。受講者と相談。

29.	卒業論文合評会	未定。受講者と相談。
30.	卒業論文合評会	未定。受講者と相談。

受講者へのメッセージやアドバイス:
指示を待つのではなく問題解決に向けて主体的にとりくむこと。

フィードバックの方法:
Eメールによる(アドレスは授業時に開示する)

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文	80%	学科が定める論文の必要要件を満たしている。自ら設定した課題に対する探求の過程とそこから導かれた考察の結果をわかりやすく説得力のある文章を用いて論述できている。
中間報告	20%	定められた中間報告の機会において、教員の指示を待つのではなく自らの課題の解決に向けて主体的に考え、その過程とその時点での問題点を資料にまとめた上で口頭で報告し、他の受講者や教員とのディスカッションを通して自らの研究にフィードバックすることができる。(担当日に報告ができない場合は、必ず事前連絡を行い、日程を変更して規定の報告を行うこと。)

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメールまたマナビーによる(アドレスは授業時に開示する)

244271 **卒業研究**

森山　　由紀子

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に向けて取り組む授業である。

授業の概要: 四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。

到達目標: 論文作成を通じて、客観的・科学的なデータ収集・整理・分析の力、論理的な考察の力、分かり易く明確に表現する力をつける。長期的な目標に向かって自己管理する力をつける。

授業方法: 学生の発表、議論と個別指導を中心とする。授業外にも随時指導を受けることができる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
13.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
14.	夏休みに向けての相談	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
15.	夏休みに向けての相談	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
16.	休み明けの成果発表	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
17.	休み明けの成果発表	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
18.	休み明けの成果発表	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
19.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
20.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
21.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
22.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
23.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
24.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
25.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
26.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
27.	ふりかえり・講評	提出した卒業論文を見直してくること。
28.	ふりかえり・講評	提出した卒業論文を見直してくること。
29.	ふりかえり・講評	提出した卒業論文を見直してくること。
30.	総まとめ	なし
1.	今後の授業方針の打合せ	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
2.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
3.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
4.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
5.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
6.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
7.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
8.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
9.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
10.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
11.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。
12.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと(数時間程度)。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文作成努力	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力
教員との連絡方法:	マナビーから、あるいは、研究室などでの面談による。

244273 **卒業研究**

大島　　中正

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語もしくは日本語による行動（表記行動をふくむ）を対象とする卒業論文を執筆する。

授業の概要: 卒業研究の進捗状況を報告する。

到達目標: ①問題の設定ができる。
②実証的にかつ論理的に思考することができる。
③適正な日本語によってわかりやすく表現・伝達することができる。

授業方法: ゼミ生による報告、質疑応答等をおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
3.	報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
4.	報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
5.	報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
6.	報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
7.	報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
8.	報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
9.	報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
10.	報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
11.	報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
12.	報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
13.	報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
14.	報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
15.	春学期の総ふりかえり	指示された課題にとりくむ。60分以上
16.	草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
17.	草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
18.	草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
19.	草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
20.	草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
21.	草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
22.	草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
23.	草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
24.	草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
25.	草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
26.	ふりかえり	指示された課題にとりくむ。60分以上
27.	ふりかえり	指示された課題にとりくむ。60分以上
28.	ふりかえり	指示された課題にとりくむ。60分以上
29.	ふりかえり	指示された課題にとりくむ。60分以上
30.	ふりかえり	指示された課題にとりくむ。60分以上

受講者へのメッセージやアドバイス: ゼミ仲間とともに4年間の学びの集大成にチャレンジしましょう。他人のテーマもわがテーマとおもって授業に参加してください。万一欠席せざる場合であっても無届欠席は言語道断です。

フィードバックの方法: 適宜、個別にまたは全体に対応します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
進捗状況の報告	50	到達目標による。
報告へのコメント	50	わかりやすい日本語による適切なコメントができているかが重視される。

教科書:

参考文献等: 適宜、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール、面談。

244274 **卒業研究**

丸山　　敬介

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に向けての取り組み

授業の概要: 各自で研究テーマを設定し、資料を収集・調査した上で十分な考察を加え、卒業研究を行う。

到達目標: 卒業論文を作成すること

授業方法: 前半3回は教師が講義を行う。その後は、個人指導とする。ただし、全員が出席するクラス授業として、夏休みの前後2回、中間発表を行う。毎回の学外学習時間は3時間程度とするが、当然のことながら研究に当たっては継続的な自律学習が求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認　1	レジメを読んでおく。学外学習時間3時間。
2.	卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認　2	各自のテーマをもとに、基本的事項を確認する。学外学習時間3時間。
3.	卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認　3	各自のテーマをもとに、基本的事項を確認する。学外学習時間3時間。
4.	個人指導　1	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
5.	個人指導　2	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
6.	個人指導　3	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
7.	中間発表　1	中間発表1の準備をする。学外学習時間5時間。
8.	中間発表　2	中間発表2の準備をする。学外学習時間5時間。
9.	個人指導　4	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
10.	個人指導　5	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
11.	個人指導　6	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
12.	個人指導　7	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
13.	個人指導　8	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
14.	個人指導　9	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
15.	個人指導　10	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
16.	中間発表　3	中間発表3の準備をする。学外学習時間5時間。
17.	個人指導　11	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
18.	個人指導　12	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
19.	個人指導　13	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
20.	個人指導　14	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
21.	個人指導　15	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
22.	個人指導　16	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
23.	個人指導　17	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
24.	個人指導　18	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
25.	個人指導　19	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
26.	個人指導　20	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。

27.	個人指導 21	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
28.	個人指導 22	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
29.	振り返り 1	卒業研究の過程を成果を内省する。学外学習時間5時間。
30.	振り返り 2	卒業研究の過程を成果を内省する。学外学習時間5時間。

受講者へのメッセージやアドバイス:

卒業研究は、4年間の学業の華である。自分自身が大学でどういうことに興味を持ち、それをどう学んだか、その学びの成果を自分自身でどう組み立てたかが問われる。そのことを、十二分に心得ること。そういう意味で卒業研究の具体的な果実である卒業論文は自分で自分に課す課題で、自分で評価すべきものある。言われたから出すようなものではない。まして、ちょっと長めのレポートなどではないし出せば通るというものではもちろんない。

フィードバックの方法:

個人指導を通して、フィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究態度	100%	以下の3点を等分に評価する。 ①研究動機追及の真摯さ 他からの受け売りや思い付きなどではなく、いかに自らの問題意識に突き動かされてそのテーマを研究しようと思ったか。 ②研究遂行における自己管理 研究を遂行するために、いかに予定を立て実行したか。また、予定通り実行できなかったときに、いかに軌道修正をしたか。 ③授業態度 中間発表内容及び個人指導から見て、いかに自分の課題として卒業研究に取り組んでいるか。 注　個人指導が5回に満たない者は不合格とする。

教科書:

マナビーで指示する。

参考文献等:

都度、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

以下のアドレを使用すること。
kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

244275

卒業研究

山本　　由紀子

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に向けて取り組む授業

授業の概要: 四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成します。
開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を教員に報告し、指導を受けることを要します。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこと。

到達目標: 自らが設定した問題について追究し、自らの考えを構築し発信する作業である主体的学習活動を通じ、以下の能力や態度を養うことを到達目標とします。
①自ら問題を設定し、それらの問題を解決するために必要な情報を収集、整理し、実証的、論理的、多角的に物事を考えることができる。
②論理的に思考し、その結果を適正な日本語を用いて分かりやすく伝えることができる。
③異なる文化・言語を背景に持つ人の視点等、多角的な視点から日本語・日本文化に迫り、理解を深めると同時に、異文化への柔軟な態度や社会貢献の姿勢をもはぐくむ。
④自分の考えを持ち、自分を表現できる真の国際人としての態度を培う。
⑤生涯にわたって学び、真理探求することで今後の自己形成につなげていくことができる態度を培う。

授業方法: 講義のほか、卒業研究に関する発表および討論・助言、個別の執筆指導などの方法で進めます。
卒業論文は指導教官の指導を受けながら進めるものです。発表やレポート課題、個人指導等による指導を受けずに卒業論文を提出することは認めません。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、進捗状況の報告	3年次末に完成させた研究計画書、および、春休み中に進めた研究内容のまとめを報告・提出できる準備をしておく。(30分)
2.	卒業論文の構成、文章作法	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。(30分)
3.	パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。序論や調査の概要(研究方法)を書き進める。(30分)
4.	パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを参照しながら、書き進める。(30分)
5.	パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを参照しながら、書き進める。(30分)
6.	発表	各自研究を進める。 発表担当者は準備を行う。(1時間)
7.	発表	各自研究を進める。 発表担当者は準備を行う。(1時間)
8.	発表	各自研究を進める。 発表担当者は準備を行う。(1時間)
9.	発表	各自研究を進める。 発表担当者は準備を行う。(1時間)
10.	発表	各自研究を進める。 発表担当者は準備を行う。(1時間)
11.	まとめ	ここまでの作業の振り返りを行い、研究を進めるに当たっての課題・解決方法を整理する。(1時間)
12.	先行研究の章を書く。	各自研究・レポート作成を進める。 (1時間)
13.	先行研究の章を書く。	各自研究・レポート作成を進める。(1時間)
14.	先行研究の章を書く。	各自研究・レポート作成を進める。(1時間)
15.	序論、調査の概要(研究方法)、先行研究の各章の下書きを完成させる。	各自研究・レポート作成を進める。(1時間)
16.	中間発表	各自研究・執筆を進める。 発表担当者は、発表準備を行う。(1時間)
17.	中間発表	各自研究・執筆を進める。 発表担当者は、発表準備を行う。(1時間)
18.	中間発表	各自研究・執筆を進める。 発表担当者は、発表準備を行う。(1時間)
19.	中間発表	各自研究・執筆を進める。 発表担当者は、発表準備を行う。(1時間)
20.	個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
21.	個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
22.	個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
23.	個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
24.	個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
25.	個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
26.	個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
27.	個人指導	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。(1時間程度)
28.	ふりかえり	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。(30分)
29.	ふりかえり	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。(30分)
30.	ふりかえりと総評	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。(30分)

受講者へのメッセージやアドバイス:
・発表の際は、自身の研究の単なる経過報告に止まらず、他者の意見が聞きたい点・議論したい点も明確に示すことで、ゼミの場が活かされます。十分な準備をして臨みましょう。
・卒論と就職活動や進学準備との両立はなかなか大変ですが、緩急はつけながらも手を止めず、こつこつと研究を進めるようにしましょう。

フィードバックの方法:	授業のほか、メールや面談で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表および課題提出	85	出席状況ならびに発表、レポート課題の提出、授業への参加度等を総合的に考慮して評価する。
授業への参加度	15	出席状況、授業への積極的な参加態度

教科書:

参考文献等: 授業や個人指導のなかで、それぞれの研究に参考になるものを紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	メール:yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp 研究室:D210

244276

卒業研究

宮本　　明子

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業研究

授業の概要: 課題に取り組み、卒業論文執筆に必要な基礎的な力を身につけ、計画的に執筆を進める。各自、研究の内容、執筆状況を報告し受講者、教員との議論を重ねて考察を深める。具体的な日程や方法については初回授業時に指示する。

到達目標: 各自の問題意識に基づき問を設定し、答えを導く。卒業論文に必要な技能を磨き、向上させる。

授業方法: 全員が基礎的な力を身につけて計画的に執筆できるよう、前半はマナビーにミニ課題を提出してもらう。これにコメントを付すとともにクラスで共有する。これらの実践を踏まえて、春・秋学期に、受講者は報告を一回ずつ行う。秋学期は論文の執筆・論文に対する指導を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（今後の進め方を確認する）	卒業論文の構想、概要について説明できるようにしておく。（60分）
2.	実践①章立てを行う（マナビーへミニ課題を提出する）	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。（100分）
3.	実践②引用する（マナビーへミニ課題を提出する）	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。（100分）
4.	実践③注、参考文献を記す（マナビーへミニ課題を提出する）	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。（100分）
5.	実践④執筆する（マナビーへミニ課題を提出する）	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。（100分）
6.	実践⑤執筆する（マナビーへミニ課題を提出する）	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。（100分）
7.	研究計画に基づく報告①	これまでの実践を踏まえて、各自執筆を進める。（100分）
8.	研究計画に基づく報告②	これまでの実践を踏まえて、各自執筆を進める。（100分）
9.	研究計画に基づく報告③	これまでの実践を踏まえて、各自執筆を進める。（100分）
10.	研究計画に基づく報告④	これまでの実践を踏まえて、各自執筆を進める。（100分）
11.	研究計画に基づく報告⑤	これまでの実践を踏まえて、各自執筆を進める。（100分）
12.	研究計画に基づく報告⑥	これまでの実践を踏まえて、各自執筆を進める。（100分）
13.	研究計画に基づく報告⑦	これまでの実践を踏まえて、各自執筆を進める。（100分）
14.	研究計画に基づく報告⑧	これまでの実践を踏まえて、各自執筆を進める。（100分）
15.	今後に向けて	執筆と発表から得た気づきをもとに、さらなる執筆を進める。（100分）
16.	オリエンテーション（今後の進め方を確認する）	執筆中の論文について、問と答えの概要を示せるようにしておく。（100分）
17.	研究①	執筆を進め、考察を深める。（100分）
18.	研究②	執筆を進め、考察を深める。（100分）
19.	研究③	執筆を進め、考察を深める。（100分）
20.	論文の下書きに基づく個別指導①	執筆を進め、考察を深める。（100分）
21.	論文の下書きに基づく個別指導②	執筆を進め、考察を深める。（100分）
22.	論文の下書きに基づく個別指導③	執筆を進め、考察を深める。（100分）
23.	論文の下書きに基づく個別指導④	執筆を進め、考察を深める。（100分）
24.	論文の下書きに基づく個別指導⑤	執筆を進め、考察を深める。（100分）
25.	論文の下書きに基づく個別指導⑥	執筆を進め、考察を深める。（100分）
26.	論文の下書きに基づく個別指導⑦	執筆を進め、考察を深める。（100分）
27.	研究計画に基づく報告①	執筆した論文の問、答えをまとめ、報告する。他の受講者の報告を受け、共に議論できるよう準備を進める。（100分）
28.	研究計画に基づく報告②	執筆した論文の問、答えをまとめ、報告する。他の受講者の報告を受け、共に議論できるよう準備を進める。（100分）
29.	研究計画に基づく報告③	執筆した論文の問、答えをまとめ、報告する。他の受講者の報告を受け、共に議論できるよう準備を進める。（100分）
30.	まとめ	これまでをふりかえり、研究の成果をまとめる。（60分）

受講者へのメッセージやアドバイス: 書くことはもちろん、期限までにまとめる、全体での討議に参加するなど、基本的な姿勢もしっかり身につけていくことが大切です。ひとつひとつの課題を着実にこなしていきましょう。

フィードバックの方法: 初回授業時に指示する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に傾けた努力の度合(出席状況・授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。評価に際して、（1）卒業論文の完成度（2）卒業論文の書式が学科で配布される「卒業論文作成ガイド」に準拠しているかをみる。

教科書: 初回授業時に指示する。

参考文献等: 初回授業時に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:	初回授業時に指示する。

244277

卒業研究

宮腰　　直人

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文の執筆

授業の概要: 各自が研究課題を設定し、資料を収集し、十分な考察を加えて、卒業論文を執筆する。春学期は、各自の個別発表と論文の書き方の修得を中心とする演習形式、秋学期は個別指導を中心とするが、定期的に各自の研究の進展状況を発表する機会を設ける。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこと。

到達目標: 論文執筆を通して、適切な情報収集と分析の力を身につけることができる。研究テーマの考察をふまえ、論理的な文章を書くことができる。論文の完成を目指して、自己スケジュールを管理することができる。

授業方法: 学生の発表、議論と個別指導を中心とする。授業外にも随時指導を受けることができる

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要の説明	なし
2.	個別発表などのスケジュール調整	卒業論文完成に向け、各自計画を立てる。(30分)
3.	個別発表と議論(1回目)	研究テーマについて各自発表の用意を進める。(45分)
4.	個別発表と議論(1回目)	研究テーマについて各自発表の用意を進める。(45分)
5.	個別発表と議論(1回目)	研究テーマについて各自発表の用意を進める。(45分)
6.	資料収集講座・文献目録の作成	1回目発表をふまえて、あらためて資料収集をする。また文献目録の作成をする。(45分)
7.	資料収集講座・文献目録の作成	1回目発表をふまえて、あらためて資料収集をする。また文献目録の作成をする。(45分)
8.	関連論文の批判的検討	卒論の執筆や研究の推進のために参考になる論文を各自選び検討しておく。(45分)
9.	関連論文の批判的検討	卒論の執筆や研究の推進のために参考になる論文を各自選び検討しておく。(45分)
10.	関連論文の批判的検討	卒論の執筆や研究の推進のために参考になる論文を各自選び検討しておく。(45分)
11.	個別発表と議論(2回目)	研究テーマについて各自発表の用意を進める。(45分)
12.	個別発表と議論(2回目)	研究テーマについて各自発表の用意を進める。(45分)
13.	個別発表と議論(2回目)	研究テーマについて各自発表の用意を進める。(45分)
14.	レポートのための事前発表	論文の書式などに留意しながら資料を作成する。(45分)
15.	レポートのための事前発表	論文の書式などに留意しながら資料を作成する。(45分)
16.	個別発表と議論(3回目　夏期休暇の成果の報告)	論文の書式などに留意しながら資料を作成する。(45分)
17.	個別発表と議論(3回目　夏期休暇の成果の報告)	論文の書式などに留意しながら資料を作成する。(45分)
18.	個別発表と議論(3回目　夏期休暇の成果の報告)	論文の書式などに留意しながら資料を作成する。(45分)
19.	資料収集講座・文献目録の確認	3回目発表をふまえて、あらためて資料収集をする。また文献目録の作成をする。(45分)
20.	個別指導	研究テーマについて各自検討を進め、着実に原稿を執筆する。(1時間以上)
21.	個別指導	研究テーマについて各自検討を進め、着実に原稿を執筆する。(1時間以上)
22.	個別指導	研究テーマについて各自検討を進め、着実に原稿を執筆する。(1時間以上)
23.	個別指導	研究テーマについて各自検討を進め、着実に原稿を執筆する。(1時間以上)
24.	提出のための点検と指導	要旨の作成や書式の確認、図版の整備をしておく。(45分)
25.	提出のための点検と指導	要旨の作成や書式の確認、図版の整備をしておく。(45分)
26.	提出のための点検と指導	要旨の作成や書式の確認、図版の整備をしておく。(45分)
27.	論文執筆後のふりかえりと展望	各自の論文を読み直しておく。(45分)
28.	論文執筆後のふりかえりと展望	各自の論文を読み直しておく。(45分)
29.	論文の講評	なし
30.	まとめ	なし

受講者へのメッセージやアドバイス: 授業や卒論に関する情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください。
気持ちに余裕をもって進められるよう、一つずつ段階をクリアしていきましょう。

フィードバックの方法: 質問や疑問については、授業時間後、あるいはオフィスアワーの時間を中心に受け付ける。提出課題については授業時にコメントするか、マナビ-を通じてコメントをする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文への取り組み	100	卒業論文作成への取り組みの度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: メールアドレス:nmiyakos@dwc.doshisha.ac.jp

244278 **卒業研究**

大津　　直子

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に取り組む

授業の概要: 講義に加え個別指導にもとづいて各人の問題意識に基づいた卒業論文を作成する

到達目標: 四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成します。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要します。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととします。

授業方法: 春学期は添削による個別指導をOffice365のTeams、マナビ―を用いて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	遠隔個別面談1	3年次演習で添削を受けたレポートを振り返り、授業時に持参する(30分)
3.	遠隔個別面談2	3年次演習で添削を受けたレポートを振り返り、授業時に持参する(30分)
4.	遠隔個別面談3	3年次演習で添削を受けたレポートを振り返り、授業時に持参する(30分)
5.	遠隔個別面談4	33年次演習で添削を受けたレポートを振り返り、授業時に持参する(30分)
6.	遠隔個別指導1	個別面談を踏まえて調査を行い、進捗状況を報告する(60分)
7.	遠隔個別指導2	個別面談を踏まえて調査を行い、進捗状況を報告する(60分)
8.	遠隔個別指導3	個別面談を踏まえて調査を行い、進捗状況を報告する(60分)
9.	中間発表1	個別指導を踏まえて、調査、考察を重ね、履修者同士で進捗状況をTeams上の会議機能を通して共有する(60分)
10.	中間発表2	個別指導を踏まえて、調査、考察を重ね、履修者同士で進捗状況をTeams上の会議機能を通して共有する(60分)
11.	中間発表3	個別指導を踏まえて、調査、考察を重ね、履修者同士で進捗状況をTeams上の会議機能を通して共有する(60分)
12.	中間発表4	個別指導を踏まえて、調査、考察を重ね、履修者同士で進捗状況をTeams上の会議機能を通して共有する(60分)
13.	中間発表5	個別指導を踏まえて、調査、考察を重ね、履修者同士で進捗状況をTeams上の会議機能を通して共有する(60分)
14.	中間発表6	個別指導を踏まえて、調査、考察を重ね、履修者同士で進捗状況をTeams上の会議機能を通して共有する(60分)
15.	春学期総括	中間報告をふまえ、個々人が夏休みに行うことをTeams上の会議機能を通して共有する(60分)
16.	論文の書式・文体について	これまでの取り組みを踏まえて卒業論文を下書きし、持参する(60分)
17.	個別指導7	個別面談を踏まえて進捗状況を報告する
18.	個別指導8	個別面談・中間報告を踏まえて調査、考察を重ね、進捗状況を報告する(60分)
19.	個別指導9	個別面談・中間報告を踏まえて調査、考察を重ね、進捗状況を報告する(60分)
20.	個別指導10	個別面談・中間報告を踏まえて調査、考察を重ね、進捗状況を報告する(60分)
21.	個別指導11	個別面談・中間報告を踏まえて調査、考察を重ね、進捗状況を報告する(60分)
22.	論文相互添削1	各人が原稿を印刷して持参しペアを組んで相互添削する(60分)
23.	論文相互添削2	各人が原稿を印刷して持参しペアを組んで相互添削する(60分)
24.	個別指導12	11月中旬にプレ論文をマナビーで提出する(120分)
25.	個別指導13	個別面談・中間報告・相互添削を踏まえて推敲し、進捗状況を報告する(60分)
26.	個別指導14	個別面談・中間報告・相互添削を踏まえて推敲し、進捗状況を報告する(60分)
27.	振り返り	個別面談・中間報告・相互添削を踏まえて推敲し、進捗状況を報告する(60分)
28.	振り返り	個別面談・中間報告・相互添削を踏まえて推敲し、進捗状況を報告する(60分)
29.	振り返り	個別面談・中間報告・相互添削を踏まえて推敲し、進捗状況を報告する(60分)
30.	振り返り	個別面談・中間報告・相互添削を踏まえて推敲し、進捗状況を報告する(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください。

なお、シラバスは、履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

フィードバックの方法: 個別指導の中でコメントします。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度	30	Teams上での会議への参加。教員の個別指導への応答。執筆途中の論文をこまめに送ってくることが望ましい。
相互添削への参加	30	文意の通じない箇所や体裁上のケアレスミスを指摘できるかどうかを評価します。
中間発表	40	中間発表の時点における完成度を総合的に考慮して評価します。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: メール、マナビ―、Teamsを通してこまめに連絡を取って進めてゆきましょう。

244365～78　**卒業論文**

日本語日本文学科教員

FLTナンバー:

授業テーマ:　卒業論文の完成

授業の概要:　「卒業研究」に準じる

到達目標:　卒業論文の完成を通じ、自律的な問題解決の態度と思考力を身につける

授業方法:　担当教員の指導を受け、卒業論文を完成させ提出する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	なし	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　「卒業研究」に準じる

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文	100%	「卒業研究」の合格を必要条件とし、主査及び副査により下記の点を審査して評価する。卒業論文は、担当教員より十分な指導を受け、所定の期限内に提出されたものでなければならない。 （1）卒業論文の完成度。 （2）卒業論文の書式等が「卒業論文作成ガイド」（学科で配布）に準拠していること。 ※卒業論文は、原則として、論文形式で提出する。ただし、分野やテーマの特性上、論文形式になじまない場合は、指導教員の許可と学科主任の承認を受けて、論文相当の成果物を提出することができる。

教科書:　なし

参考文献等:　担当教員の指示による

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　「卒業研究」の授業

290360

日本語特殊研究Ⅰ

森山　　由紀子

FLTナンバー:

授業テーマ: 言語研究の方法

授業の概要: 前半は、主にコーパスに立脚した言語研究の方法を扱う。コーパスからのデータ取得と、テキストファイル処理の技術を身につける。コーパスを用いた研究例や研究にあたって注意すべき点を学ぶ。また、基本的な文献の講読・講義を行う。各自関心のある問題について分析を行い、議論する。
後半は、主に言語変化の問題に関する基本的な文献の講読と講義を行う。各自関心のある問題について分析を行い、議論する。

到達目標: コーパスを用いて日本語の研究を行う上での問題点を理解し、自らデータを取得・加工し、分析に利用できる技術を身につける。言語変化に関する研究例や理論的枠組の基本を理解する。

授業方法: 実習・講義・講読

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業内容の説明	
2.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。(2時間)
3.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。(2時間)
4.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。(2時間)
5.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。(2時間)
6.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。(2時間)
7.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。(2時間)
8.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。(2時間)
9.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。(2時間)
10.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。(2時間)
11.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。(2時間)
12.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。(2時間)
13.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。(2時間)
14.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。(2時間)
15.	中間のまとめ	復習(2時間)
16.	言語変化論入門:講読と講義	配付物を事前に読み要約整理してくること。(2時間)
17.	言語変化論入門:講読と講義	配付物を事前に読み要約整理してくること。(2時間)
18.	言語変化論入門:講読と講義	配付物を事前に読み要約整理してくること。(2時間)
19.	言語変化論入門:講読と講義	配付物を事前に読み要約整理してくること。(2時間)
20.	言語変化論入門:講読と講義	配付物を事前に読み要約整理してくること。(2時間)
21.	言語変化論入門:講読と講義	配付物を事前に読み要約整理してくること。(2時間)
22.	言語変化論入門:講読と講義	配付物を事前に読み要約整理してくること。(2時間)
23.	言語変化論入門:講読と講義	配付物を事前に読み要約整理してくること。(2時間)
24.	言語変化論入門:講読と講義	配付物を事前に読み要約整理してくること。(2時間)
25.	言語変化論入門:講読と講義	配付物を事前に読み要約整理してくること。(2時間)
26.	言語変化論入門:講読と講義	配付物を事前に読み要約整理してくること。(2時間)
27.	言語変化論入門:講読と講義	配付物を事前に読み要約整理してくること。(2時間)
28.	言語変化論入門:講読と講義	配付物を事前に読み要約整理してくること。(2時間)
29.	言語変化論入門:講読と講義	配付物を事前に読み要約整理してくること。(2時間)
30.	総まとめ	総復習(2時間)

受講者へのメッセージやアドバイス: 指示により、ノートPC(Windows)を持っている人は持参、持っていない人はUSBメモリー等を持参し、事務室でPCの貸与を受けること。毎回、相当量の課題があり、授業の前に授業支援システム「マナビー」から課題を提出してもらう。それらを行って来ない場合、授業の理解は困難である。

フィードバックの方法: 課題については総括的にコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の課題	25	課題を通じて、到達目標に向けての進歩が見られたかを評価する。
授業への参加態度	25	授業へのとりくみを通じて、到達目標に向けての進歩が見られたかを評価する。
前半レポート	25	コーパスを用いた日本語データ処理・分析の力がついたかを評価する。
後半レポート	25	言語変化についての授業内容を理解し、自ら言語事実の調査や分析を行う力がついたかを評価する。

教科書:

参考文献等:	『講座日本語コーパス6　コーパスと日本語学』 朝倉書店
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力
教員との連絡方法:	マナビーの「個別指導」から

290760

日本語教育特殊研究Ⅰ

丸山　　敬介

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語指導の実際

授業の概要: 日本語教育初級段階及び中級段階における指導の実際とその課題について探求する。

到達目標: ①日本語教育初級段階において指導の実際を分析し、その知見をもとにあるべき指導の姿を探求できる能力の基礎を獲得すること
②日本語教育中級段階において指導の実際を分析し、その知見をもとにあるべき指導の姿を探求できる能力の基礎を獲得すること

授業方法: 演習形式。
まず、初級段階の授業構造を解説し、それをもとに実際に行われた授業を分析しその課題と課題を考慮した上でのあるべき姿を検討する。中級段階においても同様に行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	修士課程で学ぶことに関してのオリエンテーション	レジメを読んでおく。
2.	日本語教育初級段階の授業構造を理解する。 1	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
3.	日本語教育初級段階の授業構造を理解する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
4.	日本語教育初級段階の授業構造を理解する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
5.	日本語教育初級段階の授業構造を理解する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
6.	日本語教育初級段階の授業構造を理解する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
7.	日本語教育初級段階の授業を分析する。 1	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
8.	日本語教育初級段階の授業を分析する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
9.	日本語教育初級段階の授業を分析する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
10.	日本語教育初級段階の授業を分析する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
11.	日本語教育初級段階の授業を分析する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
12.	日本語教育初級段階の授業を分析する。 6	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
13.	日本語教育初級段階の授業を分析する。 7	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
14.	日本語教育初級段階の授業を分析する。 8	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
15.	日本語教育初級段階の授業を分析する。 9	まとめ。これまでの発表の内容を振り返っておく。想定学外学習時間　60分以上。
16.	日本語教育中級段階の授業構造を理解する。 1	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
17.	日本語教育中級段階の授業構造を理解する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
18.	日本語教育中級段階の授業構造を理解する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
19.	日本語教育中級段階の授業構造を理解する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
20.	日本語教育中級段階の授業構造を理解する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
21.	日本語教育中級段階の授業を分析する。 1	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
22.	日本語教育中級段階の授業を分析する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
23.	日本語教育中級段階の授業を分析する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
24.	日本語教育中級段階の授業を分析する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
25.	日本語教育中級段階の授業を分析する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
26.	日本語教育中級段階の授業を分析する。 6	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
27.	日本語教育中級段階の授業を分析する。 7	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
28.	日本語教育中級段階の授業を分析する。 8	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
29.	日本語教育中級段階の授業を分析する。 9	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。想定学外学習時間　60分以上。
30.	日本語教育中級段階の授業を分析する。 10	まとめ。これまでの発表の内容を振り返っておく。想定学外学習時間　60分以上。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:	授業中並びに前後に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加度	50%	教師への質疑応答並びに発表者への質疑応答などを通して、到達目標①・②がいかに達成されたかを評価する。ただし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は不可とする。
発表	50%	発表内容とその仕方を、①・②の観点から評価する。

教科書:	マナビー参照のこと。
参考文献等:	都度、指示する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	以下のアドレス使用すること。 kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

291060

日本文化史特殊研究Ⅰ

宮腰　　直人

FLTナンバー:

授業テーマ: 中近世移行期の絵巻の研究及び絵巻を用いた文化研究

授業の概要: 本授業では、15世紀から17世紀初頭の絵巻への取り組みを通して、絵画表象や視覚表象研究のための基礎力を身につけることを目標とする。絵巻諸本掌握やテクストの検討などの資料を理解するための手法修得と、絵巻研究および隣接領域の批判的読解、各自のテーマにそくした文化研究という三つの柱で進めていく。

到達目標: 各自の研究をすすめるための絵画資料の扱いができるようになる。近年の多様な文化研究の動向を絵画表象および視覚表象研究を基軸に理解し、自らの研究テーマの深化に活かすことができるようになる。

授業方法: 演習形式を基本とするが必要に応じて学外の資料所蔵機関で調査も実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要の説明	なし。
2.	講読論文および読解資料の選択	なし。
3.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
4.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
5.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間)
6.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間)
7.	文献調査	事前に調査予定古典籍の情報収集をする。(1時間)
8.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
9.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
10.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間)
11.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間)
12.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間)
13.	文献調査	事前に調査予定古典籍の情報収集をする。(1時間)
14.	各自の研究テーマ報告	発表の用意を進める。(1時間)
15.	春期のまとめ	これまでの授業をふりかえり、自らの課題を把握する。(1時間)
16.	スケジュールの確認と講読論文および読解資料の選択	なし。
17.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
18.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
19.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間)
20.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間)
21.	文献調査	事前に調査予定古典籍の情報収集をする。(1時間)
22.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
23.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
24.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間)
25.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間)
26.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間)
27.	文献調査	事前に調査予定古典籍の情報収集をする。(1時間)
28.	各自の研究テーマに基づく論文講読	各自の研究テーマで重要な論文を紹介し、自らの研究視座を明らかにする。(1時間)
29.	各自の研究テーマ報告	発表の用意を進める。(1時間)
30.	秋期のまとめ	これまでの授業をふりかえり、自らの課題を把握する。(1時間)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 質問や疑問については、授業時間後、あるいはオフィスアワーの時間を中心に受け付ける。提出課題については授業時にコメントするか、マナビ-を通じてコメントをする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度	50	出席状況ならびに授業への参加度を総合的に考慮して評価する。
レポート	50	論理的な文章を書くことができているかで評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

メールアドレス:nmiyakos@dwc.doshisha.ac.jp

291200

芸術文化特殊研究Ⅰ

葛西　　聖憲

FLTナンバー:

授業テーマ: 音楽理論研究

授業の概要: 和声・対位法（フーガを含む）等の実習、および楽曲分析を各々の学生の進度に合わせ、授業を行う。

到達目標: 楽曲分析、および調性音楽理論による高度な音楽書法の修得を目標とする。
過去の名曲といわれる楽曲を分析することにより、作曲に対する技法や時代背景を研究する。
そしてその一助となる和声法や対位法を学習する。

授業方法: 基本としてグループレッスン形式にて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音楽理論研究 1	大学で学んだ理論科目の復習（30～90分）
2.	音楽理論研究 2	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
3.	音楽理論研究 3	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
4.	音楽理論研究 4	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
5.	音楽理論研究 5	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
6.	音楽理論研究 6	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
7.	音楽理論研究 7	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
8.	音楽理論研究 8	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
9.	音楽理論研究 9	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
10.	音楽理論研究 10	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
11.	音楽理論研究 11	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
12.	音楽理論研究 12	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
13.	音楽理論研究 13	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
14.	音楽理論研究 14	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
15.	音楽理論研究 15	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
16.	音楽理論研究 16	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
17.	音楽理論研究 17	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
18.	音楽理論研究 18	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
19.	音楽理論研究 19	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
20.	音楽理論研究 20	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
21.	音楽理論研究 21	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
22.	音楽理論研究 22	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
23.	音楽理論研究 23	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
24.	音楽理論研究 24	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
25.	音楽理論研究 25	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
26.	音楽理論研究 26	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
27.	音楽理論研究 27	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
28.	音楽理論研究 28	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
29.	音楽理論研究 29	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）
30.	音楽理論研究 30	前回の授業で与えられた課題の実践と復習（60分以上）

受講者へのメッセージやアドバイス: 大学で学んだ理論科目の知識および技術を基にした授業を行う。

フィードバックの方法: 適宜、予習及び復習を行わせる。
授業の復習としての宿題や、次回の授業の課題準備などを課す。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	課題の実践状況など
レポート	50	実習した課題・作品の提出など

教科書: 適宜その都度指定する

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワー 他

291300

芸術文化特殊研究Ⅱ

稲田　　雅美

FLTナンバー:

授業テーマ: 芸術と精神病理

授業の概要: 芸術行為の臨床的意義を，臨床心理学や精神分析の関連理論を通して考察する。音楽療法・芸術療法関連の文献（主として英語による原著）を読み解くことを通して，1）その背景となる理論を理解し，2）芸術の臨床応用の実際と可能性について討議する。

到達目標:
・音楽療法・芸術療法の理論を習得する
・芸術の臨床応用の実際について理解する。

授業方法: 文献の講読と討議を中心とする演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション：音楽療法・芸術療法，および精神分析の概略	次回に講読する文献の予習（120分）
2.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議1	講読文献の予復習（120分）
3.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議2	講読文献の予復習（120分）
4.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議3	講読文献の予復習（120分）
5.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議4	講読文献の予復習（120分）
6.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議5	講読文献の予復習（120分）
7.	文献内容のまとめと討議	講読した文献から関心のあるテーマを見つけ，研究発表の準備をする。（180分）
8.	研究発表1	発表の準備，および発表後に受けたコメントの整理（120分）
9.	芸術療法に関する文献講読と討議1	講読文献の予復習（120分）
10.	芸術療法に関する文献講読と討議2	講読文献の予復習（120分）
11.	芸術療法に関する文献講読と討議3	講読文献の予復習（120分）
12.	芸術療法に関する文献講読と討議4	講読文献の予復習（120分）
13.	芸術療法に関する文献講読と討議5	講読文献の予復習（120分）
14.	文献内容のまとめと討議	講読した文献から関心のあるテーマを見つけ，研究発表の準備をする。（180分）
15.	研究発表2	発表の準備，および発表後に受けたコメントの整理（120分）
16.	音楽療法・芸術療法の実際についての討議1	学術雑誌から，音楽療法・芸術療法に関する事例を精査する。（180分）
17.	音楽療法・芸術療法の実際についての討議2	学術雑誌から，音楽療法・芸術療法に関する事例を精査する。（180分）
18.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議1	講読文献の予復習（120分）
19.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議2	講読文献の予復習（120分）
20.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議3	講読文献の予復習（120分）
21.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議4	講読文献の予復習（120分）
22.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議5	講読文献の予復習（120分）
23.	文献内容のまとめと討議	講読した文献から関心のあるテーマを見つけ，研究発表の準備をする。（180分）
24.	研究発表3	発表の準備，および発表後に受けたコメントの整理（120分）
25.	芸術と精神病理に関する文献研究と討議1	講読文献の予復習（120分）
26.	芸術と精神病理に関する文献研究と討議2	講読文献の予復習（120分）
27.	芸術と精神病理に関する文献研究と討議3	講読文献の予復習（120分）
28.	芸術と精神病理に関する文献研究と討議4	講読文献の予復習（120分）
29.	研究発表4	発表の準備，および発表後に受けたコメントの整理（120分）
30.	芸術行為の意義についての総括	芸術行為の意義について，自分の言葉で語れるよう，コメントを準備する。（120分）

受講者へのメッセージやアドバイス: 履修者は，音楽理論の十分な知識と心理学の基礎知識を備えていること。また，当科目分野の専門書は英語によるものがほとんどである事情から，英語読解力も必須である。

フィードバックの方法: 提出物は，授業内でコメントした上で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	60%	文献の予復習状況と，到達目標における，音楽療法・芸術療法の理論の習得に基づく討議ができていることについて評価する。
研究発表およびレポート課題	40%	到達目標における，芸術の臨床応用の実際についての理解に基づき，論理的な考察ができていることを評価する。

教科書: 教材はプリント配布する。

参考文献等: 稲田雅美『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』 ミネルヴァ書房（2016年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応する。

291500

芸術文化特殊研究Ⅳ

井上　　敏典

FLTナンバー:

授業テーマ: 作曲家/演奏家の視点から見た声楽作品研究

授業の概要: ドイツ歌曲やオペラ等の声楽作品が作曲されるにあたり、作曲時の生活環境や心理状態が、作品に何らかの影響を及ぼしていると考えられる。それを演奏するにあたり、関係文献を精読、分析し、パフォーマーからの目で見た解釈を進めていく。またプレゼンテーション時の声の出し方などにも役立つ発声法の研究も併用する。

到達目標:
1. 参考文献の精読による理解と解説力。
2. 歌詞の解釈と表現力。
3. 声の出し方。

授業方法: 授業開始ににイタリア、ドイツ、日本の声楽作品から研究作品を決め、その時代の文献を精読し、授業内での発表と実演を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業説明と研究作品についての質疑応答。	授業開始までに自分であらかじめ研究作曲家を決めておく。(60)
2.	発声と歌唱(1) 声を出すこととは	発声についての準備はいらないが、研究作曲家については文献の精読を開始しておく。 歌唱作品についての譜読み。(60)
3.	発声と歌唱(2) 発声の仕方と楽曲へのアプローチ	次週の発表についての準備。(60)
4.	作曲家研究発表　1	資料を作成し、配布できるように準備。(60)
5.	発声と歌唱(3) より煮詰めた歌唱	歌唱作品の音楽上の準備。(60)
6.	発声と歌唱(4)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
7.	発声と歌唱(5)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
8.	作曲家研究発表　2	資料作成と配布の準備。(60)
9.	発声と歌唱(6)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
10.	発声と歌唱(7)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
11.	発声と歌唱(8)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
12.	作曲家研究発表　3	資料作成と配布の準備。(60)
13.	発声と歌唱(9)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
14.	発声と歌唱(10)	歌唱と最終段階での資料まとめに入る。(60)
15.	まとめ＋α	資料作成と配布の準備。(60)
16.	春学期とは違うジャンルの作曲家研究。	歌曲かオペラ作品かを事前に決定しておくこと。(60)
17.	発声と歌唱(11) 発声について自分流を開発する。	歌唱に入れるように譜読みをしておく。(60)
18.	発声と歌唱(12)	声のトレーニング。(60)
19.	作曲家研究発表　4	資料作成と配布準備。(60)
20.	発声と歌唱(13)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
21.	発声と歌唱(14)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
22.	作曲家研究発表　5	資料作成と配布準備。(60)
23.	発声と歌唱(15)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
24.	発声と歌唱(16)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
25.	発声と歌唱(17)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
26.	作曲家研究発表　6	資料作成と配布準備。(60)
27.	発声と歌唱(18)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
28.	発声と歌唱(19)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
29.	発声と歌唱(20)	歌唱と最終段階での資料まとめに入る。(60)
30.	総括	資料作成と配布の準備。(60)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 発表毎に教室にて解説をします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表、討論	40%	研究レポートをもとに説明の仕方と質疑応答などの理解度を段階的に評価する。
授業への参加度	60%	演習の歌唱における発声と発音の到達度と、質疑応答の参加度を段階的に評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応。Eメール(tinoue@dwc.doshisha.ac.jp)

291860

日本文学特殊研究Ⅲ

生井　　知子

FLTナンバー:

授業テーマ: すぐれた文学作品を精読する。

授業の概要: 受講生と話し合いの上、とりあげる作品を決定し、それを分析していく。

到達目標: 小説の言語は、一つの単純な辞書的な意味に還元できるものではなく、様々なイメージを喚起する強い力を持っている。それをじっくりと味わい、作品の世界を豊かに立ち上げることをめざす。

授業方法: 演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
8.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
9.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
10.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
11.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
12.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
13.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
14.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
15.	ふりかえり	なし
16.	打ち合わせ(秋学期)	なし
17.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
18.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
19.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
20.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
21.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
22.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
23.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
24.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
25.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
26.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
27.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
28.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
29.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
30.	ふりかえり	なし
1.	打ち合わせ(春学期)	なし
2.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
3.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
4.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
5.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
6.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
7.	受講生による作品研究	発表準備(180分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	50	到達目標の作品の世界を的確に分析できているかを評価する
レポート	50	到達目標の作品の世界を的確に分析できているかを評価する

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: Eメール

291960

日本文学特殊研究Ⅳ

吉海　　直人

FLTナンバー:

授業テーマ: 平安朝文学を読む

授業の概要: 平安朝文学、主に源氏物語を対象としてその作品分析を行う。本文をどのように読み、そこからどのように研究へ発展させるかということに関して、引用や特殊表現に注目し、また文学史的な展望の中で問題を掘り下げていく。

到達目標: 自立して研究ができるようになることをめざす。そのために研究法の確立、問題点を発見する力、論理の展開、結論への導き方などを体得することをめざす。あわせて学位論文の執筆。

授業方法: 演習、討議方式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	発表の準備。一時間
2.	演習及び討議	発表の準備。一時間
3.	演習及び討議	発表の準備。一時間
4.	演習及び討議	発表の準備。一時間
5.	演習及び討議	発表の準備。一時間
6.	演習及び討議	発表の準備。一時間
7.	演習及び討議	発表の準備。一時間
8.	演習及び討議	発表の準備。一時間
9.	演習及び討議	発表の準備。一時間
10.	演習及び討議	発表の準備。一時間
11.	演習及び討議	発表の準備。一時間
12.	演習及び討議	発表の準備。一時間
13.	演習及び討議	発表の準備。一時間
14.	演習及び討議	発表の準備。一時間
15.	演習及び討議	発表の準備。一時間
16.	演習及び討議	発表の準備。一時間
17.	演習及び討議	発表の準備。一時間
18.	演習及び討議	発表の準備。一時間
19.	演習及び討議	発表の準備。一時間
20.	演習及び討議	発表の準備。一時間
21.	演習及び討議	発表の準備。一時間
22.	演習及び討議	発表の準備。一時間
23.	演習及び討議	発表の準備。一時間
24.	演習及び討議	発表の準備。一時間
25.	演習及び討議	発表の準備。一時間
26.	演習及び討議	発表の準備。一時間
27.	演習及び討議	発表の準備。一時間
28.	演習及び討議	発表の準備。一時間
29.	演習及び討議	発表の準備。一時間
30.	総括	論文執筆の準備。二時間

受講者へのメッセージやアドバイス: 学位取得をめざして頑張ってほしい

フィードバックの方法: 口頭発表についてはそのつど意見・批判を行う。論文については質問・相談に応じ、草稿に朱をいれて完成にむけて修正を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート（論文）	100	論文の内容によって評価する

教科書: 特になし

参考文献等: 特になし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業時及び研究室にて対応。メールでも対応する。

293160

民俗学特論

浅野　　久枝

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本における一年の暮らしと芸能

授業の概要: 全国各地には様々な祭礼や芸能がある。祭や芸能は「〇〇祭」として、それだけを取り上げられることが多い。芸能それ自体の研究も重要であるが、一年間の行事・祭礼・芸能は、それぞれの地域の自然や生業と、密接な関係にある。本講では、一年を通しての、全国各地の人々のさまざまな暮しや生産活動を取り上げ、それに関わる行事や祭礼に込められた人々の想いを追求していきたい。さらにそれらの生活の中で発生し、伝えられてきた祭礼や芸能と、芸能それ自体の発展、変容についても講じていきたい。また、日本全国の具体事例を知るために映像資料を多用する。
ただし、大学院生対象の講義であることから、受講生が少ない場合、その受講生の専門性と関わる民俗学の著作や論文をテキストにし、講読を行う場合もある。

到達目標: (1)祭や芸能が単独で存在してきたわけではなく、人々の生活の中ではぐくまれてきた民俗であることを確認できる。
(2)学生諸氏にとっては、祭礼や芸能の中にとどめられている歴史性や文学性、あるいは宗教性や芸術性に気づき、専門との関わりを持たせることができる。

授業方法: 5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:講義の進め方を説明する。受講生の人数と専門性を確認し、それによって、受講生の専門と関わりの深い書籍、論文の講読に変更することもあり得る。あるいは、春学期は講義形式にし、秋学期を講読にすることもあり得る。	自らの研究と民俗学の関わりがどのあたりにあるかを考えてくる。
2.	マクロな視点から見た日本の地域:バリエーション豊富な自然と様々な言語・文化などから、日本の南北、日本の東西、農村と山村(水田耕作と焼き畑)、中央と地方(都市と農村)などの区分について概観する。	網野善彦『東と西の語る日本の歴史』など東西を論じる書籍に目を通してみる。
3.	日本の地域(その1):雪国の暮らし	市川健夫『雪国の自然と暮らし』などに目を通してみる。
4.	日本の地域(その2):南島の暮らし	伊波普猷『をなり神の島 1』 などに目を通してみる。
5.	日本の地域(その3):山村の暮らし	湯川洋司『変容する山村－民俗再考』などに目を通してみる。
6.	日本の地域(その4):漁村の暮らし	山口徹『海の生活誌　－半島と島の暮らし』などに目を通してみる。
7.	日本の地域(その5):湖岸の暮らし	橋本鉄男『琵琶湖の民俗誌』、長谷川嘉和『近江の民具—滋賀県立琵琶湖博物館の収蔵品から』などに目を通してみる。
8.	日本の地域(その6):焼き畑をする暮らし	佐々木高明『日本の焼き畑』などに目を通してみる。
9.	日本の地域(その7):畑作民の暮らし	白石昭臣『畑作の民俗』などに目を通してみる。
10.	日本の地域(その8):狩猟民の暮らし	山村民俗の会『狩猟　－狩りの民俗と山の動物誌』などに目を通してみる。
11.	日本の地域(その9):水田耕作民の暮らし	坪井洋文『稲を選んだ日本人』などに目を通してみる。
12.	生業サイクルと四季の祭:冬から春の祭、夏の祭、秋の祭、 それぞれが持つ意味を考える。	本田安次『日本の祭と芸能』などに目を通してみる。
13.	冬から春の祭(予祝行事):愛知県花祭り、静岡県西浦田楽などの事例から	早川孝太郎『花祭り』などに目を通してみる。
14.	夏の祭(厄払い行事　その1):京都祇園会の事例から	脇田晴子『中世京都と祇園祭－疫神と都市の生活』などに目を通してみる。
15.	夏の祭(厄払い行事　その2)と盆:京都やすらい花、夏越の祓、そして馬音内盆踊りなどから	山路興造『京の歳時記　今むかし』などに目を通してみる。
16.	秋の祭(収穫感謝祭):熊本県球磨地方などの事例から	三隅治雄『踊りの宇宙－日本の民族芸能』などに目を通してみる。
17.	都市の祭(その1):滋賀県長浜市曳山祭、福井県小浜祭などの事例から	植木行宣、福原敏男『山・鉾・屋台行事—祭りを飾る民俗造形』などに目を通してみる。
18.	都市の祭(その2):大阪市天神祭、長崎くんちなどの事例から	米山俊直『天神祭－大阪の祭礼』などに目を通してみる。
19.	修験系行事:岩手県早池峰神楽、黒森神楽などの事例から	宮古市教育委員会 『黒森神楽〈資料篇〉—無形民俗文化財』などに目を通してみる。
20.	神楽:京都市太田神社巫女舞、石清水八幡宮の御神楽などの事例から	本田安次『日本の民俗芸能〈第1〉神楽 (1966年)』などに目を通してみる。
21.	言祝ぐ行事:三河万歳、秋田万歳、佐渡の春駒などから漫才へ	小沢昭一『芸人の肖像』などに目を通してみる。
22.	仏教行事(その1):当麻寺練供養、四天王寺の聖霊会などから	中村元『仏教行事散策』などに目を通してみる。
23.	仏教行事(その2　念仏・説経):京都市六歳念仏や空也堂踊躍念仏、節談説経などから	五来重『仏教と民俗　仏教民俗入門』、坂本要『民間念仏信仰の研究』などに目を通してみる。
24.	芸能の展開の道筋:これまで見てきた芸能の流れを整理する。	民俗学的視点で自らの研究を分析してみる。
25.	仏教行事(その3　教化の芝居):千葉県鬼来迎、京都市壬生狂言などから芝居へ	梅原猛、西川 照子『壬生狂言の魅力—梅原猛の京都遍歴』などに目を通してみる。
26.	唱える芸能:念仏、声明から歌へ	五来重『踊り念仏』』、坂本要『民間念仏信仰の研究』などに目を通してみる。
27.	語る芸能:青森のイタコ、そして説経節、義太夫、そして浪曲、落語	岩崎武夫『さんせう太夫考—中世の説経語り』などに目を通してみる。
28.	歌う芸能:様々な民謡と歌	町田嘉章、浅野建二『日本民謡集』などに目を通してみる。
29.	見せる芸能:江戸期に展開した芝居文化	服部幸雄『大いなる小屋 江戸歌舞伎の祝祭空間』などに目を通してみる。
30.	総括:人の暮らしと芸能の関係を整理し、確認する。	身近な芸能を調査して、まとめてみる。

受講者へのメッセージやアドバイス:	このラインナップはあくまで目安であり、それぞれの専門性に関わる分野を拡大したり、あるいは専門性に合わせた著作、論文を読む形で講義を進めることも可能である。民俗学に興味のある学生から相談を受けた場合は臨機応変に対応したい。
フィードバックの方法:	少人数であることが予想されるため、質問等には直接対応できると思われる。また、最終的なレポートは、返却の予定はないが、希望者にはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小論文	60	それぞれの専門性と関わらせて、民俗学を理解し、応用できているかどうかを、レポート内容によって評価する。
発言	40	講義時にどれだけ積極的に考え、発言したかを評価する。

教科書:

参考文献等: 準備学習等の内容に取り上げた書籍をはじめ、適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、
教員との連絡方法:	講義時に対応する。Eメールも可能。講義時にアドレスを伝える。

293260

考古学特論

山田　　邦和

FLTナンバー:

授業テーマ: 天皇陵の考古学

授業の概要: かつて考古学は「狭義の歴史学（文献史学）の補助学」であるとか、「文献が残っていない時代だけを扱う学問」であるとか思われてきたけれども、近年の考古学の進展はそのようなとらえ方がすでに過去のものになったことを如実に語ってくれている。今や、考古学の成果を抜きにしては歴史を語ることはできないのである。この講義では、考古学とはどういう学問であり、また考古学が解き明かす歴史とはどのようなものであるかを、具体例に即して理解していただく。

到達目標: 考古学の研究の方法論を、具体的な遺跡・遺物によって学ぶやりかたを理解する。また、文献史学と考古学の相互関係を、これも具体的事例をもとに理解することができるようにする。

授業方法: 本学の春学期の授業はすべて遠隔授業となった。この授業も春学期は、授業支援システム「マナビー」（主として「掲示板」「レポート」）とYoutubeの動画を利用するものとする。「マナビー」の掲示板に当日の授業の指示をするので、それにしたがって受講すること。秋学期は通常の講義形式とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	天皇陵問題とは何か	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(60分)。
2.	天皇陵の概念	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
3.	天皇陵の沿革と制度	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
4.	天皇陵研究の歴史1	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
5.	天皇陵研究の歴史2	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
6.	天皇陵研究の歴史3	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
7.	天皇陵研究の歴史4	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
8.	古墳時代前期の大王墓1	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
9.	古墳時代前期の大王墓2	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
10.	古墳時代前期の大王墓3	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
11.	古墳時代前期の大王墓4	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
12.	古墳時代中期の大王墓1	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
13.	古墳時代中期の大王墓2	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
14.	古墳時代中期の大王墓3	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
15.	古墳時代中期の大王墓4	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
16.	古墳時代後期の大王墓1	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
17.	古墳時代後期の大王墓2	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
18.	古墳時代後期の大王墓3	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
19.	飛鳥時代の天皇陵1	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。

20.	飛鳥時代の天皇陵2	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
21.	飛鳥時代の天皇陵3	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
22.	奈良時代の天皇陵1	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
23.	奈良時代の天皇陵2	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
24.	奈良時代の天皇陵3	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
25.	奈良時代の天皇陵4	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
26.	平安時代の天皇陵1	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
27.	平安時代の天皇陵2	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
28.	平安時代の天皇陵3	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
29.	平安時代の天皇陵4	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
30.	まとめ	授業での内容をまとめなおしておくこと(60分)。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
大リポート	50	到達目標を理解した上で、自分がどの立場を取るのかを明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とする。そして、考古学の研究の方法論を、具体的な遺跡・遺物によって学ぶやりかたを理解するとともに、文献史学と考古学の相互関係を、これも具体的事例をもとに理解することができたかどうか。
平常点	30	積極的に授業に参加したかどうか。受講を通じて、考古学の研究の方法論を、具体的な遺跡・遺物によって学ぶやりかたを理解するとともに、文献史学と考古学の相互関係を、これも具体的事例をもとに理解することができたかどうか。
ミニ・リポート	20	到達目標を理解した上で、自分がどの立場を取るのかを明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とする

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: FZK06736@nifty.ne.jp
「マナビー」のリマインダ機能を設定し、掲示板・個別指導を常時確認しておくこと。

293660

日本語教育学特論Ⅰ

山本　　由紀子

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

平成30年・31年に文化庁が発表した「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」により、約20年ぶりに日本語教育人材の資質・能力が見直された。まずは、この報告書で示された枠組みや各分野の日本語教育人材に求められる資質・能力を理解する。その上で、海外で教える日本語教師に焦点を当て、各国・地域で求められる日本語教師の資質・能力の異同を、各種調査・先行研究を通して理解する。

到達目標:

①日本語教育人材の資質・能力に関わる知識を得る。（知識・理解）
②活躍の場により異なる日本語教育人材の資質・能力の差異について関心をもち、説明しようとする（関心・意欲・態度）
③海外で教える日本語教育人材に関する調査や先行研究のレビューをまとめることができる。（表現・技能）

授業方法:

講義と発表、それらに関するディスカッションを中心とする。
指定する報告書・図書中の担当箇所や論文を精読し、その要約をレジュメにまとめて説明する。
その上で内容についてディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・授業の概要説明 ・各自の研究テーマの紹介	シラバスを読んでおく。 各自の研究テーマについて説明できるよう準備をしておく。（1時間）
2.	講義:『在り方』報告書について	『在り方』の該当箇所に目を通しておく。（1時間）
3.	講義:『在り方』報告書について	『在り方』の該当箇所に目を通しておく。（1時間）
4.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。（1時間）
5.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。（1時間）
6.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。（1時間）
7.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。（1時間）
8.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。（1時間）
9.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。（1時間）
10.	まとめ 担当（国・地域）の決定	担当国検討のため、参考文献調べや当該国の日本語教育の概況等について下調べしておく。（2時間）
11.	担当者による報告とディスカッション 海外の日本語教育	国際交流基金HPで「世界の日本語教育機関調査」報告書の該当ページに目を通しておく。（2時間）
12.	担当者による報告とディスカッション 海外の日本語教育	発表準備。 担当者以外も国際交流基金HPで「世界の日本語教育機関調査」報告書の該当ページに目を通しておく。（2時間）
13.	担当者による報告とディスカッション 海外の日本語教育	発表準備。 担当者以外も国際交流基金HPで「世界の日本語教育機関調査」報告書の該当ページに目を通しておく。（2時間）
14.	担当者による報告とディスカッション 海外の日本語教育	発表準備。 担当者以外も国際交流基金HPで「世界の日本語教育機関調査」報告書の該当ページに目を通しておく。（2時間）
15.	担当者による報告とディスカッション 海外の日本語教育	発表準備。 国際交流基金HPで「世界の日本語教育機関調査」報告書の該当ページに目を通しておく。（2時間）
16.	秋学期の概要説明 講義:レビュー論文について等	シラバスに目を通す。（10分）
17.	講義:台湾の日本語教育	関連資料・文献を読んでおく。（2時間）
18.	講義:台湾の日本語教育	関連資料・文献を読んでおく。（2時間）
19.	講義:台湾の日本語教育	指定のVTR等に目を通しておく。（2時間）
20.	講義:台湾の日本語教育	関連資料・文献等を読んでおく。（2時間）
21.	ディスカッション:台湾の日本語教育	関連資料・文献等を読んでおく。（2時間）
22.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。 （2時間）
23.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。（2時間）
24.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。（2時間）
25.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。（2時間）
26.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。（2時間）
27.	講義:レビューの作成	論文に目を通しておく。（2時間）
28.	レビューの作成	各自レビュー作成の準備。（2時間）
29.	レビューの作成	各自レビュー作成を進める。（2時間）
30.	まとめ	今学期の学びをふりかえっておく。（1時間）

受講者へのメッセージやアドバイス:

日本語教育の視点から世界や社会の情勢に関心を持ち常に情報にアンテナを張ってください。
また、日本語学習者や日本語教育現場に積極的に関わることにより、日本語教師に求められるものを体感的にも理解するよう努めてほしいです。

フィードバックの方法:

授業中および授業前後のフィードバックを基本とする。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表、討論	40	発表や討論に関して、到達目標①②③の観点から理解度や態度、技能を評価する。
レポート	40	到達目標③の観点から、レポートの仕上がり度合いを評価する。
授業への参加度	20	授業に積極的に参加し、ディスカッションにおいて到達目標①②をふまえた発言ができているかを評価する。

教科書:

参考文献等:

平畑奈美(2014)『「ネイティブ」とよばれる日本語教師』春風社
水谷修監修(2009)『日本語教師の過去・現在・未来　第2巻 「教師」』凡人社
浅田匡他編著(1998)『成長する教師――教師学への誘い』金子書房
ドナルド・ショーン著、佐藤学・秋田喜代美訳(2001)『専門家の知恵　反省的実践家は行為しながら考える』ゆるみ出版
文化庁(2019)「日本語教育人材の養成・研修の在り方(報告)改訂版」

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

研究室:D210
メール:yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

293760

日本語教育学特論Ⅱ

奥村　　訓代

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語教育学研究

授業の概要: 日本語・日本人・日本文化を多言語・多民族・多文化と比較することで再確認する。

到達目標: 日本語教師のみならず、言語や文化に興味のある方に、新たな言葉と文化の面白みを感じ取ってもらいたい。そして世界の人々とのコミュニケーションに役立つ専門知識の習得を目指す。

授業方法: 講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションと日常生活と言葉の話	特になし 次週のための課題有り （マナビー予習1時間程度必要）
2.	課題に関するQ&A （1）	マナビーの指示に従う
3.	課題に関するQ&A （2）	マナビーの指示に従う
4.	課題に関するQ&A （3）	マナビーの指示に従う
5.	課題に関するQ&A （4）	マナビーの指示に従う
6.	課題に関するQ&A （5）	マナビーの指示に従う
7.	課題に関するQ&A （6）	マナビーの指示に従う
8.	課題に関するQ&A （7）	マナビーの指示に従う
9.	課題に関するQ&A （8）	マナビーの指示に従う
10.	課題に関するQ&A （9）	マナビーの指示に従う
11.	課題に関するQ&A （10）	マナビーの指示に従う
12.	課題に関するQ&A （11）	マナビーの指示に従う
13.	課題に関するQ&A （12）	マナビーの指示に従う
14.	課題に関するQ&A （13）	マナビーの指示に従う
15.	前期　纏めと復習	マナビーの指示に従う
16.	後期　課題に関するQ&A （1）	マナビーの指示に従う
17.	課題に関するQ&A （2）	マナビーの指示に従う
18.	課題に関するQ&A （3）	マナビーの指示に従う
19.	課題に関するQ&A （4）	マナビーの指示に従う
20.	課題に関するQ&A （5）	マナビーの指示に従う
21.	課題に関するQ&A （6）	マナビーの指示に従う
22.	課題に関するQ&A （7）	マナビーの指示に従う
23.	課題に関するQ&A （8）	マナビーの指示に従う
24.	課題に関するQ&A （9）	マナビーの指示に従う
25.	課題に関するQ&A （10）	マナビーの指示に従う
26.	課題に関するQ&A （11）	マナビーの指示に従う
27.	課題に関するQ&A （12）	マナビーの指示に従う
28.	課題に関するQ&A （13）	マナビーの指示に従う
29.	課題に関するQ&A （14）	マナビーの指示に従う
30.	後期　まとめと発表	まとめ

受講者へのメッセージやアドバイス: 日本語・日本文化・日本人再発見を一緒にしませんか？！

フィードバックの方法: マナビーによる課題

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題追及度	40	各自の課題に対する発表、まとめ、プレゼン
授業参加度	30	授業課題に対する準備・予習
授業態度など	30	授業に対する姿

教科書: 特になし
必要に応じて、授業中に指示します。

参考文献等: 先行研究（論文）を読む。
その他、必要に応じて授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: 非常勤講師控え室に来てください。

293960

日本文学特別研究Ⅳ

吉海　　直人

FLTナンバー:

授業テーマ: 平安朝文学を読む

授業の概要: 平安朝文学、主に源氏物語を対象としてその作品分析を行う。本文をどのように読み、そこからどのように研究へ発展させるかということに関して、引用や特殊表現に注目し、また文学史的な展望の中で問題を掘り下げていく。

到達目標: 自立して研究ができるようになることをめざす。そのために研究法の確立、問題点を発見する力、論理の展開、結論への導き方などを体得することをめざす。あわせて学位論文の執筆。

授業方法: 演習、討議方式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	発表の準備。二時間
2.	演習及び討議	発表の準備。一時間
3.	演習及び討議	発表の準備。一時間
4.	演習及び討議	発表の準備。一時間
5.	演習及び討議	発表の準備。一時間
6.	演習及び討議	発表の準備。一時間
7.	演習及び討議	発表の準備。一時間
8.	演習及び討議	発表の準備。一時間
9.	演習及び討議	発表の準備。一時間
10.	演習及び討議	発表の準備。一時間
11.	演習及び討議	発表の準備。一時間
12.	演習及び討議	発表の準備。一時間
13.	演習及び討議	発表の準備。一時間
14.	演習及び討議	発表の準備。一時間
15.	演習及び討議	発表の準備。一時間
16.	演習及び討議	発表の準備。一時間
17.	演習及び討議	発表の準備。一時間
18.	演習及び討議	発表の準備。一時間
19.	演習及び討議	発表の準備。一時間
20.	演習及び討議	発表の準備。一時間
21.	演習及び討議	発表の準備。一時間
22.	演習及び討議	発表の準備。一時間
23.	演習及び討議	発表の準備。一時間
24.	演習及び討議	発表の準備。一時間
25.	演習及び討議	発表の準備。一時間
26.	演習及び討議	発表の準備。一時間
27.	演習及び討議	発表の準備。一時間
28.	演習及び討議	発表の準備。一時間
29.	演習及び討議	発表の準備。一時間
30.	総括	論文執筆の準備。一時間

受講者へのメッセージやアドバイス: 学位取得をめざして頑張ってほしい

フィードバックの方法: 口頭発表についてはそのつど意見・批判を行う。論文については質問・相談に応じ、草稿に朱をいれて完成にむけて修正を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート（論文）	100	論文の内容によって評価する

教科書: 特になし

参考文献等: 特になし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業時及び研究室にて対応。メールでも対応する。

295060

日本語特別研究Ⅰ

森山　　由紀子

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語の歴史語用論的研究

授業の概要: 日本語の歴史語用論に関する諸問題を取り上げ考察する。

到達目標: それぞれの関心に基づいて設定したテーマに関して考察し、論文にまとめる。

授業方法: 論文講読と対話と調査研究の検討による

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	問題設定についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分)
2.	問題設定についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分)
3.	問題設定についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分)
4.	問題設定についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分)
5.	問題設定についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分)
6.	リサーチ方法についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分)
7.	リサーチ方法についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分)
8.	リサーチ方法についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分)
9.	リサーチ方法についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分)
10.	リサーチ方法についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分)
11.	リサーチ方法についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分)
12.	リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分)
13.	リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
14.	リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
15.	リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上
16.	リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
17.	リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
18.	リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
19.	リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
20.	リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
21.	リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
22.	リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
23.	リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
24.	リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
25.	リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
26.	レポート執筆指導	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
27.	レポート執筆指導	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
28.	レポート執筆指導	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
29.	レポート執筆指導	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)
30.	レポート執筆指導	各自必要と思われる準備を考え、準備してくること。(15分以上)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業時およびいつでも研究室にて対応します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業時の報告資料とディスカッション	50%	適切に情報を処理できているか。自ら考えて資料を作成できているか。主体的に考察できているか。
レポート	50%	リサーチクエスチョンは的確か。問題を解決するための方法は適切か。推論の根拠となる事実の検討とは適切か。論理的に整合性があり首尾一貫した文章で論述できているか。先行研究の検討は適切か。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力、
教員との連絡方法:	Emailまたは来室

295160

日本語特別研究Ⅱ

丸山　　敬介

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語教育と社会の動きを読み取る。

授業の概要: 社会の動きによって日本語教育がどのように変わってきたかを、制度・学習者・教師・教材・学習内容・指導法などの点から考察する。当然そこには現実の社会の動きのみならず、日本語教育の周辺領域の変化も加わることとなるが、そうしたものにも目を向けていく。

到達目標: 学位論文の執筆ができるだけの知見と洞察力の獲得、それを論として構成し表出する力の育成を目指す。

授業方法: 演習、討議方式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	発表の準備。学外学習時間60分以上。
2.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
3.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
4.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
5.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
6.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
7.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
8.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
9.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
10.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
11.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
12.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
13.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
14.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
15.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
16.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
17.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
18.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
19.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
20.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
21.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
22.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
23.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
24.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
25.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
26.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
27.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
28.	演習及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
29.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
30.	総括	論文執筆の準備。学外学習時間60分以上。

受講者へのメッセージやアドバイス: 博士課程で学ぶことの意味を自覚し、当初の目標の実現に一歩でも近づいてもらいたい。

フィードバックの方法: 授業中のテーマをめぐるやり取りについては教師も指導者としてではなく討論者の一人として加わる。そうした議論を通してフィードバックとしたい。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	この課程としてふさわしい視点と内容・構成を持っているかを評価する。

教科書: 都度の指示

参考文献等: 都度の指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

295260

日本文学特別研究Ⅰ

生井　　知子

FLTナンバー:

授業テーマ: 作家の創作の秘密に迫る

授業の概要: 近代の作家を対象とし、文学作品がどのような精神の営みによって生み出されたのかを掘り下げていく。

到達目標: 自立した研究者として作家・作品と向き合えるようになることを目指す。

授業方法: 演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
18.	演習	発表の準備(180分)
19.	演習	発表の準備(180分)
20.	演習	発表の準備(180分)
21.	演習	発表の準備(180分)
22.	演習	発表の準備(180分)
23.	演習	発表の準備(180分)
24.	演習	発表の準備(180分)
25.	演習	発表の準備(180分)
26.	演習	発表の準備(180分)
27.	演習	発表の準備(180分)
28.	演習	発表の準備(180分)
29.	演習	発表の準備(180分)
30.	おわりに	今後の課題について考えてくること(60分)
1.	打ち合わせ(春学期)	研究したい作家について考えてくること(60分)
2.	演習	発表の準備(180分)
3.	演習	発表の準備(180分)
4.	演習	発表の準備(180分)
5.	演習	発表の準備(180分)
6.	演習	発表の準備(180分)
7.	演習	発表の準備(180分)
8.	演習	発表の準備(180分)
9.	演習	発表の準備(180分)
10.	演習	発表の準備(180分)
11.	演習	発表の準備(180分)
12.	演習	発表の準備(180分)
13.	演習	発表の準備(180分)
14.	演習	発表の準備(180分)
15.	演習	発表の準備(180分)
16.	打ち合わせ(秋学期)	なし
17.	演習	発表の準備(180分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	レポートが研究としてのレベルに達しているかどうかで評価する

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: メール

295960

日本語学特論Ⅰ

大島　　中正

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語学をつくった人たち

授業の概要: 日本語研究におおきな足跡をのこした人物について考究する。

到達目標:
①文献を探索する能力をやしなう。
②文献の内容を適切に評価する能力をやしなう。
③適正な日本語で表現・伝達する能力にみがきをかける。

授業方法: 受講者との議論を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	日本語学史の概要	指示された課題にとりくむ。60分以上
3.	日本語学史の概要	指示された課題にとりくむ。60分以上
4.	日本語学史の概要	指示された課題にとりくむ。60分以上
5.	日本語学史の概要	指示された課題にとりくむ。60分以上
6.	基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
7.	基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
8.	基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
9.	基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
10.	基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
11.	基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
12.	基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
13.	基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
14.	基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
15.	基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
16.	受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
17.	受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
18.	受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
19.	受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
20.	受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
21.	受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
22.	受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
23.	受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
24.	学期末レポートのテーマの決定	指示された課題にとりくむ。60分以上
25.	学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。60分以上
26.	学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。60分以上
27.	学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。60分以上
28.	学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。60分以上
29.	学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。60分以上
30.	総まとめ	指示された課題にとりくむ。60分以上

受講者へのメッセージやアドバイス: 諸先学の研究成果を貪欲に吸収していきましょう。

フィードバックの方法: 適宜、個別にまたは全体に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末レポート	50	到達目標による。
授業時の報告	50	到達目標による。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、、変化対応力、自己管理力、

教員との連絡方法: E メール、面談。

296460

日本文学特論Ⅰ

中川　　成美

FLTナンバー:

授業テーマ:　日本近現代文学研究の方法と実践ー文学と戦争

授業の概要:　19世紀半ばから現在に及ぶ長い期間に生成した日本近代文学の諸作品を読みながら、その研究と方法について考えます。明治初期に発生した日本近代文学と呼ばれる範疇は、もはや150年ちかくの歴史を持つこととなった。本授業では、その歴史をたどりながら、作品がもつ文学的喚起力を手掛かりに、文学研究の方法を学びます。
　具体的には受講生が教科書から任意に作品を選択して、それを基盤に文学分析の様々な方法にアプローチします。特に文学理論の応用をどのように考えていけばいいかについてじっくりと考えていきたいと思います。
　受講生は本授業の履修を通じて、文学研究とは何か、という根源的な問題について考えていってもらいたいと望んでいます。

到達目標:　受講生各自が文学研究の目的と、その実践について深い認識を得ること。
文学読解の方法を通じて文学研究の目的を考えること

授業方法:　講義と発表、ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
30.	総合討議	後期レポート作成準備　　5時間
1.	日本近現代文学の流れ1 明治期文学と近代化への目覚め	日本近代文学史の概略を学習するために、簡単な参考書を予習する　1時間
2.	日本近現代文学の流れ2 大正期から昭和期の文学勃興期	日本近代文学史の概略を学習するために、簡単な参考書を予習する　1時間
3.	日本近現代文学の流れ3 昭和文学と戦争	日本近代文学史の概略を学習するために、簡単な参考書を予習する　1時間
4.	日本近現代文学の流れ4 近現代文学における戦争表象	日本近代文学史の概略を学習するために、簡単な参考書を予習する　1時間
5.	日本近現代文学の流れ5 同時代文学とヒューマニティ	日本近代文学史の概略を学習するために、簡単な参考書を予習する　1時間
6.	プレゼンテーション1 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
7.	プレゼンテーション2 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
8.	プレゼンテーション3 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
9.	プレゼンテーション4 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
10.	プレゼンテーション5 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
11.	プレゼンテーション6 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
12.	プレゼンテーション7 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
13.	プレゼンテーション8 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
14.	プレゼンテーション9 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間」
15.	総合討議	前期末レポート作成の準備　5時間
16.	日本文学研究と文学理論1 戦争論	文学理論の読解のための参考文献を予習する　2時間
17.	日本文学研究と文学理論2 文体論	文学理論の読解のための参考文献を予習する　2時間
18.	日本文学研究と文学理論3 構造主義からポスト構造主義へ	文学理論の読解のための参考文献を予習する　2時間
19.	日本文学研究と文学理論4 ジェンダー理論	文学理論の読解のための参考文献を予習する　2時間
20.	日本文学研究と文学理論5 ポストコロニアル理論	文学理論の読解のための参考文献を予習する　2時間
21.	プレゼンテーション1 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
22.	プレゼンテーション2 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
23.	プレゼンテーション3 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
24.	プレゼンテーション4 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
25.	プレゼンテーション5 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
26.	プレゼンテーション6 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備
27.	プレゼンテーション7 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
28.	プレゼンテーション8 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間
29.	プレゼンテーション9 （発表と共同討議）	発表準備とディスカッションの準備　2時間

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業では日本文学における戦争の問題を研究するということがどのような意味を持ち、またその実践に向けてどのような基礎知識を学習しなければならないかについて勉強します。自分の主たる研究テーマに沿って、受講生は自由にそのテーマを考えてゆくとともに、具体的な作品分析の方法についても学びます。毎授業時に出たトピックについて、毎回それを身に付けていくスキルを獲得してください。

フィードバックの方法:　学生自身の専攻分野を問わず、各自の修士論文に資するように、研究技能の習得を目指します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業の参加度	50	授業の出席、課題の進捗状況などを加味して総合的に判断する
各期末レポート	30	
発表	20	

教科書:　中川成美『戦争をよむ―70冊の小説案内』(岩波新書、2017)

参考文献等:　受講時に各自に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、文学理論の読解力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業時に指示します

296560

日本文学特論Ⅱ

大津　　直子

FLTナンバー:

授業テーマ: 『源氏物語』の研究手法を学び、学術論文を執筆する

授業の概要: 一年間を通して学術論文を作成します。

到達目標:
①作品を正確に読み取ることが出来る
②先行研究を正確に読み取り、整理することが出来る
③問いを立てることが出来る
④問いを解決することが出来る
⑤　①～④を文章化することが出来る

授業方法: Teams、マナビ―、メールを通した遠隔演習を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	なし
2.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ①	前回の内容の振り返りをする(20分)
3.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ②	前回の内容の振り返りをする(20分)
4.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ③	前回の内容の振り返りをする(20分)
5.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ④	前回の内容の振り返りをする(20分)
6.	個人面談	前回の内容の振り返りをする(20分)
7.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(20分)
8.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(20分)
9.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(20分)
10.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(20分)
11.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(20分)
12.	中間報告①	進捗状況を発表する(120分)
13.	中間報告②	中間報告①をふまえて再度発表をする(120分)
14.	中間報告③	中間報告②をふまえて再度発表をする(120分)
15.	夏休み中の研究の目標をたて、共有する	夏休み中に論文を執筆する(一度目・60分)
16.	相互添削	夏休み中に執筆した論文を持参する(60分)
17.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ⑤	前回の内容の振り返りをする(60分)
18.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ⑥	前回の内容の振り返りをする(60分)
19.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ⑦	前回の内容の振り返りをする(60分)
20.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ⑧	前回の内容の振り返りをする(60分)
21.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(60分)
22.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(60分)
23.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(60分)
24.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(60分)
25.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(60分)
26.	推敲①	執筆した論文を持参する(１２０分)
27.	推敲②	前回推敲した論文を持参する(60分)
28.	推敲③	前回推敲した論文を持参する(60分)
29.	合評会	前回推敲した論文を持参する(60分)
30.	ふりかえり	前回推敲した論文を持参する(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス:
本講座は、論文の執筆を目的としています。
京都近辺で行われる学会や研究会に出かけ、発表の形式や質疑応答の様子を見て学ぶことを推奨します。
(学会や研究会の情報は授業中に伝えます。)

※内容は履修者に断りを入れたうえで柔軟に変更する場合があります。

フィードバックの方法: 授業中に行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
論文	100	学術論文としてのルールを守り、基準を満たしているかを評価します。

教科書: なし

参考文献等: 受講者の関心に合わせて適宜指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
(春学期)Teams上のチャット欄
(秋学期)火曜日の3限と4限
上記をオフィスアワーとします。お気軽に研究室にお立ち寄りください。
また、メールでの質問も受け付けます。(メールアドレスは授業時に開示します。)

296700

再現芸術論Ⅱ

井原　　秀人

FLTナンバー:

授業テーマ: オペラ作品の歌唱とその表現

授業の概要: オペラ作品のアリア、重唱の歌唱、演技を通じて音楽作品再現時に、自分自身の個性と音楽スタイルの調和をどう図るか演習・演唱を通じて考察する。

到達目標: 作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高める。

授業方法: 演習・演唱・ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、及び声質に合う曲目の選択。	
2.	モーツァルト作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
3.	モーツァルト作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
4.	モーツァルト作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
5.	モーツァルト作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
6.	モーツァルト作品⑤	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
7.	ロッシーニ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
8.	ロッシーニ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
9.	ロッシーニ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
10.	ロッシーニ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
11.	ドニゼッティ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
12.	ドニゼッティ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
13.	ドニゼッティ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
14.	ドニゼッティ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の研究発表までに修正しておくこと。(60分以上)
15.	研究発表	
16.	ヴェルディ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
17.	ヴェルディ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
18.	ヴェルディ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
19.	ヴェルディ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
20.	プッチーニ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
21.	プッチーニ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
22.	プッチーニ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
23.	プッチーニ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
24.	プッチーニ作品⑤	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)

25.	各自の個性に合った作品研究①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
26.	各自の個性に合った作品研究②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
27.	各自の個性に合った作品研究③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
28.	各自の個性に合った作品研究④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
29.	各自の個性に合った作品研究⑤	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の研究発表までに修正しておくこと。(60分以上)
30.	研究発表	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	60%	積極的に授業に参加し、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。
研究発表	40%	研究発表により、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。

教科書: その都度指定する。

参考文献等: 授業内で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

297100

音楽理論特論Ⅰ

成田　　和子

FLTナンバー:

授業テーマ: 非和声音を含む四声体和声

授業の概要: 非和声音を用いたバス課題とソプラノ課題の実習

到達目標: 正確かつ美しい四声体和声を書くスキルを習得

授業方法: 課題実習、個別指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の概要の説明と準備	準備(60分)
2.	個別指導1	課題実習(180分)
3.	個別指導2	課題実習(180分)
4.	個別指導3	課題実習(180分)
5.	個別指導4	課題実習(180分)
6.	個別指導5	課題実習(180分)
7.	個別指導6	課題実習(180分)
8.	個別指導7	課題実習(180分)
9.	個別指導8	課題実習(180分)
10.	個別指導9	課題実習(180分)
11.	個別指導10	課題実習(180分)
12.	個別指導11	課題実習(180分)
13.	個別指導12	課題実習(180分)
14.	個別指導13	課題実習(180分)
15.	個別指導14	課題実習(180分)
16.	個別指導15	課題実習(180分)
17.	個別指導16	課題実習(180分)
18.	個別指導17	課題実習(180分)
19.	個別指導18	課題実習(180分)
20.	個別指導19	課題実習(180分)
21.	個別指導20	課題実習(180分)
22.	個別指導21	課題実習(180分)
23.	個別指導22	課題実習(180分)
24.	個別指導23	課題実習(180分)
25.	個別指導24	課題実習(180分)
26.	個別指導25	課題実習(180分)
27.	個別指導26	課題実習(180分)
28.	個別指導27	課題実習(180分)
29.	個別指導28	課題実習(180分)
30.	総合	課題実習(180分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 和声法I、和声法II、和声法II、和声法IV、和声法V、和声法VI、和声法VII、和声法VIIIの内容を理解していることが望ましい。

フィードバックの方法: 毎回の授業でフィードバック

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題実習	80	
平常点	20	学習態度による平常点

教科書: 和声—理論と実習 III (音楽之友社)
Henri Challan著　380 Basses et chants donnés / 第9巻 9a Textes(Leduc)
Henri Challan著　380 Basses et chants donnés / 第10巻10a Textes第10巻(Leduc)

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、構成力

教員との連絡方法: マナビーなど

297200

音楽理論特論Ⅱ

椎名　　亮輔

FLTナンバー:

授業テーマ: スペイン音楽研究

授業の概要: スペイン音楽の歴史は、ローマ帝国の植民地だった古代から始まり、イスラム教徒たちによる占領時代のアラビア音楽の影響、多くのロマの人々の存在によるジプシー音楽の影響、そして地域ごとに非常に特色のある民俗音楽の展開、そして近現代におけるヨーロッパ近隣諸国からの影響などで、非常に複雑なものとなっている。そのような複雑な音楽史を通史的考察により把握しようと試みる。

到達目標: 知識・理解:英語による読解によってスペイン音楽史を理解する。
関心・意欲・態度:毎回の予習復習によって授業内容を深める。
表現・技能・能力:最終レポートによって自らの知識をまとめる。

授業方法: Gilbert Chase, The Music of Spain (Dover, 1960)を読み進めて行く。必要に応じて参考資料などを配布し、視聴覚資料についても当該機器を活用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入:スペイン音楽	スペイン音楽についての興味を探る。(60分)
2.	テクスト講読。「ルネサンス時代の世俗音楽」1	「ルネサンス時代の世俗音楽」1の部分を読んでおく。(60分)
3.	テクスト講読。「ルネサンス時代の世俗音楽」2	「ルネサンス時代の世俗音楽」2の部分を読んでおく。(60分)
4.	テクスト講読。「「ルネサンス時代の世俗音楽」3	「ルネサンス時代の世俗音楽」3の部分を読んでおく。(60分)
5.	テクスト講読。「初期ギターの巨匠たち」1	「初期ギターの巨匠たち」1の部分を読んでおく。(60分)
6.	テクスト講読。「初期ギターの巨匠たち」2	「初期ギターの巨匠たち」2の部分を読んでおく。(60分)
7.	テクスト講読。「初期ギターの巨匠たち」3	「初期ギターの巨匠たち」3の部分を読んでおく。(60分)
8.	テクスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」1	「オルガン奏者と音楽理論家」1を読んでおく。(60分)
9.	テクスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」2	「オルガン奏者と音楽理論家」2を読んでおく。(60分)
10.	テクスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」3	「オルガン奏者と音楽理論家」3を読んでおく。(60分)
11.	テクスト講読。「スカルラッティを中心として」1	「スカルラッティを中心として」1を読んでおく。(60分)
12.	テクスト講読。「スカルラッティを中心として」2	「スカルラッティを中心として」2を読んでおく。(60分)
13.	テクスト講読。「スカルラッティを中心として」3	「スカルラッティを中心として」3を読んでおく。(60分)
14.	テクスト講読。「アルベニスとグラナドス」1	「アルベニスとグラナドス」1を読んでおく。(60分)
15.	テクスト講読。「アルベニスとグラナドス」2	「アルベニスとグラナドス」2を読んでおく。(60分)
16.	テクスト講読。「アルベニスとグラナドス」3	「アルベニスとグラナドス」3を読んでおく。(60分)
17.	テクスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」1	「マヌエル・デ・ファリャ」1を読んでおく。(60分)
18.	テクスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」2	「マヌエル・デ・ファリャ」2を読んでおく。(60分)
19.	テクスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」3	「マヌエル・デ・ファリャ」3を読んでおく。(60分)
20.	テクスト講読。「若い世代」1	「若い世代」1を読んでおく。(60分)
21.	テクスト講読。「若い世代」2	「若い世代」2を読んでおく。(60分)
22.	テクスト講読。「若い世代」3	「若い世代」3を読んでおく。(60分)
23.	テクスト講読。「名演奏家たち」1	「名演奏家たち」1を読んでおく。(60分)
24.	テクスト講読。「名演奏家たち」2	「名演奏家たち」2を読んでおく。(60分)
25.	テクスト講読。「名演奏家たち」3	「名演奏家たち」3を読んでおく。(60分)
26.	テクスト講読。「イベリアの民族音楽」1	「イベリアの民族音楽」1を読んでおく。(60分)
27.	テクスト講読。「イベリアの民族音楽」2	「イベリアの民族音楽」2を読んでおく。(60分)
28.	テクスト講読。「イベリアの民族音楽」3	「イベリアの民族音楽」3を読んでおく。(60分)
29.	テクスト講読。「1941年以後のスペイン音楽」1	「1941年以後のスペイン音楽」1を読んでおく。(60分)
30.	テクスト講読。「1941年以後のスペイン音楽」2	「1941年以後のスペイン音楽」2を読んでおく。(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: レポートについては、可能な範囲で、コメントおよび解説をする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	到達目標に達しているかどうかで評価する
授業への積極的参加	50	授業へ積極的に参加しているかどうかで評価する

教科書: プリント

参考文献等: 講義時に適宜必要に応じ指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール:rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

298700

芸術文化特殊研究Ⅵ

椎名　　亮輔

FLTナンバー:

授業テーマ: 音楽美学研究

授業の概要: 哲学的観点から音楽美学を捉え直す方法を探る。そのために、哲学と芸術、哲学と音楽(美学)の接点において重要な役割を果たした著作を、なるべく原文(最低限、英文)によって読み解いてゆく。具体的には、ショーペンハウアー、ニーチェ、ベルグソン、フッサール、ハイデッガー、ズッカーカンドル、ダールハウス、ダニエル・シャルルなどの著作から適宜選択する。

到達目標: 知識・理解:テクストの講読によって哲学的観点による音楽美学を理解する。
関心・意欲・態度:毎回の予習復習によって関心をもって学習する。
表現・技能・能力:学習によって得られた知識にもとづき自らの思考を構築する。

授業方法: テクスト(主に英文)の講読と討論。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入とテクスト選定。	自らの音楽美学的興味について考えておく。(30分)
2.	講読(テクスト1～3頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト1～3頁部分を読んでおく。(60分)
3.	講読(テクスト4～6頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト4～6頁部分を読んでおく。(60分)
4.	講読(テクスト7～9頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト7～9頁部分を読んでおく。(60分)
5.	講読(テクスト10～12頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト10～12頁部分を読んでおく。(60分)
6.	講読(テクスト13～15頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト13～15頁部分を読んでおく。(60分)
7.	講読(テクスト16～18頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト16～18頁部分を読んでおく。(60分)
8.	講読(テクスト19～21頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト19～21頁部分を読んでおく。(60分)
9.	講読(テクスト22～24頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト22～24頁部分を読んでおく。(60分)
10.	講読(テクスト25～27頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト25～27頁部分を読んでおく。(60分)
11.	講読(テクスト28～30頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト28～30頁部分を読んでおく。(60分)
12.	講読(テクスト31～33頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト31～33頁部分を読んでおく。(60分)
13.	講読(テクスト34～36頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト34～36頁部分を読んでおく。(60分)
14.	講読(テクスト37～39頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト37～39頁部分を読んでおく。(60分)
15.	講読(テクスト40～42頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト40～42頁部分を読んでおく。(60分)
16.	講読(テクスト43～45頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト43～45頁部分を読んでおく。(60分)
17.	講読(テクスト46～48頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト46～48頁部分を読んでおく。(60分)
18.	講読(テクスト49～51頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト49～51頁部分を読んでおく。(60分)
19.	講読(テクスト52～54頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト52～54頁部分を読んでおく。(60分)
20.	講読(テクスト55～57頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト55～57頁部分を読んでおく。(60分)
21.	講読(テクスト58～60頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト58～60頁部分を読んでおく。(60分)
22.	講読(テクスト61～63頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト61～63頁部分を読んでおく。(60分)
23.	講読(テクスト64～66頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト64～66頁部分を読んでおく。(60分)
24.	講読(テクスト67～69頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト67～69頁部分を読んでおく。(60分)
25.	講読(テクスト70～72頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト70～72頁部分を読んでおく。(60分)
26.	講読(テクスト73～75頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト73～75頁部分を読んでおく。(60分)
27.	講読(テクスト76～78頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト76～78頁部分を読んでおく。(60分)
28.	講読(テクスト79～81頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト79～81頁部分を読んでおく。(60分)
29.	講読(テクスト82～84頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト82～84頁部分を読んでおく。(60分)
30.	講読(テクスト85～87頁部分の訳読と解説・議論)	テクスト85～87頁部分を読んでおく。(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: レポートについては、可能な範囲で、コメント・解説をする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	到達目標に達しているかどうかで評価する。
授業への積極的参加	50	授業へ積極的に参加しているかどうかで評価する。

教科書: プリント

参考文献等: 適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール:rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

390460

日本語特殊研究Ｖ

森山　　由紀子

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語の配慮表現に関する研究

授業の概要: 日本語の配慮表現に関わる最新の論文を読み、研究の動向を知ると同時に、論文の読み方を学び、仮に設定したテーマに関わるレビューを作成する

到達目標:
①日本語の配慮表現についての知識を得る。（知識・理解）
②身近な日本語の配慮表現について関心をもち、説明できるようにする（関心・意欲・態度）
③日本語の配慮表現に関する論文のサマリーを簡潔にまとめることができる。（表現・技能）

授業方法: 講義とディスカッションを中心に進める。説明を聞いた上で、各自が担当する論文を精読してきた上で要約して説明し、その内容についてディスカッションを行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス・担当決め	特になし
2.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
3.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
4.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
5.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
6.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
7.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
8.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
9.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
10.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
11.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
12.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
13.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
14.	春学期講読分のまとめ１	特になし
15.	春学期講読分のまとめ２	特になし
16.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
17.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
18.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
19.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
20.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
21.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
22.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
23.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
24.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。（15分）
25.	秋学期講読分のまとめ	特になし
26.	年間講読分のまとめ	特になし
27.	仮想の課題についての「レビュー」を各	レビュー原案の作成（15分）
28.	レビュー（レポート）作成指導	レビュー原案の作成（15分）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業中に解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加と貢献度	50%	各授業の発表や質疑応答により、到達目標①②の達成度を評価する。
レポート	50%	レポートにより、到達目標③の達成度を評価する。

教科書:

参考文献等：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、
教員との連絡方法：	Eメールによる（アドレスは授業時に開示する）

390800

日本文化特論

宮腰　　直人

FLTナンバー:

授業テーマ: 女訓・往来物の研究—女筆に注目して

授業の概要: 本授業では、17世紀から18世紀にかけての女訓書や往来物への取り組みを通して、文化研究のための基礎力を身につけることを目標とする。諸本の調査やテクストの翻刻と語釈などの資料を理解するための手法と、前近代の女性に関する文化研究の批判的読解、各自のテーマにそくした文化研究という三つの柱で進めていく。

到達目標: 各自の研究をすすめるための古典籍資料の扱いができるようになる。近年の多様な文化研究の動向を文学研究および歴史学、前近代の女性史、ジェンダー史等を基軸に理解し、自らの研究テーマの深化に活かすことができるようになる。

授業方法: 演習形式を基本とするが必要に応じて学外の資料所蔵機関で調査も実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要の説明	なし。
2.	講読論文および読解資料の選択	なし。
3.	女訓・往来物論文の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
4.	女訓・往来物論文の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
5.	女訓・往来物の読解	女訓・往来物を翻刻し、語釈をつける。(1時間以上)
6.	女訓・往来物の読解	女訓・往来物を翻刻し、語釈をつける。(1時間以上)
7.	文献調査	事前に調査予定古典籍の情報収集をする。(1時間)
8.	女訓・往来物論文の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
9.	女訓・往来物論文の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
10.	女訓・往来物の読解	女訓・往来物を翻刻し、語釈をつける。(1時間以上)
11.	女訓・往来物の読解	女訓・往来物を翻刻し、語釈をつける。(1時間以上)
12.	女訓・往来物の読解	女訓・往来物を翻刻し、語釈をつける。(1時間以上)
13.	文献調査	事前に調査予定古典籍の情報収集をする。(1時間)
14.	各自の研究テーマ報告	発表の用意を進める。(1時間)
15.	春期のまとめ	これまでの授業をふりかえり、自らの課題を把握する。(1時間)
16.	スケジュールの確認と講読論文および読解資料の選択	なし。
17.	女訓・往来物論文の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
18.	女訓・往来物論文の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
19.	女訓・往来物の読解	女訓・往来物を翻刻し、語釈をつける。(1時間以上)
20.	女訓・往来物の読解	女訓・往来物を翻刻し、語釈をつける。(1時間以上)
21.	文献調査	事前に調査予定古典籍の情報収集をする。(1時間)
22.	女訓・往来物論文の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
23.	女訓・往来物論文の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
24.	女訓・往来物の読解	女訓・往来物を翻刻し、語釈をつける。(1時間以上)
25.	女訓・往来物の読解	女訓・往来物を翻刻し、語釈をつける。(1時間以上)
26.	女訓・往来物の読解	女訓・往来物を翻刻し、語釈をつける。(1時間以上)
27.	文献調査	事前に調査予定古典籍の情報収集をする。(1時間)
28.	各自の研究テーマに基づく論文講読	各自の研究テーマで重要な論文を紹介し、自らの研究視座を明らかにする。(1時間以上)
29.	各自の研究テーマ報告	発表の用意を進める。(1時間以上)
30.	秋期のまとめ	これまでの授業をふりかえり、自らの課題を把握する。(1時間以上)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 質問や疑問については、授業時間後、あるいはオフィスアワーの時間を中心に受け付ける。提出課題については授業時にコメントするか、マナビ-を通じてコメントをする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度	50	出席状況ならびに授業への参加度を総合的に考慮して評価する。
レポート	50	論理的な文章を書くことができているかで評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

メールアドレス:nmiyakos@dwc.doshisha.ac.jp

391200

芸術文化特別研究Ⅱ

椎名　　亮輔

FLTナンバー:

授業テーマ: モンポウ研究

授業の概要: 20世紀スペインで最重要な作曲家であるフラダリック・モンポウに関して、その生涯と作品の関係について検討する。特に激動の20世紀スペインにおいてモンポウの生まれ育ったバルセロナ、カタルーニャは、常にマドリッド中央政府と緊張関係にあったと同時に、文化・言語・地理上フランス、パリと密接な関係があり、この複雑な政治・文化的状況がモンポウの音楽に及ぼした影響についても考慮する。

到達目標: 作曲家の生涯とその作品にはどのような関係があるのかを、政治・経済・文化的な様々な要素を考慮にいれながら詳細に探り、音楽学的研究の手続きを学ぶ。

授業方法: 講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入1:スペイン音楽史	スペイン音楽史について調べる(60分)
2.	導入2:カタルーニャの歴史	カタルーニャの歴史について調べる(60分)
3.	1893年モンポウ生誕	1893年当時のバルセロナの状況について調べる(60分)
4.	1894～1910年少年期の経験・学習	モンポウ少年期について調べる(60分)
5.	1911～1913年パリ留学	モンポウのパリ留学について調べる(60分)
6.	1914～1920年バルセロナでの活動、初期作品群、ブランカフォルトとの友情	バルセロナ時代初期作品について、当時の政治経済文化状況、交友関係について調べる。作曲家ブランカフォルトについて調べる。(60分)
7.	1920年《魔法の歌》出版	《魔法の歌》について調べる(60分)
8.	1920～1930年パリ滞在、最初の高評価、さまざまな作品	当時のモンポウの状況(政治・社会・文化的状況、活動状況)について調べる(60分)
9.	《歌と踊り》第1番ほかの作品	《歌と踊り》第1番ほかの作品について調べる(60分)
10.	1930～1940年《前奏曲集》ほかの作品1	《前奏曲集》ほかの作品について調べる1(60分)
11.	1930～1940年《前奏曲集》ほかの作品2	《前奏曲集》ほかの作品について調べる2(60分)
12.	当時のヨーロッパの政治状況(スペイン内戦)	当時のヨーロッパ政治状況について調べる(60分)
13.	1941～1945年バルセロナ帰還と最初の栄誉	当時の作品や状況について調べる(60分)
14.	1945～1951年さまざまな作品	当時の作品や状況について調べる(60分)
15.	1952年サン・ジョルディのアカデミアで教鞭	当時の作品や状況について調べる(60分)
16.	1953～1957年母親の死と自らの結婚	当時の作品や状況について調べる(60分)
17.	1958年コンポステラ音楽祭での教授職	コンポステラ音楽祭について調べる(60分)
18.	1959年《ひそやかな音楽》第1集	《ひそやかな音楽》第1集について調べる(60分)
19.	1960～1962年さまざまな作品	当時の作品や状況について調べる(60分)
20.	1963年オラトリオ《Improperios》	オラトリオ《Improperios》について調べる(60分)
21.	1965年《ひそやかな音楽》第3集	《ひそやかな音楽》第2集、第3集について調べる(60分)
22.	1967年《ひそやかな音楽》第4集	《ひそやかな音楽》第4集について調べる(60分)
23.	1970年《Bequerianas》	《Bequerianas》について、詩人グスタボ・アドルフォ・ベケールについて調べる(60分)
24.	1973年《ポール・ヴァレリーの五つの歌曲》	《ポール・ヴァレリーの五つの歌曲》について、詩人ポール・ヴァレリーについて調べる(60分)
25.	1978年《歌と踊り》第14番	《歌と踊り》シリーズについて調べる(60分)
26.	《歌と踊り》シリーズ	《歌と踊り》シリーズについて調べる(60分)
27.	1979～1987年最晩年と死	当時の作品や状況について調べる(60分)
28.	作曲家の生涯と作品について1	作曲家の生涯と作品について学問的に考えてくる1(60分)
29.	作曲家の生涯と作品について2	作曲家の生涯と作品について学問的に考えてくる2(60分)
30.	まとめ	今までの学習成果をまとめる(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 毎回前回の振り返りを行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	50	授業準備を毎回きちんと行い、授業中に積極的に発言するなど、前向きに参加しているか
最終レポート	50	授業内容をきちんと自分のものとしているか

教科書:

参考文献等: Clara Janés, La vida callada de Federico Mompou, Vaso Roto, Madrid, 2012.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力, 思考力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, 自己管理力, 自己実現力

教員との連絡方法: メール:rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

専門実技

各専攻実技担当者

FLTナンバー:

授業テーマ: 専門実技

授業の概要: 声楽コース・鍵盤楽器コース・管弦打楽器コースの全学生が4年間必修とする専門実技。(鍵盤楽器コースは伴奏法を含む。)

到達目標: 各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。

授業方法: 個人指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。(10～30時間)
2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考文献等: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

3M0801

専門実技（鍵盤楽器）

阿部　　千鶴

FLTナンバー:

授業テーマ: 専門実技

授業の概要: 声楽コース・鍵盤楽器コース・管弦打楽器コースの全学生が4年間必修とする専門実技。（鍵盤楽器コースは伴奏法を含む。）

到達目標: 各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。

授業方法: 個人指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。（10～30時間）
2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考文献等: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

3M1301

専門実技（管弦打楽器）

小谷口　直子

FLTナンバー:

授業テーマ: 専門実技

授業の概要: 声楽コース・鍵盤楽器コース・管弦打楽器コースの全学生が4年間必修とする専門実技。（鍵盤楽器コースは伴奏法を含む。）

到達目標: 各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。

授業方法: 個人指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。（10～30時間）
2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）
15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。（10～30時間）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考文献等: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

445201 **プロジェクト演習Ⅰ**

大西　　秀之

FLTナンバー: SOCa26-GS

授業テーマ: 国際的な研究機関での共同プジェクト:市民社会との交流企画を立案・実施

授業の概要: 京都や大阪など関西圏には、国際的課題に取り組んでいる研究機関が数多く存在しています。研究機関と聞くと、わたし達の日常生活にはあまり直接関係しない活動をしている組織なのでは？と思われるかもしれません。しかし実際は、こうした研究機関は、市民社会と連携した取り組みを数多く行っています。
以上のような研究機関の取り組みのなかから、本年度は、人間文化研究機構・総合地球環境学研究所の御指導の下、市民社会と連携して環境問題の理解と解決を目指すプロジェクトに従事します。具体的には、行政機関やNPOなどと協力して環境問題の理解と解決に取り組んでいる、「オープンサイエンス・プロジェクト」の御指導と要請を踏まえた上で、受講生自らが主体的に目的やテーマを設定し一般市民との交流を促す企画を立案し実施することを計画しています。

到達目標:
・実社会が求める課題を理解し対応するための幅広い視野や能力を身に付ける。
・現実課題の解決を前提とした社会調査の方法とスキルを習得する。
・実体験を通して自らのキャリア形成やライフプランニングを再考する。
・自らの調査内容を第三者に説得的に説明できる表現力とプレゼンテーション力を身に付ける。

授業方法: 演習形式＆実習形式
・事前学習（1～5回）・事後学習（11～15回）は演習形式で行い、プロジェクトの準備やまとめに関連する発表と討論を実施します。
・事前・事後授業は受講生と日程調整の上、水曜日の4限目以降に行う予定です。
・プロジェクト実習（6～10回）は実習形式で行い、8月上旬に現地調査や協力機関とのワークショップなどを実施する予定です。
・受講生の数によりますが、事前と事後ではグループワークを行っていただく予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前学習Ⅰ:プロジェクト概要説明	事前にシラバスをよく読んでプロジェクトの目的や計画、到達目標や評価方法などを確認しておいてください。（15分）
2.	事前学習Ⅱ:プロジェクト計画立案	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。（30分）
3.	事前学習Ⅲ:プロジェクト計画決定	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。（30分）
4.	事前学習Ⅳ:プロジェクト実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。（30分）
5.	事前学習Ⅴ:プロジェクト実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。（30分）
6.	プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。（30分）
7.	プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。（30分）
8.	プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。（30分）
9.	プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。（30分）
10.	プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。（30分）
11.	事後学習Ⅰ:活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。（30分）
12.	事後学習Ⅱ:活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。（30分）
13.	事後学習Ⅲ:報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。（30分）
14.	事後学習Ⅳ:報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。（30分）

15.	事後学習Ｖ：総括と評価	プロジェクト実習や事前・事後学習の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。（30分）

受講者へのメッセージやアドバイス：

本演習の受講生には、自らのキャリア形成やライフプラン構築のための有意義な経験とするとともに、国際的な研究機関の役割や価値について理解を深めることを期待しています。
本演習は、NOPなどの市民団体や行政機関と連携して企画を立案・実施する機会が用意されています。こうした経験は、就職活動にとどまらずライフプランを考える上でも貴重な経験になると確信しています。

フィードバックの方法：

・最終回に、各受講生に対して総評と評価を行います。各回の個別の諸活動後にアドバイスや評価を行います。
・またレポート（報告書）も、最終回に返却するとともに評価を直接お伝えいたします。

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
発表	20%	発表は、到達目標である「実社会が求める課題を理解し対応するための視点・能力」に基づいているか評価します。
レポート	20%	レポート（報告書）は、到達目標である「自らの調査内容を第三者に説得的に説明できる表現力とプレゼンテーション力」に基づいて制作できているか評価します。
授業への参加度	60%	到達目標である「社会調査のため方法とスキル」を習得しようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と積極的な参加・取り組みを求めます。

教科書：

参考文献等：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法：

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応します。
また授業内でご提示するe-mailでも対応します。

445202

プロジェクト演習Ⅰ

天野　　太郎

FLTナンバー:　SOCa26-GS

授業テーマ:　北海道富良野地域を対象とした地域のありかたとまちづくりの実態調査

授業の概要:　北海道富良野地域を対象とし、そこで展開される地域観光や政策、地域住民の視点などを、観光学的・地理学的・社会学など幅広い観点から実体験し、学習することを通して、農村地域の展開の可能性について総合的に考える。

到達目標:　1:地域調査の実態を現地において実地に学ぶ。
2:観光や地域文化のみならず、社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるか、実践的に関心をもつ。さらに幅広い社会調査を通して現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養う。

授業方法:　事前学習とともに、実際に北海道富良野に8日間滞在し、現地調査と発信を中心に行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　北海道富良野地域のありかた(事前学習)	配布資料の確認(1時間)
2.	富良野の観光と歴史的背景(事前学習)	配布資料の確認(2時間)
3.	地域学習におけるグループ分けと課題の考察(事前学習)	配布資料の確認(2時間)
4.	北海道富良野における現地学習調査　富良野地域の概要	配布資料の確認(2時間)
5.	北海道富良野における現地学習調査　ラベンダー観光の現状と課題	配布資料の確認(2時間)
6.	北海道富良野における現地学習調査3　地域の食を通した地域振興	現地の状況に関する予備学習(2時間)
7.	北海道富良野における現地学習調査3　スイーツを通した地域振興	現地の状況に関する予備学習(2時間)
8.	北海道富良野における現地学習調査1　東京大学演習林での自然学習1	現地の状況に関する予備学習(2時間)
9.	北海道富良野における現地学習調査1　鳥沼公園での自然学習2	現地の状況に関する予備学習(2時間)
10.	北海道富良野における現地学習調査1　中富良野町長との町政に関する講話	現地の状況に関する予備学習(2時間)
11.	北海道富良野における現地学習調査　コンテンツツーリズムの展開　研究動向の把握	現地の状況に関する予備学習(2時間)
12.	北海道富良野における現地学習調査　ドラマを通したコンテンツツーリズムの展開	現地の状況に関する予備学習(2時間)
13.	北海道富良野における現地学習調査　インスタグラム・SNSを通したコンテンツツーリズムの展開2	現地の状況に関する予備学習(2時間)
14.	北海道富良野における現地学習調査　環境と観光1　観光客数の動態と動向	現地の状況に関する予備学習(2時間)
15.	北海道富良野における現地学習調査　環境と観光　観光客に対する実態調査	アンケート調査に関する予備学習(2時間)
16.	北海道富良野における現地学習調査　ウオーキングを通した観光とまちづくり　フットパスの概要	現地の状況に関する予備学習(2時間)
17.	北海道富良野における現地学習調査　ウオーキングを通した観光とまちづくり　フットパスの実例	写真・ビデオ機材の準備とルート地図の整理(2時間)
18.	北海道富良野における現地学習調査　農業を通した観光とまちづくり1	現地の状況に関する予備学習(2時間)
19.	北海道富良野における現地学習調査　農業を通した観光とまちづくり2	現地の状況に関する予備学習(2時間)
20.	北海道富良野における現地学習調査　防災とまちづくり1	地域資料の収集と分析(2時間)
21.	北海道富良野における現地学習調査　防災とまちづくり2	地域資料の収集と分析(2時間)
22.	北海道富良野における現地学習調査　地元の高校生と協働した食の提供	地域食材・流通に関する調査(2時間)
23.	北海道富良野における現地学習調査　地元の高校生と協働した食を通した地域文化の理解	現地の状況に関する予備学習(2時間)
24.	北海道富良野における現地学習調査　多世代・多地域交流の実態2	現地の状況に関する予備学習(2時間)
25.	北海道富良野における現地学習調査　調査結果の発信　ラジオ放送・現地発表会を通した発信力の養成1	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(2時間)
26.	北海道富良野における現地学習調査　調査結果の発信　ラジオ放送・現地発表会を通した発信力の養成2	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(4時間)
27.	現地調査報告会	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(4時間)
28.	現地調査報告と討論会・フィードバック	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(4時間)
29.	全体の総括　(事後学習)	現地学習全体の資料とふりかえり(4時間)
30.	総括　学習内容のプレゼンテーション	現地学習全体の資料とふりかえり(4時間)

受講者へのメッセージやアドバイス:　夏季の北海道に現地滞在し、現地を学びます。地域を楽しみつつ学習し、主体的に発信(ラジオや各種報告会)していくプロセスを学んでいただきます。

フィードバックの方法:　授業内での個別・全体へのフィードバックを随時おこなう

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点 現地調査への参加度	50	到達目標1:地域調査の実態を現地において実地に学ぶ過程を総合的に評価する。
プレゼンテーション発表内容	30	到達目標2:観光や地域文化について、現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養うプロセスを、総合的に評価する。
大学報告会におけるプレゼンテーション	20	到達目標2:観光や地域文化について、現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養うプロセスを、総合的に評価する

教科書: 特にない。現地で必要な資料を適宜消化するとともに、映像資料の事前視聴をおこなう

参考文献等: 必要に応じて適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 事前学習ならびに現地調査前には、研究室訪問(知徳館C354)なども通した連絡を中心とし、授業中(現地学習中)には、随時、適宜対面で相互に相談をおこなう。メール類も随時活用する。

445203

プロジェクト演習Ⅰ

日下　　菜穂子

FLTナンバー:　SOCa26-GS

授業テーマ:　希望の多世代共創:共に創る楽しさの増幅するコミュニティの実践

授業の概要:　これからの時代に必要なのは、答えをないところに新しい未来を拓く【創造力】、そのために多様な人とつながる【共感】力です。
このプロジェクトでは、ロボットプログラミングなどの新しいテクノロジーを使って、学ぶ楽しさを体験するイベントを，小学生や大学生・高齢者がみんなで協同して企画して実践します。そして、学ぶ楽しさを多くの人に届けるために、SNS等を使った効果的な発信方法を考えます。実践には、ロボット開発やプログラミング教育に関連する企業と連携します。
他世代や企業の開発者など多様な人との連携を通して、履修生の個々の「共感」する力「想像力」を発揮するとともに、創造的な関わり合いの中での信頼と希望の力の醸成をめざします。

到達目標:
(1)現代社会におけるテクノロジーの進歩、役割を知る
(2)長寿社会の多世代がつながる仕組みを理解し，独創的な解決のあり方を主体的に探求することができる。
(3)成果を社会に還元する視点を持って，課題解決に取り組むことができる。

授業方法:　事前学習では，演習形式で多様性をみとめるコミュニケーションに関する基礎知識と技術を身につけます。現地学習調査は大学を拠点に、ITやロボットなどを用いた学習に携わり，社会への貢献をめざします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションン	資料講読・観察30分
2.	事前学習:グッド・コミュニケーションVSバッド・コミュニケーショ	ふりかえり30分
3.	事前学習:AI社会での希望の創り方	外部講師とのディスカッションまとめ30分
4.	事前学習:コミュニケーション・ロボットの活躍	資料講読・発表1時間
5.	現地学習調査1:子どもたち・シニアのニーズを知ろう！	インタビュー項目検討30分
6.	現地学習調査2:プログラミング学習の現状を知ろう！	関連企業・企業ヒアリング内容検討30分
7.	現地学習調査3:ロボット・プログラミングをやってみよう！	プログラミング30分
8.	現地学習調査4:ワークショップを考えよう	プログラミング・企画案作成30分
9.	現地学習調査5:チーム別企画	企画案作成30分
10.	現地学習調査6:チーム別立案・発表	企画案発表準備30分
11.	現地学習調査7:チーム別再立案・リハーサル	企画案発表準備30分
12.	現地学習調査8:ワークショップ	ロボットプログラミング30分
13.	現地学習調査9:チーム別分析	ロボット活用・分析30分
14.	事後学習:チーム別プレゼン	プレゼン準備1時間
15.	事後学習:全体報告と総評	報告準備30分

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講者は，パソコンソフトpower pointの基本操作ができるように練習しておくことが望ましい。

フィードバックの方法:　授業時間内の報告・発表・実施の際に，その都度担当者より評価をコメントとしてフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	現代社会におけるテクノロジーの進歩、役割の理解。プログラミングの必要性を他者に伝えることのできる技能を評価します。
授業への参加度	30	長寿社会の人と人とがつながる仕組みを理解し，独創的な解決のあり方を主体的に探求することができるかを評価します。
開発の成果	40	開発した成果が，社会の還元を意識されたものであるか，またその実装の可能性を評価します。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法:　オフィスアワー，初回の授業時間に担当教員から適宜指示します。

445301 **プロジェクト演習Ⅱ**

大西　　秀之

FLTナンバー:

授業テーマ: プロジェクト演習「国際的な研究機関での共同プジェクト:市民社会との交流企画を立案・実施」の取り組みを通してリーダーシップを修得する

授業の概要: 本演習では、人間文化研究機構・総合地球環境学研究所の御指導の下、市民社会と連携して環境問題の理解と解決を目指すプロジェクトへの参加を通して、リーダーシップの修得を目的とします。
このような目的の下、当該機関の要請を基に実施する活動や企画などに取り組む受講生の指導・サポートを行っていただきます。具体的には、行政機関やNPOなどと協力して環境問題の理解と解決に取り組んでいる、「オープンサイエンス・プロジェクト」の御指導と要請を踏まえた活動や企画の立案、実施、報告などを行うなかで、受講生の取りまとめ役を担うとともに、ご協力いただいている行政機関の方々や担当教員のサポートなどで主導的役割も担っていただく予定です。
なお本演習は、プロジェクト演習Ⅰを受講し単位を取得した学生に限定します。

到達目標:
・実社会が求める課題に取り組む経験を通してリーダーシップを身に付ける。
・現実課題の解決を前提とした調査や企画を推進するために必要となるリーダーシップを学ぶ。
・リーダーシップの修得を通して自らのキャリア形成やライフプランニングを再考する。

授業方法: 演習形式＆実習形式
・事前学習（1～5回）・事後学習（11～15回）は演習形式で行い、プロジェクトの準備やまとめに関連する発表と討論を実施します。
・事前・事後授業は受講生と日程調整の上、水曜日の4限目以降に行う予定です。
・プロジェクト実習（6～10回）は実習形式で行い、8月上旬に現地調査や協力機関とのワークショップなどを実施する予定です。
・受講生の数によりますが、事前と事後ではグループワークを行っていただく予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前学習Ⅰ:プロジェクト概要説明	事前にシラバスをよく読んでプロジェクトの目的や計画、到達目標や評価方法などを確認しておいてください。（15分）
2.	事前学習Ⅱ:プロジェクト計画立案	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。（30分）
3.	事前学習Ⅲ:プロジェクト計画決定	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。（30分）
4.	事前学習Ⅳ:プロジェクト実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。（30分）
5.	事前学習Ⅴ:プロジェクト実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。（30分）
6.	プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。（30分）
7.	プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。（30分）
8.	プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。（30分）
9.	プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。（30分）
10.	プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。（30分）
11.	事後学習Ⅰ:活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。（30分）
12.	事後学習Ⅱ:活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。（30分）
13.	事後学習Ⅲ:報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。（30分）
14.	事後学習Ⅳ:報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定ですで、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。（30分）

	15.　事後学習Ｖ：総括と評価	プロジェクト実習や事前・事後学習の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。（30分）

受講者へのメッセージやアドバイス：

本演習の受講生には、自らのキャリア形成やライフプラン構築のための有意義な経験としてリーダーシップの修得を目指されるとともに、国際的な研究機関の役割や価値について理解を深めることを期待しています。
本演習は、NOPなどの市民団体や行政機関と連携して企画を立案・実施する機会が用意されています。こうした経験を通して得られたリーダーシップは、就職活動にとどまらずライフプランを考える上でも貴重な経験になると確信しています。

フィードバックの方法：

・最終回に、各受講生に対して総評と評価を行います。各回の個別の諸活動後にアドバイスや評価を行います。
・またレポート（報告書）も、最終回に返却するとともに評価を直接お伝えいたします。

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
発表	20%	発表は、到達目標である「実社会が求める課題に取り組む経験を通して身に付けたリーダーシップ」に基づいて実施しているか評価します。
レポート	20%	レポート（報告書）は、到達目標である「現実課題の解決を前提とした調査や企画を推進する際に必要となるリーダーシップ」に基づいて制作できているか評価します。
授業への参加度	60%	到達目標である受講生のなかで主導的役割を積極的に担う姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と積極的な発言を求めます。

教科書：

参考文献等：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法：

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応します。
また授業内でご提示するe-mailでも対応します。

445302 **プロジェクト演習Ⅱ**

天野　　太郎

FLTナンバー:

授業テーマ: 北海道富良野地域を対象とした地域のありかたとまちづくりの実態調査

授業の概要: 北海道富良野地域を対象とし、そこで展開される地域観光や政策、地域住民の視点などを、観光学的・地理学的・社会学など幅広い観点から実体験し、学習することを通して、農村地域の展開の可能性について総合的に考える。

到達目標: 1:地域調査の実態を現地において実地に学ぶ。
2:観光や地域文化のみならず、社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるか、実践的に関心をもつ。さらに幅広い社会調査を通して現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養う。
3:プロジェクト全体の統括として、教員と受講生、地域の人々との連絡を緊密に図る力を養う。

授業方法: 事前学習とともに、実際に北海道富良野に8日間滞在し、現地調査と発信を中心に行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　北海道富良野地域のありかた(事前学習)	配布資料の確認(2時間程度)
2.	富良野の観光と歴史的背景(事前学習)	配布資料の確認(2時間程度)
3.	地域学習におけるグループ分けと課題の考察(事前学習)	配布資料の確認(2時間程度)
4.	北海道富良野における現地学習調査　富良野地域の概要	配布資料の確認(2時間程度)
5.	北海道富良野における現地学習調査　ラベンダー観光の現状と課題	配布資料の確認(2時間程度)
6.	北海道富良野における現地学習調査3　地域の食を通した地域振興	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
7.	北海道富良野における現地学習調査3　スイーツを通した地域振興	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
8.	北海道富良野における現地学習調査1　東京大学演習林での自然学習1	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
9.	北海道富良野における現地学習調査1　鳥沼公園での自然学習2	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
10.	北海道富良野における現地学習調査1　中富良野町長との町政に関する講話	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
11.	北海道富良野における現地学習調査　コンテンツツーリズムの展開　研究動向の把握	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
12.	北海道富良野における現地学習調査　ドラマを通したコンテンツツーリズムの展開	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
13.	北海道富良野における現地学習調査　インスタグラム・SNSを通したコンテンツツーリズムの展開2	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
14.	北海道富良野における現地学習調査　環境と観光1　観光客数の動態と動向	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
15.	北海道富良野における現地学習調査　環境と観光観光客に対する実態調査	アンケート調査に関する予備学習(2時間程度)
16.	北海道富良野における現地学習調査　ウオーキングを通した観光とまちづくり　フットパスの概要	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
17.	北海道富良野における現地学習調査　ウオーキングを通した観光とまちづくり　フットパスの実例	写真・ビデオ機材の準備とルート地図の整理(2時間程度)
18.	北海道富良野における現地学習調査　農業を通した観光とまちづくり1	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
19.	北海道富良野における現地学習調査　農業を通した観光とまちづくり2	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
20.	北海道富良野における現地学習調査　防災とまちづくり1	地域資料の収集と分析(2時間程度)
21.	北海道富良野における現地学習調査　防災とまちづくり2	地域資料の収集と分析(2時間程度)
22.	北海道富良野における現地学習調査　地元の高校生と協働した食の提供	地域食材・流通に関する調査(2時間程度)
23.	北海道富良野における現地学習調査　地元の高校生と協働した食を通した地域文化の理解	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
24.	北海道富良野における現地学習調査　多世代・多地域交流の実態2	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
25.	北海道富良野における現地学習調査　調査結果の発信　ラジオ放送・現地発表会を通した発信力の養成1	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(2時間程度)
26.	北海道富良野における現地学習調査　調査結果の発信　ラジオ放送・現地発表会を通した発信力の養成2	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(2時間程度)
27.	現地調査報告会	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(2時間程度)
28.	現地調査報告と討論会・フィードバック	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(2時間程度)
29.	全体の総括　(事後学習)	現地学習全体の資料とふりかえり(2時間程度)
30.	総括　学習内容のプレゼンテーション	現地学習全体の資料とふりかえり(2時間程度)

受講者へのメッセージやアドバイス: 夏季の北海道に現地滞在し、現地を学びます。地域を楽しみつつ学習し、主体的に発信(ラジオや各種報告会)していくプロセスを学んでいただきます。

フィードバックの方法: 授業内での個別・全体へのフィードバックを随時おこなう

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点 現地調査への参加度	40	到達目標1:地域調査の実態を現地において実地に学ぶ過程を総合的に評価する。
プレゼンテーション発表内容	20	到達目標2:観光や地域文化について、現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養うプロセスを、総合的に評価する。
大学報告会におけるプレゼンテーション	20	到達目標2:観光や地域文化について、現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養うプロセスを、総合的に評価する
全体の統括・管理	20	到達目標3:プロジェクト全体の統括として、教員と受講生、地域の人々との連絡を緊密に図る力を養う。

教科書: 特にない。現地で必要な資料を適宜消化するとともに、映像資料の事前視聴をおこなう

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 事前学習ならびに現地調査前には、研究室訪問(知徳館C354)なども通した連絡を中心とし、授業中(現地学習中)には、随時、適宜対面で相互に相談をおこなう。メール類も随時活用する。

445303

プロジェクト演習Ⅱ

日下　　菜穂子

FLTナンバー:

授業テーマ: 希望の多世代共創:共に創る楽しさの増幅するコミュニティの実践

授業の概要: これからの時代に必要なのは、答えをないところに新しい未来を拓く【創造力】、そのために多様な人とつながる【共感】力です。
このプロジェクトでは、ロボットプログラミングなどの新しいテクノロジーを使って、学ぶ楽しさを体験するイベントを，小学生や大学生・高齢者がみんなで協同して企画して実践します。そして、学ぶ楽しさを多くの人に届けるために、SNS等を使った効果的な発信方法を考えます。実践には、ロボット開発やプログラミング教育に関連する企業と連携します。
他世代や企業の開発者など多様な人との連携を通して、履修生の個々の「共感」する力「想像力」を発揮するとともに、創造的な関わり合いの中での信頼と希望の力の醸成をめざします。

到達目標: (1)現代社会におけるテクノロジーの進歩、役割を知る
(2)長寿社会の多世代がつながる仕組みを理解し，独創的な解決のあり方を主体的に探求することができる。
(3)成果を社会に還元する視点を持って，課題解決に取り組むことができる。

授業方法: 事前学習では，演習形式で多様性をみとめるコミュニケーションに関する基礎知識と技術を身につけます。現地学習調査は大学を拠点に、ITやロボットなどを用いた学習に携わり，社会への貢献をめざします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションン	資料講読・観察30年
2.	事前学習:グッド・コミュニケーションVSバッド・コミュニケーショ	演習30分
3.	事前学習:AI社会での希望の創り方	外部講師とのディスカッション30分
4.	事前学習:コミュニケーション・ロボットの活躍	資料講読・発表1時間
5.	現地学習調査1:子どもたち・シニアのニーズを知ろう！	インタビュー1時間
6.	現地学習調査2:プログラミング学習の現状を知ろう！	関連企業・企業ヒアリング1時間
7.	現地学習調査3:ロボット・プログラミングをやってみよう！	プログラミング30分
8.	現地学習調査4:ワークショップを考えよう	プログラミング・企画案作成1時間
9.	現地学習調査5:チーム別企画	企画案作成30分
10.	現地学習調査6:チーム別立案・発表	企画案発表準備30分
11.	現地学習調査7:チーム別再立案・リハーサル	企画案発表準備1時間
12.	現地学習調査8:ワークショップ	ロボットプログラミング30分
13.	現地学習調査9:チーム別分析	ロボット活用・分析30分
14.	事後学習:チーム別プレゼン	プレゼン準備1時間
15.	事後学習:全体報告と総評	報告準備30分

受講者へのメッセージやアドバイス: 受講者は，パソコンソフトpower pointの基本操作ができるように練習しておくことが望ましい。

フィードバックの方法: 授業時間内の報告・発表・実施の際に，その都度担当者より評価をコメントとしてフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	現代社会におけるテクノロジーの進歩、役割の理解。プログラミングの必要性を他者に伝えることのできる技能を評価します。
授業への参加度	30	長寿社会の人と人とがつながる仕組みを理解し，独創的な解決のあり方を主体的に探求することができるかを評価します。
開発の成果	40	開発した成果が，社会の還元を意識されたものであるか，またその実装の可能性を評価します。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法: オフィスアワー，初回の授業時間に担当教員から適宜指示します。

445401

Project-Based English I

K.Mattison

FLTナンバー: SOCa26-GS

授業テーマ: Environmental Research and Activism Projects

授業の概要: This is a one-year course for 2nd year students. The goal is for students to use English and develop teamwork skills to perform research that will benefit either the university or society. Students are required to communicate in English within the team, organize and manage group work for the group project, and present the results of the research project in English.

到達目標: Upon completion of this course, students will be able to perform research in English and create a final project report. Students will also develop interpersonal, communication, time-management, and presentation skills.

授業方法: Students will participate in group discussions and give research project updates about their outside research. This class will meet as a group 10-15 times during the entire year. Smaller group meetings will take place at other times, including weekends, as required to do project research for the class. Announcements will be made at least 1-2 weeks in advance. Students will be required to spend at least 60 hours of work on their project during the year. There may be some class excursions and group travel required. Students will be responsible for any costs. However, discussions and decisions about excursions will be made together, and students can choose not to participate without penalty.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Discuss course and research project guidelines	Reading and note-taking and preparation for research project
2.	Discuss research skills and how to present research results	Reading and note-taking and preparation for research project
3.	Communication and team building skills 1	Reading and note-taking and preparation for research project
4.	Communication and team building skills 2 and choose research projects	Reading and note-taking and preparation for research project
5.	Discuss research project updates	Reading and note-taking to prepare to begin a research project
6.	Organizational skills & continue research project	Reading and note-taking and working on research project
7.	Discuss research project details with individuals or group in another country	Reading and researching about another country and review important English vocabulary and phrases
8.	Visit and discuss research project details with individuals or group outside DWC	Reading and researching about another organization in Japan and practice important English vocabulary and phrases
9.	Continue research project	Researching and working to complete project
10.	Research project and activity planning updates	Reading and note-taking and working on graduation research project
11.	Continue research project	Researching and working to complete project
12.	Complete Project	Researching and working to complete project
13.	Complete Project and prepare research report	Work to complete the project and organize report summary
14.	Present research report	Prepare a formal presentation using PowerPoint
15.	Discuss and reflect on project, team work, and evaluation of student performance	Self-reflection

受講者へのメッセージやアドバイス: Students will work in groups to choose a project, conduct research, and give updates and feedback to other groups through class discussions, online discussions, and presentations. Students will do research outside of class to complete a project.

All members of the class will meet together 10-15 times during the entire year. Small group meetings at other times, including weekends, will be necessary to complete 60 hours on the project.

Students should have either 1) at least a GPA of 3.0 in the CASE Program OR 2) be able to give their opinions and discuss various social issues in English (CASE Program students and regular Gensha students). This is because English will be used outside the classroom

フィードバックの方法: Feedback will be provided through written and oral comments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Group work	25	Ability to work effectively as a team
Research activties	25	Productivity and effort of research
Research project	50	Presentation and project results

教科書: None

参考文献等: Will be provided in class

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: Will be provided in class materials

445402

Project-Based English I

L.Rogers

FLTナンバー: SOCa26-GS

授業テーマ: Diversity Events Projects

授業の概要: After graduating, many students will find themselves working with people from other countries in companies. Even if they do not leave Japan, they may have to communicate with people working in other countries using English. This course requires actively using English to complete a task with team members.
The aims are for students to use English and teamwork skills to do the following:
1) Actively do research by communicating with people in Japan and other countries and to produce something useful to either the university or society.
2) Organize and manage group work to successfully complete a project similar to real world workplaces
3) Present research project findings in English

到達目標: Upon completion of this course, students will understand and be able to use English to do a research project and present a final project report. They will also learn and practice to improve their communication and leadership skills as they gain self-confidence.

Students will be able to use successful projects as examples of their hard work and managment skills when searching for a job.

授業方法: Students will participate in group discussions and give research project updates, while doing outside research. This course will meet 10-15 times during the year. Even though the course is scheduled for Wednesdays, meetings at other times, including weekends, may be necessary to communicate with groups and individuals in other countries. Announcements will be made at least 1-2 weeks in advance. There will also be some class excursions and group travel required. Students will be responsible for any costs. However, discussions and decisions about excursions will be made together, and students can choose not to participate without penalty.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Discuss course and research project guidelines	Reading and note-taking and preparation for research project. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
2.	Discuss research skills and how to present research results	Reading and note-taking and preparation for research project. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
3.	Communication and team building skills 1	Reading and note-taking and preparation for research project. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
4.	Communication and team building skills 2 and choose research projects	Reading and note-taking and preparation for research project. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
5.	Discuss research project updates	Reading and note-taking to prepare to begin a research project. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
6.	Organizational skills & continue research project	Reading and note-taking and working on research project. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
7.	Discuss research project details with individuals or group in another country	Reading and researching about another country and review important English vocabulary and phrases. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
8.	Visit and discuss research project details with individuals or group outside DWC	Reading and researching about another organization in Japan and practice important English vocabulary and phrases. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
9.	Continue research project	Researching and working to complete project. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
10.	Research project and activity planning updates	Reading and note-taking and working on graduation research project. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
11.	Continue research project	Researching and working to complete project. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
12.	Complete Project	Researching and working to complete project. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
13.	Complete Project and prepare research report	Work to complete the project and organize report summary. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
14.	Present research report	Prepare a formal presentation using PowerPoint. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
15.	Discuss and reflect on project, team work, and evaluation of student performance	Self-reflection. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.

受講者へのメッセージやアドバイス: Students will work in groups to choose a project, conduct research, and give periodic updates and feedback to other groups. They will do this through class discussions on campus, online discussions and through presentations. Students will do outside research, including talking with people in other countries and in Japan, to complete a project.

This course will meet 10-15 times during the year. Even though the course is scheduled on Mondays, meetings at other times, including weekends, will be necessary to complete the project. Students who are able to help their team complete a project successfully will be able to use those experiences when searching for a job. However, this will not be an easy task. It will take hard work and effort. Students will be required to work at least 60 hours on their project to complete this course.

Students should have either 1) at least a GPA of 3.0 in the CASE Program OR 2) be able to give their opinions and discuss various social issues in English (CASE Program students and regular Gensha students). This is because English will be used outside the classroom.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Research Project updates and final presentation	50%	Presentation contents and preparation
Research activities organization	30%	Research activities such as gathering background information, planning, and carrying out necessary surveys, and so on
Group work	20%	Ability and efforts to work as a team

教科書:

No Textbook

参考文献等:

Will be announced in class

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、分析力、リーダーシップ、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

445403

Project-Based English I

シュトラウマン　千里

FLTナンバー: SOCa26-GS

授業テーマ: How to Japan: Helping foreign visitors for international event

授業の概要:

Wherever we go, we all meet foreign visitors and we all know Japan is struggling to deal with the foreign guests because of their bad manners and unacceptable behaviors. However, some of them behave badly unintentionally. How can we support them to be able to travel respectful and mindful way?

This is a 1-year course for the 2nd year students to work on this project. This project is student-centered and conducted in a team using English. Students will:
1.Initiate the research for the topic by interviewing people or visiting the locations
2.Plan and manage the project schedule to complete the task
3.Finalize the project and present the outcome in English

到達目標:

1.Students will gain critical thinking, creativity, and communication skills by doing an authentic and meaningful project.
2.Using English, students will be able to solve a real-world problem.
3.Students will learn the importance of working collaboratively in a team.

授業方法:

In-class discussion and student independent and group work
Class discussions are in English

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation. Course introduction and goal setting	
2.	Brainstorming and discussion of research topics	Research and homework (60 min)
3.	Learning about the issues. Discuss research project topic: contents, purpose, set direction, targets, and desired outcome	Gather necessary background information for topic (60 min)
4.	Learning about the issues. Discuss research project topic: contents, purpose, set direction, targets, and desired outcome	Gather necessary background information for topic (60 min)
5.	Plan for the research project: Create a schedule for tasks	Continue reading and researching on the topic (60 min)
6.	Field-work or visit location(s) for research project outside class	Summarize Field-work or visit location(s)
7.	Field-work or visit location(s) for research project outside class	Summarize Field-work or visit location(s)
8.	Share findings from Field-work or visit location(s) and continue research project	Prepare research project status report (60 min)
9.	Continue research project: Status reports - share update and evaluate the progress	Continue reading and researching on the topic (60 min)
10.	Continue research project: Status reports - share update and evaluate the progress	Continue reading and researching on the topic (60 min)
11.	Continue research project: Status reports - share update and evaluate the progress	Continue reading and researching on the topic (60 min)
12.	Complete research project and prepare to present the research project	Finalize research project (30 min) Presentation preparation (60 min)
13.	Complete research project and prepare to present the research project	Finalize research project (30 min) Presentation preparation (60 min)
14.	Presentation of research project	Prepare self-reflection and evaluation (60 min) Prepare to submit research paper(60 min)
15.	Summary and feedback: Assess the outcome; Evaluate the experience and Reflection	Individual reflection, share feelings and experiences (60 min)

受講者へのメッセージやアドバイス:

It's a realistic, not school-like, and student-driven course, so you bring your ideas for implementation. Therefore, it requires active student participation and initiation. The teacher will give necessary guidance/support and play a facilitator or a coach role. Upon completion of the project, you will feel significant achievement and great accomplishment.

フィードバックの方法:

Written and oral feedback

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Research project activities & progress update	40	Carry out tasks
Final presentation & report	40	Complete tasks
Group work	20	Collaboration

教科書: No textbooks

参考文献等: No references

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

cstraumann6@gmail.com

445501

Project-Based English Ⅱ

K.Mattison

FLTナンバー:

授業テーマ: Research Project Management

授業の概要: This is a one-year course for 3rd year students who have completed Project-Based English I and want to develop their organizational and leadership skills further. The goal is for students to use English and develop teamwork skills to perform research that will benefit either the university or society. Students are required to communicate in English within the team, assist groups with organization and managerial skills for group work for the group project, and assist the group with preparing the results of the research project for the presentation in English.

到達目標: Upon completion of this course, students will be able to lead and guide teams as they perform research in English and colloborate to create a final project report. Students will further develop their interpersonal, communication, time-management, and presentation skills. Students in this course are acting as assistants to the teacher and guides to the PBE I students.

授業方法: Students will participate in group discussions and give research project updates about their outside research. This class will meet as a group 10-15 times during the entire year. Smaller group meetings will take place at other times, including weekends, as required to do project research for the class. Announcements will be made at least 1-2 weeks in advance. Students will be required to spend at least 60 hours of work on their project during the year. There may be some class excursions and group travel required. Students will be responsible for any costs. However, discussions and decisions about excursions will be made together, and students can choose not to participate without penalty.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Help students understand course and research project guidelines	Help students prepare to begin a research project
2.	Discuss research skills and how to present research results	Help students organize research projects
3.	Communication and team building skills 1	Help students do a needs assessment for a research project
4.	Communication and team building skills 2 and choose research projects	Help students work on research projects
5.	Discuss research project updates	Help students work on research projects
6.	Organizational skills & continue research project	Help students work on research projects
7.	Discuss research project details with individuals or group in another country	Help students work on research projects
8.	Visit and discuss research project details with individuals or group outside DWC	Help students work on research projects
9.	Continue research project	Help students work on research projects
10.	Research project and activity planning updates	Help students work on research projects
11.	Continue research project	Help students work on research projects
12.	Complete Project	Help students work on research projects
13.	Complete Project and prepare research report	Help students complete the project and organize report summary
14.	Present research report	Help students prepare a formal presentation using PowerPoint
15.	Discuss and reflect on project, team work, and evaluation of student performance	Lead self-reflection session

受講者へのメッセージやアドバイス: Students will work in groups to choose a project, conduct research, and give updates and feedback to other groups through class discussions, online discussions, and presentations. Students will do research outside of class to complete a project.

All members of the class will meet together 10-15 times during the entire year. Small group meetings at other times, including weekends, will be necessary to complete 60 hours on the project.

Students should have either 1) at least a GPA of 3.0 in the CASE Program OR 2) be able to give their opinions and discuss various social issues in English (CASE Program students and regular Gensha students). This is because English will be used outside the classroom

フィードバックの方法: Feedback will be provided through written and oral comments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Assisting in class	45	Assisting the teacher with class activities
Assisting groups	45	Assisting the group with time-management and other guidance
Cooperation	10	Overall communication and organizational effort

教科書: None

参考文献等: Will be provided in class

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: Will be provided in class materials

445502

Project-Based English Ⅱ

L.Rogers

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

445503

Project-Based English Ⅱ

シュトラウマン　千里

FLTナンバー:

授業テーマ: How to Japan: Helping foreign visitors for international event

授業の概要:

Wherever we go, we all meet foreign visitors and we all know Japan is struggling to deal with the foreign guests because of their bad manners and unacceptable behaviors. However, some of them behave badly unintentionally. How can we support them to be able to travel respectful and mindful way?

This is a 1-year course for the 3rd year students to work on this project. This project is student-centered and conducted in a team using English. Students will:
1.Initiate the research for the topic by interviewing people or visiting the locations
2.Plan and manage the project schedule to complete the task
3.Finalize the project and present the outcome in English

到達目標:

1.Students will gain critical thinking, creativity, and communication skills by doing an authentic and meaningful project.
2.Using English, students will be able to solve a real-world problem.
3.Students will learn the importance of working collaboratively in a team.

授業方法:

In-class discussion and student independent and group work
Class discussions are in English

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation. Course introduction and goal setting	
2.	Brainstorming and discussion of research topics	Research and homework (60 min)
3.	Learning about the issues. Discuss research project topic: contents, purpose, set direction, targets, and desired outcome	Gather necessary background information for topic (60 min)
4.	Learning about the issues. Discuss research project topic: contents, purpose, set direction, targets, and desired outcome	Gather necessary background information for topic (60 min)
5.	Plan for the research project: Create a schedule for tasks	Continue reading and researching on the topic (60 min)
6.	Field-work or visit location(s) for research project outside class	Summarize Field-work or visit location(s)
7.	Field-work or visit location(s) for research project outside class	Summarize Field-work or visit location(s)
8.	Share findings from Field-work or visit location(s) and continue research project	Prepare research project status report (60 min)
9.	Continue research project: Status reports – share update and evaluate the progress	Continue reading and researching on the topic (60 min)
10.	Continue research project: Status reports – share update and evaluate the progress	Continue reading and researching on the topic (60 min)
11.	Continue research project: Status reports – share update and evaluate the progress	Continue reading and researching on the topic (60 min)
12.	Complete research project and prepare to present the research project	Finalize research project (30 min) Presentation preparation (60 min)
13.	Complete research project and prepare to present the research project	Finalize research project (30 min) Presentation preparation (60 min)
14.	Presentation of research project	Prepare self-reflection and evaluation (60 min) Prepare to submit research paper(60 min)
15.	Summary and feedback: Assess the outcome; Evaluate the experience and Reflection	Individual reflection, share feelings and experiences (60 min)

受講者へのメッセージやアドバイス:

It's a realistic, not school-like, and student-driven course, so you bring your ideas for implementation. Therefore, it requires active student participation and initiation. The teacher will give necessary guidance/support and play a facilitator or a coach role. Upon completion of the project, you will feel significant achievement and great accomplishment.

フィードバックの方法:

Written and oral feedback

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Research project activities & progress update	40	Carry out tasks
Final presentation & report	40	Complete tasks
Group work	20	Collaboration

教科書: No textbooks

参考文献等: No references

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

cstraumann6@gmail.com

601161 **卒業論文**

小﨑　　眞

FLTナンバー:

授業テーマ: いのちと倫理～思想研究を通し～

授業の概要: 同志社女子大学（人間生活学科）での4年間の様々な学びの集大成として、各人の設定した研究テーマを探求します。ゼミ内での討論等を通し、互いに切磋琢磨し、研究の方法、まとめ方、発表の仕方等を習得します。

到達目標: 1. 各人のテーマに即し、先行研究に基づき、論理的に考察した卒業論文を完成し、所定の期日までに指導教員に提出します。
2. 12月初旬には卒業論文のテーマを提出し、12月下旬には卒業論文発表会の要旨を提出します。
3. プレゼンテーションの技術を習得し、卒論委員会が運営する卒論発表会において、ゼミ生全員が卒業論文の要旨を口頭発表します。

授業方法: 演習形式を基本とします。個人発表、グループ討議、グループ批評等を通し、学習者相互の思考を深めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 演習での学びの振り返り。	シラバスにより当該科目の内容、到達目標、評価基準を整理する（45分）。 応用演習1・2で学んだ事をふりかえり、自身の問題意識を高める（60分）。
2.	基礎学習とテーマ探し1 問題意識の探求と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成（資料紹介、方法論確認）と発表ポイントの整理（90分）。発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める（90分）。
3.	基礎学習とテーマ探し2 問題意識の探求と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成（資料紹介、方法論確認）と発表ポイントの整理（90分）。発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める（90分）。
4.	基礎学習とテーマ探し3 問題意識の探求と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成（資料紹介、方法論確認）と発表ポイントの整理（90分）。発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める（90分）。
5.	卒論デザイン作成、及び、先行研究検索、基本文献検索、批評に向けた確認	卒論デザイン作成に向けて、自身の卒論の焦点を絞る。仮説と論証方法を模索し、整理する（120分）。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める（90分）。
6.	先行研究と資料収集1	個人発表にむけた、資料作成（課題論文批評と資料紹介）と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示（120分）。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める（90分）。
7.	先行研究と資料収集2	個人発表にむけた、資料作成（課題論文批評と資料紹介）と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示（120分）。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める（90分）。
8.	先行研究と資料収集3	個人発表にむけた、資料作成（課題論文批評と資料紹介）と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示（120分）。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める（90分）。
9.	先行研究と資料収集4	個人発表にむけた、資料作成（課題論文批評と資料紹介）と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示（120分）。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める（90分）。
10.	卒論デザイン作成説明	配布資料や参考文献を用いて、卒業論文を執筆の方法論などを再考しつつ、深め、整理する（90分）。 卒論デザイン作成資料をふりかえり、自己のテーマを絞る（90分）。
11.	卒論デザイン発表1	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料（卒論デザイン）を作成（120分）。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める（90分）。
12.	卒論デザイン発表2	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料（卒論デザイン）を作成（120分）。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める（90分）。
13.	卒論デザイン発表3	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料（卒論デザイン）を作成（120分）。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める（90分）。
14.	卒論デザイン発表4	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料（卒論デザイン）を作成（120分）。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める（90分）。
15.	中間原稿提出に向けて	夏季休暇後の中間原稿提出に向けて思索の深化と下書き作成準備。中間原稿執筆へのスケジュールの確認。自己の関心事を文章化し、論点を明示する（90分）。 表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める（90分）。
16.	中間原稿提出。	夏季休暇を用いて、中間原稿執筆。自己の関心事を文章化し、論点を明示する。 中間原稿作成（60時間／3600分） 表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める（90分）。

17.	中間原稿相互批判 研究倫理規定の確認	事前に預かった受講生の中間原稿への批評コメント作成。他者からのコメントに対応できるよう、自身の卒論を再検討する。夏季休暇を用いて、中間原稿執筆。自己の関心事を文章化し、論点を明示する。 中間原稿作成(90分) 表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める。研究倫理規定(捏造、改ざん、盗用など)も合わせて相互に確認する。(180分)
18.	中間原稿の深化と発展1	新たな資料紹介、先行研究批判など。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
19.	中間原稿の深化と発展2	新たな資料紹介、先行研究批判など。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
20.	中間原稿の深化と発展3	新たな資料紹介、先行研究批判など。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
21.	ポスター発表(ゼミ内)	ポスター発表資料準備。後輩にむけ、卒論の論理構成を提示(6時間／360分)。 自己の卒論の論理構成を確認。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
22.	ポスター発表後の再検討課題発表1	ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
23.	ポスター発表後の再検討課題発表2	ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
24.	ポスター発表後の再検討課題発表3	ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
25.	卒業論文第一次提出。ゼミ内査読者選定。	卒業論文第一次原稿を執筆。提出用と査読用の2部準備。ゼミ内、卒業論文規定に従い原稿作成(120時間／7200分) 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
26.	卒論タイトル・要旨の最終確認。	相互議論、相互批評による、タイトルの明確化、要旨の的確化に努める。配布資料の作成(180分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
27.	研究倫理規程に即して、卒論査読者よりコメント。	冬季休暇を用いて、他の受講者の卒論批評。研究倫理規定に即して、自分自身の卒論の整理と深化。配布資料の作成(1800分) 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(120分)。
28.	各卒論への批評大会。	他者からの批評に耐えうるよう、自身の卒論の再検証(180分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、最終提出に向けた整理(360分)。
29.	発表資料作成による卒論の深化	卒論の中心テーマ、結論への吟味。再度、構成の確認など。発表用資料の作成(180分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、最終提出に向けた整理(180分)
30.	卒業論文の提出。卒論発表会に向けて準備。 発表会後、最終原稿(発表資料・口頭原稿含む)提出。	最終原稿の提出。発表会に向けた資料作成など。引用方法などを含め、誤字脱字等、校正の上、提出(1200分)。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業時間外の自主学習及びグループ学習等が求められます。先行研究(文献研究など)を踏まえた上での思想の構築が期待されます。

フィードバックの方法:

毎回のゼミ内で、相互の学びを深めるコメントペーパーを作成します。ゼミ生同志の意見交換を含んだコメントペーパーを積極的に用います。学生からのコメントはゼミ内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有し、かつ個々人へフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
クラスへの参加・貢献	40	クラス内での互いの学びへの批判力、貢献度などにより評価します。
卒業論文・卒業論文発表	60	卒業論文かつ卒業論文発表会における完成度、独自性、科学性などを総合的に評価します。よって、いずれかが不十分の場合は単位認定にならないことを付言する。

教科書:

教室にて指示します。

参考文献等:

教室にて指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力
教員との連絡方法:	授業前後の対応を基本としますが、オフィスアワー、Eメール、別途個人面談など随時対応します。

601162 **卒業論文**

宮本　　義信

FLTナンバー:

授業テーマ: 社会福祉の歴史・制度・実践

授業の概要: 応用演習ⅠⅡで学んだ社会福祉の歴史・制度・実践を踏まえ、各自でテーマを絞り込み、研究計画に基づいて卒業論文の作成および論文要旨の口頭発表を行う。

到達目標: 卒業論文の完成

授業方法: レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議などをとおし、一部で社会福祉見学・配属実習を行うことによって、各自の研究テーマを深めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	中間発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	中間発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
16.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
17.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
18.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
19.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
20.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
21.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
22.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
23.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
24.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
25.	最終発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
26.	最終発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
27.	論文修正	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
28.	論文提出	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
29.	論文講評	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
30.	論文講評	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	出席を含む授業への参加・態度
卒業論文	50	卒業論文および論文要旨の口頭発表による総合評価

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: オフィスアワー、Eメール等を利用

601163 **卒業論文**

諸井　　克英

FLTナンバー:

授業テーマ: 社会心理学（日常を計量する）

授業の概要: 社会心理学は，日常生活の中で自分やまわりの人々が繰り広げる様々な「行動の饗宴」を素材として,そのような行動を「発現」させる「心の仕組み」を明らかにする学問ツールです。卒業研究では，「社会心理学」という学問ツールに触れることによって,だれもが「体感」している日常素材を対象として各自が実際に「心の冒険」をし＜=研究＞,卒業後の「社会」の中で自己成長を遂げるステップにすることを目標とします。とりわけ,学問領域だけでなく，実務・リサーチ系でも有力な統計ツールとして認知されている「SPSS」統計処理ソフトの活用能力や他の処理スキルを身につけることも併せて目指します。
　この演習の最終目標は,各人が築きあげた成果を卒業研究としてまとめ発表することです。これは，「感想文」とは異なり，あくまでも社会心理学という学問ツールの適用結果としての研究（卒業論文＋口頭発表）の形にします。これによって,演習生のキャンパス・ライフのアカデミックな部分を「形」として残すことになります。

到達目標: 特定主題での社会心理学的研究の達成

授業方法: １時間30分の授業時間のみが「学習時間」ではなく,その合間に多くの「作業・学習時間」が必要となります。「皆出席」を前提に、各自が「期間中」にどのくらい格闘したかを評価の対象とします。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	１年間の概観	２時間程度の作業
2.	卒業研究テーマの同定作業	２時間程度の作業
3.	卒業研究テーマの同定作業と研究準備	２時間程度の作業
4.	卒業研究テーマの同定作業と研究準備	２時間程度の作業
5.	卒業研究の準備	２時間程度の作業
6.	卒業研究の準備と着手	２時間程度の作業
7.	卒業研究の着手	２時間程度の作業
8.	卒業研究の着手	２時間程度の作業
9.	収集データの整理	２時間程度の作業
10.	収集データの整理	２時間程度の作業
11.	収集データの整理	２時間程度の作業
12.	収集データの整理と解析	２時間程度の作業
13.	収集データの整理と解析	２時間程度の作業
14.	卒業研究の中間発表	２時間程度の作業
15.	卒業研究の中間発表	２時間程度の作業
16.	卒業論文作成に向けた概観	２時間程度の作業
17.	収集データの解析	２時間程度の作業
18.	収集データの解析	２時間程度の作業
19.	卒業研究データの「図表」化作業	２時間程度の作業
20.	卒業研究データの「図表」化作業	２時間程度の作業
21.	卒業研究データの「図表」化作業＋卒業論文・本文の作成	２時間程度の作業
22.	卒業研究データの「図表」化作業＋卒業論文・本文の作成	２時間程度の作業
23.	卒業研究データの「図表」化作業＋卒業論文・本文の作成	２時間程度の作業
24.	卒業研究データの「図表」化作業＋卒業論文・本文の作成	２時間程度の作業
25.	卒業論文全体の作成	２時間程度の作業
26.	卒業論文全体の作成	２時間程度の作業
27.	卒業論文の完成	２時間程度の作業
28.	発表会用の「要約」の作成，発表会用の「発表スライド」の作成作業	２時間程度の作業
29.	発表会用の「発表スライド」の作成作業	２時間程度の作業
30.	発表会の最終準備（発表スライド＋口頭発表）	２時間程度の作業

受講者へのメッセージやアドバイス: 準備学習(予習・復習)等の内容: 授業と授業の間の１週間にこそ，自己進歩があることを忘れないようにしよう。

フィードバックの方法: 演習時の応答およびマナビー

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と研究取り組み状況	50	授業時・時間外の熱心さ
卒業論文の完成	25	論文としての完成度
卒論発表会パフォーマンス	25	呈示と発表の完成度

教科書: 演習時に指示する。

参考文献等: 適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:	マナビーおよび日常的接触

601164 **卒業論文**

奥田　　紫乃

FLTナンバー:

授業テーマ: 居住環境の評価

授業の概要: 人間生活学科における学びの集大成として卒業論文を執筆する

到達目標: 各自が設定するテーマに基づき、問題解決のための手法を検討し、その結果をわかりやすく提示する

授業方法: 各自のテーマに基づき、問題解決手法（文献調査、フィールド調査、心理実験）を実施し、進捗状況を授業内で発表・議論する。卒業論文を執筆し、卒業論文発表会にて発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究テーマ・研究手法の発表1	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる(60分)
2.	研究テーマ・研究手法の発表2	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる(60分)
3.	研究テーマ・研究手法の発表3	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる(60分)
4.	研究計画の発表1	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える(60分)
5.	研究計画の発表2	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える(60分)
6.	研究計画の発表3	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える(60分)
7.	研究計画の発表4	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する(60分)
8.	研究計画の発表5	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する(60分)
9.	研究計画の発表6	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する(60分)
10.	進捗状況の発表1	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する(120分)
11.	進捗状況の発表2	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する(120分)
12.	進捗状況の発表3	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する(120分)
13.	進捗状況の発表4	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する(120分)
14.	進捗状況の発表5	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する(120分)
15.	進捗状況の発表6	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する(120分)
16.	中間発表1	これまでの進捗をまとめると同時に、今後必要となるデータ／分析をピックアップする(120分)
17.	中間発表2	これまでの進捗をまとめると同時に、今後必要となるデータ／分析をピックアップする(120分)
18.	研究結果の発表1	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる(120分)
19.	研究結果の発表2	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる(120分)
20.	研究結果の発表3	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる(120分)
21.	研究結果の発表4	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める(120分)
22.	研究結果の発表5	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める(120分)
23.	研究結果の発表6	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める(120分)
24.	研究要旨の作成1	自身の研究内容を、端的にまとめられるよう研究ノートをまとめなおす(120分)
25.	研究要旨の作成2	自身の研究内容を、端的にまとめられるよう研究ノートをまとめなおす(120分)
26.	研究概要の作成1	自身の研究内容を、A4用紙2枚にまとめられるよう、図表を整理する(120分)
27.	研究概要の作成2	自身の研究内容を、A4用紙2枚にまとめられるよう、図表を整理する(120分)
28.	卒論発表資料の作成1	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える(60分)
29.	卒論発表資料の作成2	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える(60分)
30.	卒論発表資料の作成3	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 大学生活の集大成です。コミュニケーション力やプレゼンテーション力を駆使しながら、卒業論文発表会を目指して頑張りましょう！

フィードバックの方法: 授業中にディスカッションしながらフィードバックする

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30	ゼミでの発表内容、他者発表時の質問・ディスカッションなど
ゼミでの発表・討論	30	他者の発表に関する議論、自身の発表に対する回答など
論文	40	研究の実施状況、論文の出来栄え

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: e-mail、マナビーによる

601165 **卒業論文**

平光　　睦子

FLTナンバー:

授業テーマ: 服飾文化の歴史と現在

授業の概要: 4年間の学びの集大成として卒業論文を執筆します。これまでなされてきた服飾文化に関する研究をとおして生活文化のさまざまな課題を探求し、これからあるべき生活にむけてその可能性を示すことを目指します。ゼミでのプレゼンテーションや意見交換のなかで互いに知見を広め思考を深めるとともに論文執筆の手順と方法を習得します。

到達目標: ①卒業論文として適切な文章表現を身につける。
②卒業論文として適切な情報収集と論理的な分析の手法を身につける。
③互いの卒業研究に関して建設的なディスカッションができる。
③卒業論文の成果をプレゼンテーションで表現し伝えることができる。

授業方法: ゼミナール形式を基本に個人指導も行います。各自で研究テーマを設定し、論文執筆にむけて計画をたて、それにもとづいて資料収集、調査、執筆をすすめます。中間報告や経過報告をとおして進行状況を確認しながら卒業論文の完成を目指します。完成した卒業論文は所定の期日までに指導教員に提出し、その後、卒業論文発表会において論文要旨を口頭発表します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究の進め方	「応用演習Ⅱ」で計画した予備調査の成果をまとめる
2.	テーマ発表①	テーマについてのレポート作成および発表準備
3.	テーマ発表②	テーマについてのレポート作成および発表準備
4.	テーマ発表③	テーマについてのレポート作成および発表準備
5.	文献資料の検索と収集	文献等資料の検索結果をまとめる
6.	研究計画を発表①	研究計画書の作成および発表準備
7.	研究計画を発表②	研究計画書の作成および発表準備
8.	研究計画を発表③	研究計画書の作成および発表準備
9.	文献資料研究①	文献資料に関するレポート作成
10.	文献資料研究②	文献資料に関するレポート作成
11.	文献資料研究③	文献資料に関するレポート作成
12.	中間報告Ⅰおよび意見交換①	中間レポートの作成および発表準備
13.	中間報告Ⅰおよび意見交換②	中間レポートの作成および発表準備
14.	中間報告Ⅰおよび意見交換③	中間レポートの作成および発表準備
15.	学外見学	見学のための下調べ
16.	中間発表Ⅱおよび意見交換①	中間レポートの作成および発表準備
17.	中間発表Ⅱおよび意見交換②	中間レポートの作成および発表準備
18.	中間発表Ⅱおよび意見交換③	中間レポートの作成および発表準備
19.	論文の構成①	構成表と目次の下書き
20.	論文の構成②	構成表と目次の下書き
21.	卒業論文タイトル検討①	タイトル案を考える
22.	卒業論文タイトル検討②	タイトル案を考える
23.	卒業論文要旨および概要作成①	要旨および概要の下書き
24.	卒業論文要旨および概要作成②	要旨および概要の下書き
25.	卒業論文要旨および概要作成③	要旨および概要の下書き
26.	卒業論文発表会準備　パワーポイント作成①	パワーポイント作成の準備
27.	卒業論文発表会準備　パワーポイント作成②	パワーポイント作成の準備
28.	卒業論文発表会準備　原稿作成①	原稿下書き
29.	卒業論文発表会準備　原稿作成②	原稿下書き
30.	卒業論文発表会準備　仕上げ	発表練習を行う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業内でコメントし、適宜授業時間外にも個人指導を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30	授業への準備と到達目標③に関する態度や発言を評価する。
論文	50	到達目標①②および途中経過における取り組みについて達成度を評価する。
口頭発表	20	到達目標④および途中経過における取り組みについて達成度を評価する。

教科書:

参考文献等: 適宜指示します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、

教員との連絡方法: オフィスアワー　マナビーの掲示板機能　メール

601166 **卒業論文**

齋藤　　朱未

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

各自が設定した卒業論文のテーマに基づき，先行研究調査，現地調査，データ分析等を行ない，その進捗状況を報告する。その際，積極的に質疑を受け，応答し，討議を行なう。また，個人ゼミを行なうことで，進行状況を確認しつつ，より卒業論文テーマの内容について深めていく。
最終的には，卒業論文を期日までに提出し，卒業論文発表会にて発表する。

到達目標:

・まちづくりに関する専門的な知識について，卒業論文の作成を通して理解を深める
・設定したテーマに対し，研究の方法，まとめ，発表の仕方を習得する
・卒業論文の完成

授業方法:

ゼミナール形式で行なう。進捗状況の報告時にはレジュメを用意し，質疑応答，討議ができるようにしておく。なお，現地調査，データ分析などにおいて授業時間外の作業を伴うことが多い。
また，卒業論文の完成には数回の修正を求めることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の進め方と卒業論文に関する説明	自身の研究テーマについて整理しておく。(30分)
2.	研究計画の報告1	研究テーマの確認と研究計画について，スライドを作成する。(60分)
3.	研究計画の報告2	研究テーマの確認と研究計画について，スライドを作成する。(60分)
4.	研究の進捗状況報告1	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
5.	研究の進捗状況報告2	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
6.	研究の進捗状況報告3	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
7.	研究の進捗状況報告4	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
8.	研究の進捗状況報告5	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
9.	研究の進捗状況報告6	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
10.	研究の進捗状況報告7	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
11.	研究の進捗状況報告8	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
12.	研究の進捗状況報告9	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
13.	研究の進捗状況報告10	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
14.	中間報告1	これまでの研究内容を整理し，今後の研究計画を検討する。(60分)
15.	中間報告2	これまでの研究内容を整理し，今後の研究計画を検討する。(60分)
16.	研究の進捗状況報告と卒論目次の作成1	これまでの進捗状況と卒論目次についてレジュメを作成する。(30分)
17.	研究の進捗状況報告と卒論目次の作成2	これまでの進捗状況と卒論目次についてレジュメを作成する。(30分)
18.	研究結果の報告1	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
19.	研究結果の報告2	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
20.	研究結果の報告3	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
21.	研究結果の報告4	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
22.	研究結果の報告5	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
23.	研究結果の報告6	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
24.	卒業論文の要旨作成1	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
25.	卒業論文の要旨作成2	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
26.	卒業論文の概要作成1	卒業論文全体の概要を整理するとともに，結論について自身の考えをまとめる。(60分)
27.	卒業論文の概要作成2	卒業論文全体の概要を整理するとともに，結論について自身の考えをまとめる。(60分)
28.	卒業論文発表資料作成1	卒業論文口頭発表時に用いるスライドを作成する。(60分)
29.	卒業論文発表資料作成2	卒業論文口頭発表時に用いるスライドを作成する。(60分)
30.	卒業論文発表資料作成3	前回指摘を受けた箇所を修正したうえで，スライドを作成する。(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

4年間の学びの集大成として，多少つらい時期があるかもしれないが，最後まで粘り強く取り組むことを望む。

フィードバックの方法:

個々の提出物については，コメントを付け，教室で返却するほか，マナビーの個別指導によりコメントすることもある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し，卒業論文の完成に向けて取り組んでいるかを評価する。
卒業論文・口頭発表	50	自身が調べた内容に対し，きちんとまとめ，発表できているかを評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:	オフィスアワー，Eメール，マナビーの個別指導を利用

601167 **卒業論文**

藤本　　純子

FLTナンバー:

授業テーマ: 被服造形とデザイン

授業の概要: 本科目は、ゼミナール科目である。大学での学びの集大成として、主に被服造形およびデザインの視点から被服学に関する研究に取り組む。研究成果は、論文にまとめ、所定の期日までに指導教員に提出する。また卒業論文発表会において論文要旨を口頭発表する。

到達目標:
1.造形・デザインを中心に被服学分野の諸問題への関心を高め、知見を広げる。
2.被服学分野における諸問題を探求し、思考する態度を養う。
3.被服学分野における独自の視点にたった表現力を養う。
4.効果的な研究成果のまとめとプレゼンテーションの手順および方法を習得する。

授業方法: ゼミナール形式の授業。必要に応じて個人面談をおこなう。各自で研究に取り組み、授業時には報告とディスカッション等をおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	各自の研究テーマ・手法について考える。(60分)
2.	研究テーマ・手法の計画(1)	研究計画をレポートにまとめる。(90分)
3.	研究テーマ・手法の計画(2)	第2回のレポートに対する指摘事項について調べる。(90分)
4.	研究計画(1)	研究計画書を作成する。(90分)
5.	研究計画(2)	研究計画書を作成する。(90分)
6.	経過報告とディスカッション(1)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
7.	経過報告とディスカッション(2)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
8.	経過報告とディスカッション(3)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
9.	経過報告とディスカッション(4)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
10.	経過報告とディスカッション(5)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
11.	経過報告とディスカッション(6)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
12.	経過報告とディスカッション(7)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
13.	中間発表(1)	発表準備を行う。(90分) ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。(180分)
14.	中間発表(2)	発表準備を行う。(90分) ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。(180分)
15.	中間発表(3)	発表準備を行う。(90分) ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。(180分)
16.	研究の進度確認とディスカッション	これまでの研究成果と今後の計画についてまとめる。(90分)
17.	経過報告とディスカッション(8)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
18.	経過報告とディスカッション(9)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
19.	作品撮影と資料整理	作品・資料を整理する。(90分)
20.	論文作成(1)	論文を執筆する。(180分)
21.	論文作成(2)	論文を執筆する。(180分)
22.	論文作成(3)	論文を執筆する。(180分)
23.	論文作成(4)	論文をまとめ、仮提出する。(180分)
24.	卒業論文要旨および概要作成(1)	卒業論文要旨および概要を作成する。(180分)
25.	卒業論文要旨および概要作成(2)	卒業論文要旨および概要を作成する。(180分)
26.	卒業論文発表会の資料作成(1)	発表用のパワーポイントを作成する。 (90分)
27.	卒業論文発表会の資料作成(2)	発表用のパワーポイントを作成する。 (90分)
28.	卒業論文発表会の原稿作成(1)	発表原稿を作成する。(90分)
29.	卒業論文発表会の原稿作成(2)	発表原稿を作成する。(90分)
30.	卒業論文発表会の準備とまとめ	卒業論文発表会の発表練習を行う。(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 研究計画書はディスカッションの際に解説して返却する。
仮提出した要旨や論文は添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
論文(作品を含む)	40	研究内容と作品および論文完成度により到達目標1,2,3,4の達成度を評価する。
口頭発表	20	到達目標4を実践し、研究成果を正しく明瞭に伝えることができたかを基準とする。
参加度	40	到達目標1,2,3,4の達成に向けた研究および授業への取り組みへの積極性、態度・意欲を評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	Eメール, オフィスアワー

601168 **卒業論文**

麻生　　美希

FLTナンバー:

授業テーマ: 都市空間に関する研究

授業の概要: 人間生活学科での4年間の学びの集大成として、各自テーマを設定して研究を行い、論文としてまとめる。

到達目標:
・研究課題を設定できる。
・設定した課題に適した各種調査・分析ができる。
・理論的な文章で研究成果をまとめることができる。
・研究成果を簡潔に発表することができる。

授業方法:
ゼミ形式と個別指導で進める。
期限までに論文を指導教員に提出し、卒業論文発表会において口頭発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究の進め方・論文執筆の基本	特になし。
2.	研究課題の相談①	各自研究課題を検討し、レジュメとしてまとめる。(300分～)
3.	研究課題の相談②	各自研究課題を検討し、レジュメとしてまとめる。(300分～)
4.	研究課題の相談③	各自研究課題を検討し、レジュメとしてまとめる。(300分～)
5.	先行研究の調査、研究手法の検討①	各自先行研究の調査を行い、研究手法と計画をレジュメとしてまとめる。(300分～)
6.	先行研究の調査、研究手法の検討②	各自先行研究の調査を行い、研究手法と計画をレジュメとしてまとめる。(300分～)
7.	先行研究の調査、研究手法の検討③	各自先行研究の調査を行い、研究手法と計画をレジュメとしてまとめる。(300分～)
8.	進捗状況の発表①	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。(300分～)
9.	進捗状況の発表②	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。(300分～)
10.	進捗状況の発表③	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。(300分～)
11.	進捗状況の発表④	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。(300分～)
12.	進捗状況の発表⑤	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。(300分～)
13.	進捗状況の発表⑥	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。(300分～)
14.	夏季休暇中の調査計画の作成①	各自休暇中の研究計画をレジュメとしてまとめる。(300分～)
15.	夏季休暇中の調査計画の作成②	各自休暇中の研究計画をレジュメとしてまとめる。(300分～)
16.	中間発表①	各自調査を進め、その成果をレジュメとパワーポイントでまとめておく。(300分～)
17.	中間発表②	各自調査を進め、その成果をレジュメとパワーポイントでまとめておく。(300分～)
18.	論文執筆と進捗発表①	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。(600分～)
19.	論文執筆と進捗発表②	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。(600分～)
20.	論文執筆と進捗発表③	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。(600分～)
21.	論文執筆と進捗発表④	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。(600分～)
22.	論文執筆と進捗発表⑤	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。(600分～)
23.	論文執筆と進捗発表⑥	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。(600分～)
24.	要旨と概要の作成①	各自要旨と概要を作成しておく。(600分～)
25.	要旨と概要の作成②	各自要旨と概要を作成しておく。(600分～)
26.	卒業論文の仕上げ①	各自論文を仕上げる。(600分～)
27.	卒業論文の仕上げ②	各自論文を仕上げる。(600分～)
28.	研究発表会のパワーポイント作成①	各自パワーポイントを作成し、また必要に応じて発表原稿をまとめておく。(300分～)
29.	研究発表会のパワーポイント作成②	各自パワーポイントを作成し、また必要に応じて発表原稿をまとめておく。(300分～)
30.	発表リハーサル	各自発表準備を行っておく。(300分～)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: ゼミ形式の授業でのコメントの他、必要に応じて個別面談による指導を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加度	50	授業での定期的な進捗発表の内容、自主性
論文	50	研究課題の設定、調査・分析、文章表現

教科書: なし

参考文献等: 適宜、授業の際に紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法: メール

601172～85　**卒業論文（食物栄養科学科）**

FLTナンバー:

授業テーマ:　研究の実施，卒業論文の作成とプレゼンテーション

授業の概要:　栄養・調理・食品の各分野の専任教員の指導のもとに大学4年間の締めくくりとして，テーマを定めて1年間研究を行う。その成果を卒業論文発表会において発表し，卒業論文としてまとめる。これらを通して，学術研究における倫理的規範を身につけると共に，研究のすすめ方，問題点の解決法，研究のまとめ方，プレゼンテーションの方法を学ぶ。

到達目標:　持続的な研究活動により，配属研究室独自の高い技能を学修するだけでなく，分析・思考力やプレゼンテーション力，さらに計画立案・実行力，変化対応力，リーダーシップ，責任感と自己管理力，協同性など，社会人として求められる資質を身につける。得られた最終成果を論文にまとめて指導教員に提出し，学科主催の卒業論文発表会において専任教員と在学生の前で口頭発表する。

授業方法:　授業方法は担当する教員によって異なる。1テーマにつき1～複数名で行う。年間を通して教員の指導のもとで研究を進めるが，受け身ではなく，各自がグループ内で協調的に役割を果たしつつ，自律的に行動する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1.　1. オリエンテーション（心構え，研究の進め方，研究倫理など）	研究を遂行するに当たっては，各自がテーマに関連する科学論文を読み，計画をたて，実験や調査を行い，結果を分析する作業が必須である。そのため，授業時間外に継続的にまとまった時間を確保する必要がある。また，卒業論文発表会用のスライド作成や卒業論文をまとめる作業も，必要に応じて授業時間外に行う。
2.　2-27. 文献検索，討論，実験・調査（準備，測定，フィールドワーク，培養・飼育，データ処理，後片付けなど）を各研究室および各自の研究内容に応じて行い，研究室内で中間発表を行う。さらに，卒業論文発表会にむけて研究成果をまとめ，論文を作成す	
3.　28-30. 卒業論文まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　3年次に実施したオリエンテーションでの説明を参照して下さい。

フィードバックの方法:　教員が日常的に学生とディスカッションを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的参加度および研究に対する貢献度	50	
卒業論文発表会の発表および卒業論文	50	「卒業論文」に関しては，研究活動に対する取り組み状況，提出された論文や卒業論文発表会での内容に基づいて，指導教員が総合評価する。なお，卒業論文発表会では多数の専任教員と在学生の前で口頭発表し，その完成度が評価される。

教科書:　特に指定なし

参考文献等:　卒業論文のテーマにより異なる

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　研究室内で対応

691760

臨床栄養学特殊研究Ⅰ

今井　具子、神田　知子、小切間　美保、小松　龍史、近藤　慶子、杉浦　実、高嶋　直敬、田中　浩子、西村　公雄、森口　次郎、由田　克士、吉田　香

FLTナンバー:

授業テーマ:

栄養学分野における課題発見力、研究遂行力、発信能力を養うことにより、最近の栄養分野の課題(トピックス)に対して、エビデンスに基づいて管理栄養士の進むべき方向性を考えられる人材の育成がテーマです。

授業の概要:

栄養学分野で話題の最新のトピックスを専任教員・学外講師によるリレー講義で実施し、演習形式でアカデミックライティングを指導する能力を養い、研究遂行力を高めます。

到達目標:

栄養学分野の最新のトピックスと、アカデミックライティングを理解することで、これからの管理栄養士としてのリーダーシップを涵養することが、この授業の目標です

授業方法:

リレー方式の講義と演習(アカデミックライティング、プレゼンテーション、ディスカッションを含む)を組み合わせて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	アカデミックライティング1(演習1)	模擬データよりリサーチクエッション、アウトカムを設定し、研究デザイン、対象者抽出、データ収集方法を理解する。
2.	アカデミックライティング2(演習2)	模擬抄録の作成より、構造化論文の書き方、効果的なタイトル、キーワードの選び方等、研究デザインから学会発表への流れを理解する。
3.	職業倫理と栄養の指導	生命倫理、職業倫理、栄養専門職としての管理栄養士のすがたを理解する。
4.	管理栄養士に求められる研究手法(1)	研究デザイン、調査法、データクリーニング、データマイニング、解析手法、オープンデータについて理解する。
5.	管理栄養士に求められる研究手法(2)	情報を読み解く、クリティカル・シンキングを理解する。
6.	管理栄養士に求められる研究手法(3)	健康栄養データを解析するための基礎的な統計手法を理解する。
7.	アカデミックライティング3-1(演習3)	模擬抄録のプレゼンテーション。
8.	アカデミックライティング3-2(演習3)	模擬抄録発表のブラッシュアップの実際を学ぶ。
9.	データヘルス改革(特定健診・特定保健指導など)について(1)	健診データからみる日本人の健康状態・食事内容の変遷について理解するとともに、ビックデータについて理解する。
10.	データヘルス改革(特定健診・特定保健指導など)(2)	NIPPON DATAからみた食習慣と循環器疾患との関連を理解する。
11.	データヘルス改革(特定健診・特定保健指導など)(3)	日本人の健康増進における産業保健・事業所給食の役割を理解する。
12.	アカデミックライティング4-1(演習4)	模擬学会発表より、原稿・ポスター作成のコツ、話し方、質疑応答の対応について理解する。
13.	アカデミックライティング4-2(演習4)	効果的なプレゼンテーションのロジックを理解する。
14.	これからの臨床分野の管理栄養士(1)	診療所における継続支援型栄養相談を考える。
15.	これからの臨床分野の管理栄養士(2)	糖尿病における効果的な栄養教育の事例紹介。
16.	これからの臨床分野の管理栄養士(3)	対象者に合わせた生活習慣改善のための栄養教育を考える。
17.	アカデミックライティング5(演習5)	模擬データよりプロシーディング作成、ペーパーワークの意義、アカデミックライティングについて理解する。
18.	食ビジネスと管理栄養士(1)	管理栄養士の行うフードマネジメントを理解する。
19.	食ビジネスと管理栄養士(2)	特定給食のためのマーケティングを理解する。
20.	食ビジネスと管理栄養士(3)	少子高齢社会に対応する食品流通業について理解する。
21.	食品表示と食品の機能性(1)	食品表示と管理栄養士の役割を理解する。予習を90分、復習を90分行うように心がけて下さい。
22.	食品表示と食品の機能性(2)	食品機能性の開発と商品化の例から学ぶ管理栄養士の役割。
23.	公衆衛生と栄養(1)	サプリメントの功罪、食品安全行政、リスク管理を理解する。
24.	公衆衛生と栄養(2)	栄養表示と食品添加物の現状を理解する。
25.	管理栄養士のアドボカシー(1)	健康・栄養調査の企画・実施から施策提案、実施、評価PDCAサイクルの実際を地方行政の取り組み例から学ぶ。
26.	管理栄養士のアドボカシー(2)	研究からヘルスプロモーションへの連携を理解する。
27.	管理栄養士のアドボカシー(3)	管理栄養士としての施策への関わり方を理解する。
28.	医療経営と健康経営(1)	医療経営と健康経営を理解する。
29.	医療経営と健康経営(2)	企業の実例紹介より医療経営・健康経営を理解する。
30.	医療経営と健康経営(3)	医療経営・健康経営と管理栄養士の役割を理解する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

演習で行うアカデミックライティングでは、模擬データから模擬抄録作成、模擬学会発表、プロシーディング作成と順を追って実際にアカデミックライティングを行います。平行して行うリレー方式の講義の合間に、各自自主学習を行ってください。自主学習には充分な学習時間を確保して下さい。

フィードバックの方法:

授業中、授業前後にプレゼンテーション、ディスカッション等についてコメントします。必要な場合は、マナビーのレポート、掲示機能を用いて行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	50	プレゼンテーションの内容、準備状況、プレゼンテーション力。
ディスカッション	30	ディスカッションへの貢献度、クリティカル・シンキングの理解度。
授業態度	15	教員・他学生からのコメント・質疑応答への参加度。
出席状況	5	出席数を点数化し、遅刻・欠席を減点する。

教科書:

なし、必要に応じて適宜資料を配付します。

参考文献等:

初めての栄養学研究論文　人には聞けない要点とコツ　栄養学雑誌編集委員会編集　第一出版　2012年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	専任教員とはオフィスアワー・マナビーの掲示機能、授業前後の対応で行います。 非常勤教員は授業の前後に対応し、必要があれば専任教員を通しての連絡を行います。

692060

臨床栄養学特殊研究Ⅳ

小切間　美保、小松　龍史、佐々木　雅也、高木　洋子、土居　健太郎、福田　正子、桝田　出、田中　雅彰、吉川　貴仁、院生活未定５

FLTナンバー:

授業テーマ: 臨床栄養学

授業の概要: 糖質、脂質、タンパク質の代謝異常による疾患の病態と栄養管理について学ぶ

到達目標: 糖質、脂質、タンパク質の代謝異常による疾患の病態を理解して栄養管理を学ぶ

授業方法: 講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	糖尿病　１	糖尿病について予習する
2.	糖尿病　２	前回の授業内容の復習
3.	糖尿病　３	前回の授業内容の復習
4.	糖尿病　４	前回の授業内容の復習
5.	糖尿病　５	前回の授業内容の復習
6.	糖尿病の栄養管理　１	糖尿病の栄養管理について予習する
7.	糖尿病の栄養管理　２	前回の授業内容の復習
8.	脂質異常症1	脂質異常症の予習
9.	脂質異常症2	前回の授業の復習
10.	脂質異常症3	前回の授業の復習
11.	脂質異常症の栄養管理　１	前回の授業内容の復習
12.	脂質異常症の栄養管理　２	前回の授業内容の復習
13.	肥満症の栄養管理	前回の授業内容の復習
14.	ヒト栄養研究	栄養研究の予習
15.	まとめ	前回の授業内容の復習
16.	微量元素	予習
17.	食物繊維	予習
18.	高血圧・循環器疾患　１	高血圧・循環器疾患についての知識の整理
19.	高血圧・循環器疾患　２	前回の授業内容の復習
20.	高血圧・循環器疾患　３	前回の授業内容の復習
21.	高血圧・循環器疾患　４	前回の授業内容の復習
22.	高血圧・循環器疾患　５	前回の授業内容の復習
23.	高血圧・循環器疾患の栄養管理　１	前回の授業内容の復習
24.	高血圧・循環器疾患の栄養管理　２	前回の授業内容の復習
25.	高尿酸血症　１	高尿酸血症についての予習
26.	高尿酸血症　２	前回の授業内容の復習
27.	高尿酸血症の栄養管理	前回の授業内容の復習
28.	まとめ	前回の授業内容の復習
29.	食欲の科学	予習
30.	まとめ	前回の授業の復習

受講者へのメッセージやアドバイス: 遅刻せずに皆出席可能な状況の年に受講すること
予習してあらかじめ知識の整理をしておく、授業後は必ず復習することにより効果的な学習が可能となる

フィードバックの方法: 毎回の授業において質疑応答を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
まとめの試験	100	受験資格は出席80%以上、試験70点以上を合格

教科書:

参考文献等: 伊藤節子編著　臨床病態学（化学同人）
各講師の配布資料

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業後

692360

臨床栄養学特別研究

小松　　龍史

FLTナンバー:

授業テーマ: 臨床栄養研究

授業の概要: 研究計画、実施、解析、修士論文作成に関する個別指導を行う

到達目標: 先行研究の検索から修士論文作成までの一連の経験と教員による指導を通して、自らの力で研究活動を遂行できる基礎的能力を身に着ける

授業方法: 個別面談、メールその他の方法により指導する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究計画	先行研究の検索と検証、計画立案について、教員や指導者と相談しながら進める
2.	研究倫理審査受審	審査書類の作成を行い、受審手続きを行えるよう取り組む
3.	研究の実施	スケジュール管理とともに研究実技（分析機器等の実技）の習熟に取り組む
4.	データベ―スの構築	データ管理の基本、コンピュータソフトの活用能力を身に着ける
5.	データの解析、統計処理	統計処理の基本学習とともにSPSS等の統計ソフトに習熟する
6.	論文作成	論文作成指導を受けながら、論文審査の2か月前を目途に計画的に進める
7.	学会発表	プレゼンテーションのソフトの活用力や表現力を磨く
8.	修士論文審査	適切な質疑応答が出来るよう研究や研究結果への理解を深める

受講者へのメッセージやアドバイス: 常に指導者や教員と連携を心がけること（報告・連絡・相談）

フィードバックの方法: 面談やメール等により随時対応します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究への取り組み	30	日ごろの取り組みの評価
論文内容	30	論文の内容、論旨、図表等を総合的に評価
審査発表	40	適切な発表と質疑応答ができているかを総合的に評価

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: メール、電話、面談等随時

699760

臨床栄養学実地研究

小松　　龍史

FLTナンバー:

授業テーマ:　医療分野の管理栄養士業務について実地研修（インターンシップ）を行うことにより、実務能力を体得する。

授業の概要:　医療機関において1年間にわたり実地研修を行い、医療分野の管理栄養士としての基本的能力を養う。特に1年間で到達すべきコンピテンシーを業務分野ごとに明示されたレベルに到達できることを目標とする。

到達目標:　インターンシップにより実施する研修分野と到達すべきコンピテンシーの概要は次の通り。
＜インターンシップにおけるスキルの到達目標＞
レベルI当該項目を知っているが経験がない
レベルII当該項目を指導下で実践できる。　（経験はあるが単独ではできない）
レベルIII当該項目を単独で実践できる
レベルIV当該項目を熟練し指導できる

授業方法:　医療機関においての実地修練であることから、管理栄養士だけでなく、医師、コメディカルスタッフ、事務職、調理師等関連職者から実地指導を受ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

「授業内容」／Course Contents and Outside Class Work

	授業内容	準備学習等の内容
1.	医療人として、管理栄養士として、組織人としての基本的な態度、行動をとる （目標レベルIII）	特に医療における管理栄養士の職業倫理について、既存資料、webサイト、日本栄養士会生涯教育などにより、研鑽しまとめておく。
2.	栄養管理 (1)栄養評価（目標レベルIII） (2)栄養管理計画（目標レベルIII） (3)栄養補給法（目標レベルII～III） (4)食事摂取量調査（目標レベルIII） (5)医療連携（目標レベルI～III）	栄養管理プロセスの基本、特に栄養評価に基づく栄養診断について学習しておく。
3.	栄養指導 行動科学的な手法を用いた指導ができる、など（目標レベルII～III）	認知行動療法などの栄養指導において応用される介入手法について学習しておく。
4.	チーム医療への参加、クリニカルパスの運用 （目標レベルII）	医療における様々な医療チームの現状と診療報酬上に多職種連携がどのように評価されているかを学習しておく。
5.	給食経営管理 (1)献立作成（目標レベルII～III） (2)調理・配膳（目標レベルI～III） (3)食材料管理（目標レベルII～III） (4)給食の評価（目標レベルII～III）	給食経営管理においてポイントとなる業務を理解するために、医師によるオーダーから、配食に足るまでの情報の流れと関連業務を総括して述べられる準備をしておく。
6.	リスクマネジメント (1)医療安全管理 （目標レベルI～III） (2)院内感染対策 （目標レベルI～II） (3)食品衛生管理 （目標レベルI～II） (4)災害時緊急対策（目標レベルI～II）	食事の安全安心を含め、医療現場におけるリスク管理を、患者、医療者、施設などそれぞれの視点からまとめておく
7.	栄養関連会議に出席し意見を述べる。（目標レベルI）	栄養関連の会議の種類、出席者、必要な資料等について調べておく。
8.	部門運営 （費用対効果、労働基準法など含む）（目標レベルI～II）	栄養部門業務を俯瞰して図式し、人員配置、業務の概要、合理的な運営方法などについて検討しておく。労働基準法、労働安全衛生法などを調べておく。
9.	研究活動 （テーマ設定、計画、実施、まとめ、論文作成）（目標レベルII～III）	1年次から研究テーマについて、指導教員、現地指導者と十分に話し合っておく。人を対象とした医学研究の倫理審査について、学習しておく。
10.	専門分野の知識の習得 （目標レベルIII）	特に医療における管理栄養士に必要な専門知識や技術について把握し、学会誌等をとおして新しい知識の習得に努める。

受講者へのメッセージやアドバイス:　インターンシップは、受け身で研修すると十分に効果をもたらしません。常に与えられた課題について、事前準備を怠らず、実地研修に臨むこと。報告、連絡、相談を心がけること。すべての研修内容は、管理栄養士が求められるスキルを習得し患者の治療に最大限に貢献するために行うものであることを忘れてはいけない。

フィードバックの方法:　指導教員は学生およびインターンシップ指導者と密接に連携し、実習内容の確認および、スキルの到達度の点検を実施する。点検により研修内容の修正や研修量の調整を行い、最大限に研修効果を得るよう連携する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50%	出席率60%未満は0点とする
到達度評価	50%	コンピテンシー票の記載により到達度を評価

教科書:　用いない

参考文献等:
給食経営管理実務ガイドブック　富岡和夫編著（同文書院）
栄養管理プロセス　日本栄養士会監訳（第一出版）
静脈経腸栄養ガイドライン（第3版）　日本静脈経腸栄養学会編集（照林社）
エッセンシャル臨床栄養学第8版　佐藤和人、本間健、小松龍史編（医歯薬出版）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　電話、メール等でアポイントメントを取り、面談して対応する

711801～17　**薬学研究Ⅰ**

薬学部教員

FLTナンバー:

授業テーマ:　問題解決能力の醸成
（薬学教育モデル・コアカリキュラムG 薬学研究）

授業の概要:　研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。

到達目標:　研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解し、自らが実施する研究に係る法令、指針を理解した上で、それらを遵守して研究に取り組み、研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。医療機関、製薬企業、医療行政などの幅広い薬学専門分野において、問題点や課題を自ら発見し、それらの解決のために真摯に取り組む研究者としての視点を身に付けている。

授業方法:　実験研究ならびに調査研究に対し個別に教育指導を行う。学生の研究内容にあわせて指導教員が個別に指導する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1)薬学における研究の位置づけ G(1)－1)～4) 1.　基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2.　研究には自立性と独創性が求められていることを知る。 3.　現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4.　新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度) (2)研究に必要な法規範と倫理 G(2)－1)～3) 1.　自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2.　研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3.　正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)A-(2)・④-3再掲 (3)研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 G(3)－1)～6) 1.　研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能) 2.　課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計両を立案する。(知識・技能) 3.　研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度) 4.　研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 5.　研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度) 6.　研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
2.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
3.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
4.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
5.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
6.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
7.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
8.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
9.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
10.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
11.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
12.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。

13.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
14.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
15.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
16.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
17.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
18.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
19.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
20.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
21.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
22.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
23.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
24.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
25.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
26.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
27.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
28.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
29.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
30.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
毎回の出席に加えて、研究を自ら遂行する積極性が重要である。

フィードバックの方法:
指導教員から随時直接フィードバックを行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的な研究態度	50	積極的に研究しているかをルーブリックにより評価する。
発表・研究論文内容	50	研究内容を適正に発表・纏めているかをルーブリックにより評価する。

教科書:
それぞれの研究専門分野の書物、ならびに、研究に関連する論文

参考文献等:
それぞれの研究専門分野の書物、ならびに、研究に関連する論文

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
各教員で対応

711901～17　**薬学研究Ⅱ**

薬学部教員

FLTナンバー:

授業テーマ:　問題解決能力の醸成
（薬学教育モデル・コアカリキュラムG 薬学研究）

授業の概要:　研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。

到達目標:　薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。問題点や課題を自ら発見し、それらの解決のために真摯に取り組む研究者としての視点を身に付けている。

授業方法:　実験研究ならびに調査研究に対し個別に教育指導を行う。学生の研究内容にあわせて指導教員が個別に指導する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 （1）将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 E1（1）－1）～7） 1.　課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。（態度） 2.　問題点を自ら進んで解決しようと努力する。（態度） 3.　課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。（態度） 4.　課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。（態度） 5.　研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。（態度） 6.　環境に配慮して、研究に取り組む。（態度） 7.　チームの一員としてのルールやマナーを守る。（態度） （2）将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 E1（2）－1）～13） 1.　課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。（知識・技能） 2.　課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。 3.　課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。（技能） 4.　実験計画を立案できる。（知識・技能） 5.　実験系を組み、実験を実施できる。（技能） 6.　実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。（技能・態度） 7.　研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。（態度） 8.　研究の各プロセスを正確に記録する。（技能・態度） 9.　研究の結果をまとめることができる。（技能） 10.　研究の結果を考察し、評価できる。（技能） 11.　研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。（技能・態度） 12.　研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。（技能） 13.　自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。（知識・技能） （3）研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 E1（3）－1）～3） 1.　研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。（知識・技能・態度） 2.　新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。（態度） 3.　科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。（知識・態度）	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
2.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
3.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
4.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
5.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
6.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
7.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

8.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
9.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
10.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
11.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
12.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
13.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
14.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
15.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
16.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
17.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
18.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
19.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
20.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
21.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
22.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
23.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
24.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
25.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
26.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
27.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
28.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
29.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
30.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

受講者へのメッセージやアドバイス: 毎回の出席に加えて、研究を自ら遂行する積極性が重要である。

フィードバックの方法: 指導教員から随時直接フィードバックを行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的な研究態度	50	積極的に研究しているかをルーブリックにより評価する。
発表・研究論文内容	50	研究内容を適切に発表・纏められているかをルーブリックにより評価する。

教科書: それぞれの研究専門分野の書物、ならびに、研究に関連する論文

参考文献等:	それぞれの研究専門分野の書物、ならびに、研究に関連する論文
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	各教員で対応

712001～17　**薬学研究Ⅲ**

薬学部教員

FLTナンバー:

授業テーマ:　問題解決能力の醸成
（薬学教育モデル・コアカリキュラムG 薬学研究）

授業の概要:　研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。

到達目標:　薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。実験・調査・観察などで得られた結果を適切に解析・評価するとともに、わかりやすく報告・発表する力を身に付けている。

授業方法:　実験研究ならびに調査研究に対し個別に教育指導を行う。学生の研究内容にあわせて指導教員が個別に指導する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 （1）将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 E1（1）－1）～7） 1.　課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。（態度） 2.　問題点を自ら進んで解決しようと努力する。（態度） 3.　課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。（態度） 4.　課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。（態度） 5.　研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。（態度） 6.　環境に配慮して、研究に取り組む。（態度） 7.　チームの一員としてのルールやマナーを守る。（態度） （2）将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 E1（2）－1）～13） 1.　課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。（知識・技能） 2.　課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。 3.　課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。（技能） 4.　実験計画を立案できる。（知識・技能） 5.　実験系を組み、実験を実施できる。（技能） 6.　実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。（技能・態度） 7.　研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。（態度） 8.　研究の各プロセスを正確に記録する。（技能・態度） 9.　研究の結果をまとめることができる。（技能） 10.　研究の結果を考察し、評価できる。（技能） 11.　研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。（技能・態度） 12.　研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。（技能） 13.　自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。（知識・技能） （3）研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 E1（3）－1）～3） 1.　研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。（知識・技能・態度） 2.　新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。（態度） 3.　科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。（知識・態度）	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
2.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
3.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
4.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
5.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
6.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
7.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

8.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
9.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
10.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
11.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
12.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
13.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
14.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
15.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
16.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
17.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
18.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
19.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
20.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
21.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
22.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
23.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
24.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
25.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
26.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
27.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
28.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
29.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。
30.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回の出席に加えて、研究を自ら遂行する積極性が重要である。

フィードバックの方法:

指導教員から随時直接フィードバックを行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文	30	研究内容が論文として適正に纏められているかをルーブリックにより評価する。
発表	20	研究内容を適切に発表し、質疑応答できるかをルーブリックにより評価する。
研究（平常点）	50	研究に積極的に取り組み、遂行しているかを評価する。

教科書:	それぞれの研究専門分野の書物、ならびに、研究に関連する論文
参考文献等:	それぞれの研究専門分野の書物、ならびに、研究に関連する論文
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	各教員で対応

752101、02

生活援助技術

木村　静、東　真理、古川　亜衣美、假谷　ゆかり、亀井　啓子

FLTナンバー: NUSd15-KG

授業テーマ: 安楽で安全な生活援助技術を修得する

授業の概要: 看護の基本となる生活援助技術を、対象者の安楽・安全と、看護者自身の安全・安楽の視点を踏まえて学ぶ。
生活援助技術としては、環境、活動、清潔、食事、排泄、安楽の援助に関する項目を含む。

到達目標: ①安楽・安全な生活援助技術を行うために必要な基礎的知識を習得することができる。
②対象者にとって最も安楽・安全な生活援助方法を理解するための基礎的技術を体験することができる。

授業方法: 授業は講義、演習より構成される。
講義では、科学的根拠および、対象者や看護者の安全・安楽に関する視点に重点をおいて行う。
演習では、デモンストレーションをみた後に、2～4名のグループとなり、看護師役、患者役、観察者役に分かれて実施する。
倫理的態度を身に着ける視点も含める。演習後の振り返りを実施することにより、学びを共有し、知識の習得および技術の獲得を高める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	科目オリエンテーション/看護技術とは/安楽・安全な生活援助とは/生活環境とは	シラバスを読む（予習） 教科書関連ページを読む(予習・復習) (60分)
2.	活動・休息の援助とは	教科書関連ページを読む（予習・復習） (60分)
3.	バイタルサインの観察を用いた環境に関しての体験学習① （グループワーク）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 演習後レポートを作成する(復習) (60分)
4.	バイタルサインの観察を用いた環境に関しての体験学習② （まとめ）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 演習後レポートを作成する(復習) (60分)
5.	病床整備と援助の環境① （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う（予習・復習） (60分)
6.	病床整備と援助の整備② （グループワーク）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う（予習・復習） (60分)
7.	安楽な体位と体位変換① （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う（予習・復習） (60分)
8.	安楽な体位と体位変換② （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う（予習・復習） (60分)
9.	ストレッチャーと車椅子移乗と移送① （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う（予習・復習） (60分)
10.	ストレッチャーと車椅子移乗と移送② （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う（予習・復習） (60分)
11.	清潔の援助とは	教科書関連ページを読む（予習・復習） (60分)
12.	衣生活の援助とは リネン交換の方法（デモンストレーション）	教科書関連ページを読む（予習・復習） (60分)
13.	リネン・寝衣交換① （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う（予習・復習） (60分)
14.	リネン・寝衣交換② （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う（予習・復習） (60分)
15.	全身清拭① （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習後レポートを作成する(復習) (60分)
16.	全身清拭② （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習後レポートを作成する(復習) (60分)
17.	洗髪・整容の援助とは	教科書関連ページを読む（予習・復習） (60分)

18.	洗髪・整容① （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う（予習・復習） （60分）
19.	洗髪・整容② （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う（予習・復習） （60分）
20.	食事の援助とは	教科書関連ページを読む（予習・復習） （60分）
21.	食事・口腔清拭① （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習前後でレポートを作成する(予習・復習) （60分）
22.	食事・口腔清拭② （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習前後でレポートを作成する(予習・復習) （60分）
23.	排泄の援助とは	教科書関連ページを読む（予習・復習） （60分）
24.	床上排泄・陰部洗浄① （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う（予習・復習） （60分）
25.	床上排泄・陰部洗浄② （デモンストレーション／実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う（予習・復習） （60分）
26.	実技チェック	教科書関連ページを読む（予習・復習） （60分）
27.	足浴・手浴① （グループ実技演習）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 演習後レポートを作成する(復習) （60分）
28.	足浴・手浴② （グループ発表）	教科書関連ページを読む（予習・復習） 手順を確認する（予習） 演習後レポートを作成する(復習) （60分）
29.	安楽確保の援助とは（個別発表）	これ迄の学修範囲を振り返る（復習） （90分）
30.	まとめ	学習範囲の総復習を行う（予習） （90分）

受講者へのメッセージやアドバイス:

上記30コマの授業内容は順序を変更して開講することがあります。
なお、単位認定においては、①期末試験60点以上、②30コマのうち2/3以上の出席を必要とします。
また、1コマ欠席につき、3点減点します。

コロナ感染拡大によっては、感染防止の観点から、授業方法の変更があり得ます。

フィードバックの方法:

各単元に課したレポートの内容を確認後にコメントをつけて返却します。また、技術に対してコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技チェック	40	到達目標②に対する達成度より評価する
筆記試験	30	到達目標①に対する知識や理解度より評価する
レポート	20	到達目標①、②を踏まえ、実技演習の振り返りより、自分が根拠を理解し、対象者への配慮をもって技術を達成できたかを基準とする
演習態度	10	到達目標②に対する準備状態と態度・意欲より評価する
欠席		減点する

教科書:

阿曽洋子ほか、基礎看護技術、第8版、医学書院.
看護がみえるVOL1　基礎看護技術、MEDIC MEDIA.

参考文献等:

角濱春美ほか、看護実践のための根拠が分かる基礎看護技術　第2版、メヂカルフレンド社.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、マナビーなどで対応する。

752201、02

診療補助技術

木村　　静、東　　真理、古川　　亜衣美

FLTナンバー:　NUSd25-KG

授業テーマ:　安全で安楽な診療の補助技術を修得する

授業の概要:　看護の基本となる診療の補助技術を、対象の安全・安楽のみでなく、看護者自身の安全・安楽に配慮して実施する視点に重点をおいて学ぶ。

到達目標:
1. 科学的根拠に基づいて診療の補助技術を実施するために必要な基礎的知識を習得することができる。
2. 安全・安楽に配慮した診療の補助技術を獲得することができる。

授業方法:　授業は、web上における講義、および技術動画配信により構成される。
講義配信に関しては、科学的根拠および、対象者や看護師の安全・安楽に関して重点をおく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	科目のオリエンテーション 診療の補助技術とは	シラバスを読む（予習） 教科書関連ページを読む（予習・復習） 講義内容を整理する（復習） マナビー上アンケートに回答する（復習） マナビー上レポートを提出する（復習） 【60分】
2.	感染予防の基礎知識① 【手指衛生】 【個人防護具の着脱】	教科書関連ページを読む（予習・復習） 講義内容を整理する（復習） マナビー上アンケートに回答する（復習） ＜1年次に使用した「看護がみえるVol1」をテキストとして用います。＞ 【60分】
3.	感染予防の基礎知識② 【無菌操作】 【滅菌物の取り扱い】 【鑷子の取り扱い】	教科書関連ページを読む（予習・復習） 講義内容を整理する（復習） マナビー上アンケートに回答する（復習） ＜1年次に使用した「看護がみえるVol1」をテキストとして用います。＞ 【60分】
4.	感染予防の基礎知識③ 【無菌操作】 【滅菌物の取り扱い】 【鑷子の取り扱い】	教科書関連ページを読む（予習・復習） 講義内容を整理する（復習） マナビー上アンケートに回答する（復習） ＜1年次に使用した「看護がみえるVol1」をテキストとして用います。＞ 【60分】
5.	感染予防の基礎知識④ 【滅菌手袋の着脱】	教科書関連ページを読む（予習・復習） 講義内容を整理する（復習） マナビー上アンケートに回答する（復習） ＜1年次に使用した「看護がみえるVol1」をテキストとして用います。＞ 【60分】
6.	感染予防の基礎知識⑤ 【感染予防のまとめ】	教科書関連ページを読む（予習・復習） 講義内容を整理する（復習） マナビー上アンケートに回答する（復習） マナビー上小テストを提出する（復習） ＜1年次に使用した「看護がみえるVol1」をテキストとして用います。＞ 【60分】
7.	与薬（総論）① 【与薬における看護の役割】 【薬物管理に関する規定】	教科書関連ページを読む（予習・復習） 講義内容を整理する（復習） マナビー上アンケートに回答する（復習） ＜1年次に使用した「看護がみえるVol1」をテキストとして用います。＞ 【60分】
8.	与薬（総論）② 【薬物動態の基礎】 【与薬に関する安全管理】	教科書関連ページを読む（予習・復習） 講義内容を整理する（復習） マナビー上アンケートに回答する（復習） マナビー上レポートを提出する（復習） ＜1年次に使用した「看護がみえるVol1」をテキストとして用います。＞ 【60分】
9.	与薬（総論）③ 【与薬のまとめ】	教科書関連ページを読む（予習・復習） 講義内容を整理する（復習） マナビー上アンケートに回答する（復習） ＜1年次に使用した「看護がみえるVol1」をテキストとして用います。＞ 【60分】
10.	与薬（各論）① 【経口与薬】 【口腔内与薬】	教科書関連ページを読む（予習・復習） 講義内容を整理する（復習） マナビー上アンケートに回答する（復習） ＜1年次に使用した「看護がみえるVol1」をテキストとして用います。＞ 【60分】
11.	与薬（各論）② 【直腸内与薬】	教科書関連ページを読む（予習・復習） 講義内容を整理する（復習） マナビー上アンケートに回答する（復習） ＜1年次に使用した「看護がみえるVol1」をテキストとして用います。＞ 【60分】

12.	与薬(各論)③ 【吸入療法】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) ＜1年次に使用した「看護がみえるVol1」をテキストとして用います。＞ 【60分】
13.	与薬(各論)④ 【経皮・点眼・点鼻・点耳】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) ＜1年次に使用した「看護がみえるVol1」をテキストとして用います。＞ 【60分】
14.	与薬(各論)⑤ 【与薬(経口・直腸内・外用)のまとめ】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) マナビー上小テストを提出する(復習) ＜1年次に使用した「看護がみえるVol1」をテキストとして用います。＞ 【60分】
15.	与薬(各論)⑥ 【注射法】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) 【60分】
16.	与薬(各論)⑦ 【皮内・皮下・筋肉・静脈注射】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) 【60分】
17.	与薬(各論)⑧ 【皮内・皮下・筋肉・静脈注射】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) 【60分】
18.	与薬(各論)⑨ 【皮内・皮下・筋肉・静脈注射】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) 【60分】
19.	与薬(各論)⑩ 【与薬(注射)のまとめ】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) マナビー上小テストを提出する(復習) 【60分】
20.	採血法①	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) 【60分】
21.	採血法② 【まとめ】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) 【60分】
22.	呼吸に関する医療処置① 【酸素療法】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) 【60分】
23.	呼吸に関する医療処置② 【酸素療法まとめ】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) 【60分】
24.	呼吸に関する医療処置③ 【吸引】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) 【60分】
25.	呼吸に関する医療処置④ 【吸引まとめ】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) 【60分】
26.	排泄に関する医療処置① 【浣腸・摘便】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) 【60分】
27.	排泄に関する医療処置② 【浣腸・摘便】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) 【60分】
28.	排泄に関する医療処置③ 【導尿】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) 【60分】
29.	排泄に関する医療処置④ 【導尿のまとめ】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) 【60分】
30.	まとめ	全学習範囲の総復習を行う(復習) マナビー上アンケートに回答する(復習) マナビー上レポートを作成する(復習) 【90分】

受講者へのメッセージやアドバイス:	上記30コマの授業内容は、順序や小テストやレポートの実施回などを変更し開講することがありますが、その際はマナビーにてお知らせします。 なお、単位認定には、①全体の2/3以上の授業コマにおける出席、②レポート70点以上、を必要とします。
フィードバックの方法:	マナビー上にて学生にフィードバックします。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	70%	各単元におけるレポート内容より評価する。 期限を過ぎた提出は認めない。
受講態度	30%	授業に対する取り組み（小テストやアンケートへの参加度等）より評価する。
欠席	10%	減点する。マナビー上授業資料の確認状況や、アンケートにおける回答の有無にて評価する。

教科書:	阿曽洋子ほか、基礎看護技術、第8版、医学書院 看護がみえるVOL2、基礎看護技術、MEDIC MEDIA 看護がみえるVOL1、基礎看護技術、MEDIC MEDIA
参考文献等:	角濱春美ほか、基礎看護技術、メヂカルフレンド社 竹尾恵子、看護技術プラクティス、学研 系統看護学講座、基礎看護技術Ⅱ、医学書院
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	木村までメールでご連絡下さい。

755901

卒業研究Ⅱ

小松　　光代

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究計画書の作成）

授業の概要: 在宅看護または高齢者看護学領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:
1.文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる
2.在宅看護または高齢者看護学領域の保健医療福祉に関する研究の情報を収集し、解明されている点と未解明な点を分析し、研究テーマを焦点化する
3.研究テーマについて、研究の意義や目的を明確にできる
4.研究目的にそった適切な研究方法を選択することができる
5.研究倫理に配慮した研究計画書を作成できる

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究Ⅱガイダンス 文献検索の目的と意義	在宅看護学や高齢者看護学について関心のある研究テーマを持参する(30分)
2.	研究テーマの明確化：リサーチクェスチョンを意識化する	実習場面や講義を振り返り、関心のある看護研究テーマを持参する(30分)
3.	研究テーマの明確化：リサーチクェスチョンとキーワードを焦点化する	いくつかの研究テーマから絞り込み、キーワードを考えておく（60分）
4.	文献検索演習(1)：キーワードをもとに検索	適切なキーワードを5つ程度考えておく（60分）
5.	文献検索演習(2)：絞り込み検索	疾患や年齢、性別、看護方法や場等について絞りこみができる準備をしておく(60分)
6.	文献検索演習(3)：有用な文献を選択	アブストラクトを読み、有用な文献を選択しておく（120分）
7.	研究テーマに関連した文献検討(1)：文献を読み込み文献カード作成	収集した文献を読み、文献カードを作成する。発表準備をする（120分）
8.	研究テーマに関連した文献検討(2)：作成した文献カードを分類する	収集した文献を読み、複数の文献カードを整理し発表準備をする（120分）
9.	研究テーマに関連した文献検討(3)：先行研究成果を明らかにする	収集した文献から、研究テーマに沿った先行研究成果を発表できるように準備する（180分）
10.	研究テーマに関連した文献検討(4)：先行研究結果から研究課題を明確にする	テーマに関する文献検討資料の作成(120分)
11.	研究テーマに関連した文献検討(5)：先行研究結果から研究課題の意義をまとめる	テーマに関する文献検討資料の作成(120分)
12.	研究テーマに関連した文献検討(6)：文献検討結果をわかりやすく整理し文章化する	文献検討結果をレポートにまとめておく(120分)
13.	研究テーマに関連した文献検討(7)：文献検討結果をレポートとしてまとめる	レポート①を修正し、提出する(120分)
14.	研究テーマに関連した文献検討(8)：文献検討結果のプレゼンテーション	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく(60分)
15.	研究計画書の意義、構成等について	資料を読み、計画書の作成について復習しておく 卒業研究Ⅰで作成した計画書を見直す(60分)
16.	研究方法の検討(対象者の選定やデザイン)	量的研究、質的研究の分析方法について学習しておく 研究実施の予算やスケジュールについて確認する（120分）
17.	研究倫理について(1)：研究倫理の現状、法律と制度	研究倫理について、卒業研究Ⅰの内容を復習しておく（30分）
18.	研究倫理について(2)：倫理的配慮の手続方法きについて	倫理審査委員会について調べておく(30分)
19.	研究方法について(1)：実験研究	実験研究方法について復習ておく（60分）
20.	研究方法について(2)：質的研究法	質的研究方法について復習しておく（60分）
21.	研究方法について(3)：事例研究	事例研究について復習しておく（120分）
22.	研究方法について(4)：実態調査：質問紙法）	質問紙法について復習しておく（120分）
23.	研究計画について(分析方法の検討)	研究計画の検討(60分)
24.	研究計画書の作成(原案作成)	研究計画原案の作成(120分)
25.	研究計画書の作成(修正)	研究計画書(修正案)の作成(60分)
26.	研究計画書の作成(推敲)	研究計画書の見直しと修正案の作成(60分)
27.	研究計画書の作成(完成)	研究計画書（レポート②)の仕上げをしておく（120分）
28.	研究計画書のプレゼンテーション準備	指定されたパワーポイント資料の作成(60分)
29.	研究計画書のプレゼンテーション	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく（30分）
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 興味あるテーマを見つけて、看護の現象について深く考え将来的に看護の質の向上につながるような研究を計画しましょう。

フィードバックの方法: 教室（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	70	到達目標1～5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 適宜、紹介する。

参考文献等:	必要時、紹介する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	講義時又はメールで連絡する。

755902

卒業研究Ⅱ

眞鍋　　えみ子

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究計画書の作成）

授業の概要: 看護実践の探究とその方法としての研究の必要性を学ぶことをねらいとする。卒業研究Ⅰの学修を基盤として、ウイメンズヘルス領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:
1）文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2）研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる（現状を把握できる）。
3）自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4）研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5）研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 演習（プレゼンテーション、ディスカッションなど）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	関心のあるテーマの模索①　ブレインストーミング	これまでの学習や経験からウイメンズヘルス領域における関心のあるテーマについて考える（60分）
3.	関心のあるテーマの模索②　ブレインストーミング後の情報整理、テーマを絞る	前回の授業内容から、情報整理をしておく（60分）
4.	関心のあるテーマと文献検討①	卒業研究Ⅰで学習した文献クリティークの視点を確認しておく（60分）
5.	関心のあるテーマと文献検討②	文献を丁寧に読んでおく（90分）
6.	関心のあるテーマと文献検討③	文献を丁寧に読んでおく（90分）
7.	関心のあるテーマと文献検討④	文献を丁寧に読んでおく（90分）
8.	関心のあるテーマと文献検討⑤	文献を丁寧に読んでおく（90分）
9.	関心のあるテーマと文献検討⑥	文献を丁寧に読んでおく（90分）
10.	関心のあるテーマと文献検討⑦	文献を丁寧に読んでおく（90分）
11.	関心のあるテーマと文献検討⑧	文献を丁寧に読んでおく（90分）
12.	関心のあるテーマと文献検討のまとめ①	文献レビューを作成する（90分）
13.	関心のあるテーマと文献検討のまとめ②	文献レビューを作成する（90分）
14.	研究テーマの絞り込み、研究の問いの明確化	文献検討の総括をする（90分）
15.	研究方法の検討①　研究倫理	卒業研究Ⅰで学習した研究倫理を確認しておく（60分）
16.	研究方法の検討②　研究デザイン	卒業研究Ⅰで学習した研究デザインを確認しておく（60分）
17.	研究方法の検討③　データ収集方法	卒業研究Ⅰで学習したデータ収集方法を確認しておく（60分）
18.	研究方法の検討④　データ分析方法	卒業研究Ⅰ、保健医療統計で学習したデータ分析方法を確認しておく（60分）
19.	研究計画書の作成①　背景	卒業研究Ⅰで学習した研究計画書の構成を確認しておく（90分）
20.	研究計画書の作成②　背景	これまでに作成した文献レビューを整理しておく（90分）
21.	研究計画書の作成③　研究方法	研究目的・仮説を確認しておく（90分）
22.	研究計画書の作成④　分析方法	研究目的・仮説・研究方法を確認しておく（90分）
23.	研究計画書の作成⑤　倫理的配慮	卒業研究Ⅰで学習した「倫理的配慮の必要性やその理由について」再確認しておく（90分）
24.	研究計画書の作成⑥　原案完成	授業19～23を振り返り、計画書の作成準備を行う（90分）
25.	研究計画書のプレゼンテーション①	プレゼンテーションの準備をしておく（90分）
26.	研究計画書のプレゼンテーション②	配付された資料を丁寧に読み、質問やコメントができるように準備する（90分）
27.	研究計画書の推敲	授業25,26を振り返り、アドバイスを参考に推敲しておく（90分）
28.	研究計画書の完成	誤字脱字などないように確認しておく60分）
29.	夏期休暇中の課題の明確化	研究実施に向けて、具体的に進め方をイメージする（60分）
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 関心のあるテーマについての研究成果、統計資料、実践報告、有識者の提言などの文献を読み込み、論理的・批判的な思考力を学修していきます。

フィードバックの方法: 授業内で解説・フィードバックを行う、計画書はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	50	到達目標1）～5）の到達度や計画書の完成度により評価する
発表、討論	30	到達目標1）2）の理解度やグループ討論での役割とその達成度で評価する
授業への参加度	20	積極的な取り組みの姿勢、スケジュール管理について評価する

教科書:

参考文献等: テーマにあわせ適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:	Eメールなど

755903

卒業研究Ⅱ

片山　　由加里

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究計画書の作成）

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標: 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる（現状を把握できる）。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. オリエンテーション	研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。(60分)
2.	2. リサーチクエスチョンの探索	看護に関する疑問の探索と追及。(60分)
3.	3. 研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討。(60分)
4.	4. 研究テーマの決定	関連のある文献を検索、検討。(60分)
5.	5. 研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。(60分)
6.	6. 研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。(60分)
7.	7. 研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。(60分)
8.	8. 研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。(60分)
9.	9. 研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。(60分)
10.	10. 仮説の検討	仮説を検討しておく。(60分)
11.	11. 研究方法の検討（研究デザインの検討）	研究デザインを検討しておく。(60分)
12.	12. 研究方法の検討（研究対象の検討）	研究対象を検討しておく。(60分)
13.	13. 研究方法の検討（データ収集方法の検討）	データ収集方法を検討しておく。(60分)
14.	14. 研究方法の検討（分析方法の検討）	分析方法を検討しておく。(60分)
15.	15. 研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。(60分)
16.	16. データ収集に必要な資料（アンケート、インタビューガイドなど）の作成1	資料を作成しておく。(60分)
17.	17. データ収集に必要な資料（アンケート、インタビューガイドなど）の作成2	資料を作成しておく。(60分)
18.	18. データ収集のための事前準備（プレ調査、プレインタビューなど）	資料を作成しておく。(60分)
19.	19. 研究計画書とは	研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。(60分)
20.	20. 研究計画書の作成（背景・目的）1	研究計画書の作成。(60分)
21.	21. 研究計画書の作成（背景・目的）2	研究計画書の作成。(60分)
22.	22. 研究計画書の作成（用語の定義）	研究計画書の作成。(60分)
23.	23. 計画書の作成（研究方法）	研究計画書の作成。(60分)
24.	24. 計画書の作成（添付資料の検討と作成）	研究計画書の作成。(60分)
25.	25. 計画書の作成（添付資料の検討と作成）	研究計画書の作成。(60分)
26.	26. 計画書の作成（倫理的配慮）	研究計画書の作成。(60分)
27.	27. 研究計画書の作成（まとめ）	研究計画書の作成。(60分)
28.	28. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。(60分)
29.	29. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。(60分)
30.	30. 研究計画書の発表	発表の準備。(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。
非対面授業となりましたので、Microsoft Teams を用いたオンライン授業を行います。
Web授業の限界（技術的トラブル）などでは不利益を受けないように配慮いたします。

フィードバックの方法: メール、マナビー、電話、テレビ電話などで対応します。教室（ゼミ）、マナビーなどで、集団指導と個別指導を組み合わせて行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 南裕子他（2017），看護における研究第2版，日本看護協会出版会。

参考文献等:
小笠原知枝，松木光子編(2007) これからの看護研究—基礎と応用，ヌーヴェルヒロカワ。
片山由加里ほか（2019）日々の看護実践から研究の問い（リサーチクエスチョン）を産み出す，日本看護診断学会誌，pp64-72

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: ゼミ前後およびメール、マナビー、電話、テレビ電話などで対応します。

755904

卒業研究Ⅱ

木村　　静

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究計画書の作成）

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する。

到達目標:
・文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
・研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる（現状を把握できる）。
・自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
・研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
・研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: ウェブ授業やマナビーを用いた学生とのディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究Ⅱの科目オリエンテーション	卒業研究Ⅰの授業資料を整理する（予習） シラバスを確認する（予習） オリエンテーション内容を整理する（復習） （30分）
2.	文献検索の目的と意義	授業内容を整理する（復習） 自身が受けた授業内容や実習体験などから、研究疑問を考える（復習） （60分）
3.	研究疑問（テーマ）の明確化	関心のあるテーマを探す（予習） 関心のあるテーマに関連した文献を探す（復習） （60分）
4.	研究テーマに関連した文献検討①	テーマに関する文献検討資料を作成する（予習・復習） （60分）
5.	研究テーマに関連した文献検討②	テーマに関する文献検討資料を作成する（予習・復習） （60分）
6.	研究テーマに関連した文献検討③	テーマに関する文献検討資料を作成する（予習・復習） （60分）
7.	研究計画書作成の目的と意義	研究計画書作成についての資料を読む（予習） 授業資料や講義内容を整理する（復習） （60分）
8.	研究計画書作成の方法	研究計画書作成についての資料を読む（復習） 授業資料や講義内容を整理する（復習） （60分）
9.	研究方法の検討（研究倫理①）	研究倫理に関する資料を読む（予習） 授業資料や講義内容を整理する（復習） （60分）
10.	研究方法の検討（研究倫理②）	研究倫理に関する資料を読む（予習） 授業資料や講義内容を整理する（復習） （60分）
11.	研究方法の検討（分析方法①）	研究分析方法に関する資料を読む（予習） 研究の分析方法について整理する（復習） （60分）
12.	研究方法の検討（分析方法②）	研究分析方法に関する資料を読む（予習） 研究の分析方法について整理し、自身の研究に適した分析方法について考える（復習） （60分）
13.	研究計画書（背景①）	研究計画（背景）を検討する（予習・復習） （60分）
14.	研究計画書（背景②）	研究計画（背景）を検討する（予習・復習） （60分）
15.	研究計画書（研究デザイン）	研究計画（研究デザイン）を検討する（予習・復習） （60分）
16.	研究計画書（倫理的配慮①）	研究計画（倫理的配慮）を検討する（予習・復習） （60分）
17.	研究計画書（倫理的配慮②）	研究計画（倫理的配慮）を検討する（予習・復習） （60分）
18.	研究計画書（分析方法の検討①）	研究計画（分析方法）を検討する（予習・復習） （60分）
19.	研究計画書（分析方法の検討②）	研究計画（分析方法）を検討する（予習・復習） （60分）
20.	研究計画書の作成（原案作成①）	研究計画書（案）を作成する（予習・復習） （60分）
21.	研究計画書の作成（原案作成②）	研究計画書（案）を作成する（予習・復習） （60分）
22.	研究計画書の作成（原案作成③）	研究計画書（案）を作成する（予習・復習） （60分）
23.	研究計画書の作成（推敲・修正①）	研究計画書（修正案）を作成する（予習・復習） （60分）
24.	研究計画書の作成（推敲・修正②）	研究計画書（修正案）を作成する（予習・復習） （60分）
25.	研究計画書の作成（完成）	研究計画書全体の検討を行う（予習・復習） （60分）
26.	研究計画書のプレゼンテーションに向けた準備	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する（予習・復習） （60分）

27.	研究計画書のプレゼンテーション①	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する（予習・復習） （60分）
28.	研究計画書のプレゼンテーション②	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する（予習・復習） （60分）
29.	研究計画書のプレゼンテーション③	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する（予習・復習） （60分）
30.	まとめ	研究計画書全体を振り返る（予習・復習） （60分）

受講者への
メッセージや
アドバイス：

フィードバックの
方法：

ウェブ授業内でコメントを伝える。
マナビー上提出レポートはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書：

参考文献等：

基礎看護学④　看護研究、メディカ出版、2018
D.F.ポーリット, C.T.ベック 、 看護研究　原理と方法、医学書院、2010
西條剛央、看護研究で迷わないための超入門講座、医学書院
黒田裕子、黒田裕子の 看護研究 Step by Step 第5版、医学書院、2017

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法：

教員まで直接メールにてご連絡下さい。

755905

卒業研究Ⅱ

光木　　幸子

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究計画書の作成）

授業の概要: 成人看護学領域における研究課題を明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:
1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2. 成人看護学領域の研究課題に関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる（現状を把握できる）。
3. 成人看護学領域の研究課題を見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5. 研究の過程に基づいて自らの研究課題に沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　卒業研究Ⅱの進め方	卒業研究Ⅰの復習（90分）
2.	関心領域の明確化1	成人領域の関心のある現象を考え、発表資料を準備する（120分）
3.	関心領域の明確化2	成人領域の関心のある現象を考え、発表資料を準備する（120分）
4.	関心領域の研究の動向の探索1	図書館の医学データベースで調べ、発表資料を準備する（120分）
5.	関心領域の研究の動向の探索2	図書館の医学データベースで調べ発表資料を準備する（120分）
6.	研究疑問の絞り込み1	実施可能性のあるテーマを考えておく（120分）
7.	研究疑問の絞り込み2	実施可能性のあるテーマを考えておく（120分）
8.	研究課題の明確化	実施可能性のあるテーマを考えておく（120分）
9.	研究課題に関する文献検討1	図書館の医学データベースで調べ発表資料を準備する（120分）
10.	研究課題に関する文献検討2	図書館の医学データベースで調べ発表資料を準備する（120分）
11.	研究の背景・意義・目的の検討1	文献から研究課題の位置づけを探る（120分）
12.	研究の背景・意義・目的の検討2	文献から研究課題の位置づけを探る（120分）
13.	研究デザインの検討（質的・量的）	研究課題に即した研究デザインを選択する（120分）
14.	研究方法の検討（質的・量的）1	研究課題に即した研究方法を選択する（120分）
15.	研究方法の検討（質的・量的）2	研究課題に即した研究方法を選択する（120分）
16.	研究枠組の検討（量的）・インタビューガイドの検討（質的）1	研究枠組の作成方法を復習する（120分）
17.	研究枠組の検討（量的）・インタビューガイドの検討（質的）2	研究枠組の作成方法を復習する（120分）
18.	研究枠組の検討（量的）・インタビューガイドの検討（質的）3	研究枠組の作成方法を復習する（120分）
19.	分析枠組の検討（量的）・分析方法の検討（質的）1	統計方法を復習する（120分）
20.	分析枠組の検討（量的）・分析方法の検討（質的）2	統計方法を復習する（120分）
21.	倫理的配慮の検討	研究倫理を復習する（120分）
22.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成1	資料の作成（120分）
23.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成2	資料の作成（120分）
24.	研究計画書（原案）章立ての作成	資料の作成（120分）
25.	研究計画書文献レビューの作成	資料の作成（120分）
26.	研究計画書の作成（推敲・修正）1	資料の作成（120分）
27.	研究計画書の作成（推敲・修正）2	資料の作成（120分）
28.	研究計画書の作成（完成）	資料の作成（120分）
29.	研究計画書のプレゼンテーション1	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく（120分）
30.	研究計画書のプレゼンテーション2	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく（120分）

受講者へのメッセージやアドバイス: 臨床実習や講義を通して関心ある看護現象を明らかにし、研究計画書作成までのプロセスを獲得してください。

フィードバックの方法: 研究計画書の作成に沿って、その都度助言をします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	70	到達目標2～5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式、
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 適宜、紹介する。

参考文献等: 必要時、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:	講義時又はメールで連絡する。

755906

卒業研究Ⅱ

當目　　雅代

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究計画書の作成）

授業の概要: 成人看護学領域における研究課題を明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:
1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2. 成人看護学領域の研究課題に関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる（現状を把握できる）。
3. 成人看護学領域の研究課題を見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5. 研究の過程に基づいて自らの研究課題に沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 個別対応　WEB授業配信ツールでの双方向ゼミ

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　卒業研究Ⅱの進め方	卒業研究Ⅰの復習
2.	関心領域の明確化1	成人領域の関心のある現象を考える（90分）
3.	関心領域の明確化2	成人領域の関心のある現象を考える（90分）
4.	関心領域の研究の動向の探索1	図書館の医学データベースで調べておく（90分）
5.	関心領域の研究の動向の探索2	図書館の医学データベースで調べておく（90分）
6.	研究疑問の絞り込み1	実施可能性のあるテーマの考える（90分）
7.	研究疑問の絞り込み2	実施可能性のあるテーマの考える（90分）
8.	研究課題の明確化	実施可能性のあるテーマの考える（90分）
9.	研究課題に関する文献検討1	図書館の医学データベースで調べておく（90分）
10.	研究課題に関する文献検討2	図書館の医学データベースで調べておく（90分）
11.	研究の背景・意義・目的の検討1	文献から研究課題の位置づけを探る（90分）
12.	研究の背景・意義・目的の検討2	文献から研究課題の位置づけを探る（90分）
13.	研究デザインの検討（質的・量的）	研究課題に即した研究デザインを選択する（90分）
14.	研究方法の検討（質的・量的）1	研究課題に即した研究方法を選択する（90分）
15.	研究方法の検討（質的・量的）2	研究課題に即した研究方法を選択する（90分）
16.	研究枠組の検討（量的）・インタビューガイドの検討（質的）1	研究枠組の作成方法を復習する（90分）
17.	研究枠組の検討（量的）・インタビューガイドの検討（質的）2	研究枠組の作成方法を復習する（90分）
18.	研究枠組の検討（量的）・インタビューガイドの検討（質的）3	研究枠組の作成方法を復習する（90分）
19.	分析枠組の検討（量的）・分析方法の検討（質的）1	統計方法を復習する（90分）
20.	分析枠組の検討（量的）・分析方法の検討（質的）2	統計方法を復習する（90分）
21.	倫理的配慮の検討	研究倫理を復習する（90分）
22.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成1	資料の作成（120分）
23.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成2	資料の作成（120分）
24.	研究計画書（原案）章立ての作成	資料の作成（120分）
25.	研究計画書文献レビューの作成	資料の作成（120分）
26.	研究計画書の作成（推敲・修正）1	資料の作成（120分）
27.	研究計画書の作成（推敲・修正）2	資料の作成（120分）
28.	研究計画書の作成（完成）	資料の作成（120分）
29.	研究計画書のプレゼンテーション1	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく（180分）
30.	研究計画書のプレゼンテーション2	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく（180分）

受講者へのメッセージやアドバイス: 臨床実習や講義・演習を通して関心ある看護現象を明らかにし、看護研究初学者としての第1歩を踏むためのプロセスを獲得してください。視線計測に関心のある学生は器機を使用してもらってもかまいません。

フィードバックの方法: 研究計画書の作成に沿って、助言をしていきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	70	到達目標2～5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式、
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 適宜、紹介する。

参考文献等: 必要時、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: メール　マナビー　web授業配信ツール

755908

卒業研究Ⅱ

葉山　　有香

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究計画書の作成）

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標: 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる（現状を把握できる）。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文献検索の目的と意義	卒業研究Ⅰの資料を読み直しておく（30分）
2.	研究疑問（テーマ）の明確化	関心あるテーマの資料を持参する（60分）
3.	研究疑問（テーマ）の明確化（推敲・修正）	前回の授業を受けて関心のあるテーマをさらに絞り込む（60分）
4.	研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献検討資料の作成（60分）
5.	研究テーマに関連した文献検討（推敲・修正）	テーマに関する文献検討資料の作成・修正（60分）
6.	研究テーマに関連した文献検討（推敲・修正）	テーマに関する文献検討資料の作成・修正（60分）
7.	研究計画書作成の目的と意義、方法（草案）	文献検討を元に、研究の目的・意義・方法について検討（60分）
8.	研究計画書の目的の明確化	文献検討を元に、研究の目的について検討（60分）
9.	研究計画書作成の意義の明確化	文献検討を元に、研究の意義について検討（60分）
10.	研究計画書作成の意義の明確化（推敲・修正）	文献検討を元に、研究の意義について検討（60分）
11.	研究計画書作成の方法の明確化	文献検討を元に、研究の方法について検討（60分）
12.	研究計画書作成の方法の明確化（推敲・修正）	文献検討を元に、研究の方法について検討（60分）
13.	研究方法の検討（研究倫理）	文献検討を元に、研究倫理について検討（60分）
14.	研究方法の検討（研究倫理）（推敲・修正）	文献検討を元に、研究倫理について検討（60分）
15.	研究方法の検討（分析方法）	文献検討を元に、研究の分析方法について検討（60分）
16.	研究方法の検討（分析方法）（推敲・修正）	文献検討を元に、研究の分析方法について検討（60分）
17.	研究計画書（背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮）（原案作成）	研究計画の検討（60分）
18.	研究計画書（背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮）（推敲・修正）	研究計画の検討（60分）
19.	研究計画書（背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮）（推敲・修正）	研究計画の検討（60分）
20.	研究計画書（分析方法）（原案作成）	分析方法の検討（60分）
21.	研究計画書（分析方法）（推敲・修正）	分析方法の修正（60分）
22.	研究計画書の作成（原案作成）	研究計画書（案）の作成（60分）
23.	研究計画書の作成（推敲・修正）	研究計画書（案）の作成（60分）
24.	研究計画書の作成（推敲・修正）	研究計画書（修正案）の作成（60分）
25.	研究計画書の作成（完成）	研究計画書（修正案）の作成（60分）
26.	研究計画書のプレゼンテーション（準備）	資料の作成（60分）
27.	研究計画書のプレゼンテーション（準備）（推敲・修正）	資料の修正（60分）
28.	研究計画書のプレゼンテーション	資料の作成（60分）
29.	研究計画書のプレゼンテーション	資料の作成（60分）
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: Eメールを利用　葉山　yhayama@dwc.doshisha.ac.jp

755909

卒業研究Ⅱ

和泉　　美枝

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究計画書の作成）

授業の概要: ウィメンズヘルス領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標: 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる（現状を把握できる）。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文献検索の目的と意義	文献検索の目的について事前学習しておく（60分）。ウィメンズヘルス領域で関心あるテーマについて調べておく（60分）
2.	ウィメンズヘルス領域に関する研究疑問（テーマ）の明確化（1）	ウィメンズヘルス領域で関心のあるテーマの資料を検索し持参する（60分）
3.	ウィメンズヘルス領域に関する研究疑問（テーマ）の明確化（2）	ウィメンズヘルス領域で関心のあるテーマの資料を検索し持参する（60分）
4.	研究テーマに関連した文献検索（1）	関心のあるテーマについて文献を検索しておく（60分）
5.	研究テーマに関連した文献検索（2）	関心のあるテーマについて文献を検索しておく（60分）
6.	研究テーマに関連した文献検索（3）	関心のあるテーマについて文献を検索しておく（60分）
7.	研究テーマに関連した文献検索（4）	関心のあるテーマについて文献を検索しておく（60分）
8.	文献の講読・検討（1）	文献を読み、プレゼンテーションの準備をしておく（60分）
9.	文献の講読・検討（2）	文献を読み、プレゼンテーションの準備をしておく（60分）
10.	文献の講読・検討（3）	文献を読み、プレゼンテーションの準備をしておく（60分）
11.	文献の講読・検討（4）	文献を読み、プレゼンテーションの準備をしておく（60分）
12.	研究計画書作成の目的と意義、方法	研究計画書の目的と意義、方法について調べておく（120分）
13.	研究方法の検討（研究倫理）	研究方法の倫理的配慮について調べておく（120分）
14.	研究方法の検討（分析方法）	研究方法の分析方法を調べておく（120分）
15.	研究計画書（背景）	研究計画書の背景を作成しておく（120分）
16.	研究計画書（研究デザイン、方法）	研究計画書の研究デザイン・方法を作成しておく（120分）
17.	研究計画書（分析方法）	研究計画書の分析方法を作成しておく（120分）
18.	研究計画書（倫理的配慮）	研究計画書の倫理的配慮について作成しておく（60分）
19.	研究計画書の作成（原案作成）	研究計画書（案）を作成しておく（120分）
20.	研究計画書の作成（原案作成）	研究計画書（案）を作成しておく（120分）
21.	研究計画書の作成（推敲・修正）	研究計画書を修正しておく（120分）
22.	研究計画書の作成（推敲・修正）	研究計画書を修正しておく（120分）
23.	研究計画書の作成（推敲・修正）	研究計画書を修正しておく（120分）
24.	研究計画書の作成（推敲・修正）	研究計画書を修正しておく（120分）
25.	研究計画書の作成（完成）	研究計画書を作成しておく（120分）
26.	研究計画書のプレゼンテーション（準備）	プレゼンテーションの準備をしておく（120分）
27.	研究計画書のプレゼンテーション（準備）	プレゼンテーションの準備をしておく（120分）
28.	研究計画書のプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておく（120分）
29.	研究計画書のプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておく（120分）
30.	まとめ	研究計画書の再確認をしておく（120分）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等: 系統看護学講座別巻看護研究、坂下玲子他、医学書院
ナーシング・グラフィカ基礎看護学④看護研究、川村佐和子編、メディカ出版
黒田裕子の看護研究Step by Step 第5版、黒田裕子、医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 質問などは主にゼミ中に対応する

755910

卒業研究Ⅱ

木村　　洋子

FLTナンバー:　NUSI47-KG

授業テーマ:　研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要:　精神看護学領域において関心のある研究テーマを明確にし，研究計画書を作成する.

到達目標:
1.関心のあるテーマを明確にすることができる.
2.データベース(医学中央雑誌，CINAL, PubMed等)を活用して，関心のあるテーマに関する文献検索ができる.
3.文献検察で得た文献を整理し，関心のあるテーマについての現状を明らかにすることができる.
4.文献検討に基づき，自己の研究テーマを明確にすることができる.
5.研究テーマについての看護上の意義，目的を明確にすることができる.
6.研究目的に沿った研究方法を選択し，研究計画書を作成することができる.

授業方法:　オンライン，マナビーを活用した演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	関心のあるテーマを明らかにする.	精神看護学領域において関心のある事象・テーマについて考えておくこと. (90分)
2.	関心のあるテーマについて:発表・意見交換	精神看護学領域において関心のある事象・テーマについて図書等を活用し調べておく. (90分)
3.	関心のあるテーマについての文献検索(1)	データベースを活用した文献検索の方法を確認しておく (90分)
4.	関心のあるテーマについての文献検索(2)	文献検索で得た文献の整理 (120分)
5.	関心のあるテーマについての文献検索(3)	文献検索で得た文献の整理 (120分)
6.	関心のあるテーマについての文献検索・文献検討(1)	文献検索で得た文献の整理 (120分)
7.	関心のあるテーマについての文献検索・文献検討(2)	文献検索で得た文献の整理 (120分)
8.	関心のあるテーマについての文献検索・文献検討(3)	文献検索で得た文献の整理 (120分)
9.	関心のあるテーマについての現状について(1)	文献検討で得た関心のあるテーマの現状についてまとめる. (120分)
10.	関心のあるテーマについての現状について(2)	文献検討で得た関心のあるテーマの現状についてまとめる. (120分)
11.	関心のあるテーマについての現状について(3):発表，意見交換	発表資料の作成 (90分)
12.	研究テーマの方向性についての検討	文献検討等の結果から，研究の目的を考えておく. (90分)
13.	研究テーマの方向性についての検討	指導を受けて修正する. (90分)
14.	研究方法の検討(1)	研究テーマ，研究目的に合致した研究方法を考えておく. (90分)
15.	研究方法の検討(2)	指導を受けて修正する. (90分)
16.	研究倫理について	一般的に「人を対象とした研究」を実施する際の研究倫理の重要性，および倫理的配慮について図書等を活用し整理しておく (90分)
17.	研究倫理の重要性について:発表，意見交換	発表資料の作成 (90分)
18.	研究計画書の作成(1):研究の背景	研究計画書の作成 (90分)
19.	研究計画書の作成(2):研究の背景	指導を受けて，修正する. (90分)
20.	研究計画書の作成(3):研究の目的	研究計画書の作成 (90分)
21.	研究計画書の作成(4):研究の目的	指導を受けて，修正する. (90分)
22.	研究計画書の作成(5):研究方法	研究計画書の作成 (90分)
23.	研究計画書の作成(6):研究方法	指導を受けて，修正する. (90分)
24.	研究計画書の作成(7):全体	研究計画書の作成 (120分)
25.	研究計画書の作成(8):全体	指導を受けて，修正する. (90分)
26.	研究計画書の作成(9):全体	指導を受けて，修正する. (90分)
27.	研究計画についての発表準備	発表資料の作成 (120分)
28.	研究計画についての発表・意見交換	
29.	研究計画書の提出	
30.	まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

グループ，あるいは個々にフィードバックする.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書の作成	80	研究計画書作成に至るプロセスを理解し，実施することができる.
授業への取り組み	20	主体的に取り組むことができる.

教科書:

適宜紹介する.

参考文献等:

適宜紹介する.

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

755911

卒業研究Ⅱ

川崎　　友絵

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究計画書の作成）

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標: 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる（現状を把握できる）。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	研究Ⅰを見直しておく(60分)。また、提出したレポートなどを持参。
2.	リサーチクエスチョンの探索	看護に関する疑問の探索と追及。「看護における研究第2版」(p.2～10)を読んで理解しておくこと(45分)。
3.	研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討。看護に関する疑問の探索と追及。「看護における研究第2版」(p.10～15)を読んで理解しておくこと(90分)。
4.	研究テーマの決定	関連のある文献を検索、検討。看護に関する疑問の探索と追及。「看護における研究第2版」(p.15～19、p.32～37)を読んで理解しておくこと(90分)。
5.	研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。「看護における研究第2版」(p.44～63)を読んで理解しておくこと(90分)。
6.	研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成(60分)。
7.	研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成(60分)。
8.	研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成(60分)。
9.	研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。「看護における研究第2版」(p.19～29)を読んで理解しておくこと(90分)。
10.	仮説の検討	仮説を検討しておく。「看護における研究第2版」(p.66～77)を読んで理解しておくこと(90分)。
11.	研究方法の検討（研究デザインの検討）	研究デザインを検討しておく。「看護における研究第2版」(p.80～83)を読んで理解しておくこと(90分)。
12.	研究方法の検討（研究対象の検討）	研究対象を検討しておく(45分)。
13.	研究方法の検討（データ収集方法の検討）	データ収集方法を検討しておく(45分)。
14.	研究方法の検討（分析方法の検討）	分析方法を検討しておく(45分)。
15.	研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す(60分)。
16.	データ収集に必要な資料の作成1	資料を作成しておく(60分)。
17.	データ収集に必要な資料の作成2	資料を作成しておく(60分)。
18.	データ収集のための事前準備	資料を作成しておく(90分)。
19.	研究計画書とは	研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。「看護における研究第2版」(p.120～134)を読んで理解しておくこと(90分)。
20.	研究計画書の作成（背景・目的）1	研究計画書の作成(60分)。
21.	研究計画書の作成（背景・目的）2	研究計画書の作成(60分)。
22.	研究計画書の作成（用語の定義）	研究計画書の作成(45分)。
23.	計画書の作成（研究方法）	研究計画書の作成(60分)。
24.	計画書の作成（添付資料の検討と作成）	研究計画書の作成(45分)。
25.	計画書の作成（添付資料の検討と作成）	研究計画書の作成(45分)。
26.	計画書の作成（倫理的配慮）	研究計画書の作成(60分)。
27.	研究計画書の作成（まとめ）	研究計画書の作成(90分)。
28.	研究計画書の発表準備	発表資料の作成(90分)。
29.	研究計画書の発表準備	発表資料の作成(90分)。
30.	研究計画書の発表	発表の準備(90分)。

受講者へのメッセージやアドバイス: 研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。

フィードバックの方法: オンラインゼミ、マナビー、メールなどで対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式について評価する。
プレゼンテーション、ディスカッション	15	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性について評価する。
授業への参加度	15	授業に取り組む積極性、主体性について評価する。

教科書: 南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。

参考文献等: 適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

755913

卒業研究Ⅱ

山縣　　恵美

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究計画書の作成）

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:
1.文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2.研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる（現状を把握できる）。
3.自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4.研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5.研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	興味・関心あるテーマを準備する。（60分）
2.	文献検索の目的と意義	文献検索の方法の復習と、文献検索するためのキーワードを準備する。（60分）
3.	研究疑問（テーマ）の明確化	興味・関心あるテーマを準備する。（60分）
4.	研究テーマに関連した文献収集	文献検索するためのキーワードを準備する。（60分）
5.	研究テーマに関連した文献検討①	収集した文献に目をとおし、必要な論文を選んで優先度をつける。（90分）
6.	研究テーマに関連した文献検討②	文献を丁寧に読んでおく（90分）
7.	研究テーマに関連した文献検討③	文献を丁寧に読んでおく（90分）
8.	文献検討結果の発表準備	文献検討結果を発表するための構成を考えておく。（90分）
9.	文献検討結果の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う（90分）
10.	文献検討結果の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う（90分）
11.	研究課題の明確化	プレゼンテーションの準備を行う（90分）
12.	研究計画書作成の目的と意義、方法	計画書の概要について復習しておく。（90分）
13.	研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。（90分）
14.	研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。（90分）
15.	データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。（90分）
16.	データ収集方法の検討	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。（90分）
17.	研究倫理の確認	研究倫理について復習しておく（90分）
18.	分析方法の検討①	研究課題に沿った分析方法を学習しておく。（90分）
19.	分析方法の検討②	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。（90分）
20.	研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく。（90分）
21.	研究計画書の作成②	研究計画書の原案を作成する（90分）
22.	研究計画書の作成③	研究計画書の修正案を作成する（90分）
23.	研究計画書の作成④	研究計画書の修正案を作成する（90分）
24.	研究計画書の発表準備	研究計画書発表の準備を行う。（90分）
25.	研究計画書の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う。（90分）
26.	研究計画書の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う。（90分）
27.	研究計画書の発表・ディスカッション③	プレゼンテーションの準備を行う（90分）
28.	研究計画書の見直し	研究計画書の修正を行う（90分）
29.	研究計画書の完成	研究計画書の修正を行う（90分）
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書の内容	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義時、オフィスアワーに対応する。

755914

卒業研究Ⅱ

萩本　　明子

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する。

到達目標: 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. オリエンテーション	研究Ⅰを復習する。また、提出したレポートなどを持参(60分)。
2.	2. リサーチクエスチョンの探索	看護に関する疑問の探索と追及(60分)。
3.	3. 研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討(120分)。
4.	4. 研究テーマの決定	関連のある文献を検索、検討(120分)。
5.	5. 研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成(60分)。
6.	6. 研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成(60分)。
7.	7. 研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成(60分)。
8.	8. 研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成(60分)。
9.	9. 研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく(60分)。
10.	10. 仮説の検討	仮説を検討しておく(60分)。
11.	11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)	研究デザインを検討しておく(60分)。
12.	12. 研究方法の検討(研究対象の検討)	研究対象を検討しておく(60分)。
13.	13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)	データ収集方法を検討しておく(60分)。
14.	14. 研究方法の検討(分析方法の検討)	分析方法を検討しておく(120分)。
15.	15. 研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す(60分)。
16.	16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1	資料を作成しておく(180分)。
17.	17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2	資料を作成しておく(180分)。
18.	18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)	資料を作成しておく(180分)。
19.	19. 研究計画書とは	研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく(60分)。
20.	20. 研究計画書の作成(背景・目的)1	研究計画書の作成(120分)。
21.	21. 研究計画書の作成(背景・目的)2	研究計画書の作成(120分)。
22.	22. 研究計画書の作成(用語の定義)	研究計画書の作成(120分)。
23.	23. 計画書の作成(研究方法)	研究計画書の作成(60分)。
24.	24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)1	研究計画書の作成(120分)。
25.	25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)2	研究計画書の作成(120分)。
26.	26. 計画書の作成(倫理的配慮)	研究計画書の作成(60分)。
27.	27. 研究計画書の作成(まとめ)	研究計画書の作成(120分)。
28.	28. 研究計画書の発表準備1	発表資料の作成(180分)。
29.	29. 研究計画書の発表準備2	発表資料の作成(180分)。
30.	30. 研究計画書の発表	発表の準備(60分)。

受講者へのメッセージやアドバイス: 研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。
＊準備学習等の内容で記載した時間数は目安であり、研究方法やテーマによって異なります。

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	70%	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
プレゼンテーション、ディスカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。

参考文献等: 適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

755915

卒業研究Ⅱ

橋本　　秀実

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究計画書の作成）

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:
1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2. 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる（現状を把握できる）。
3. 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5. 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。
6. 看護の事象について問題意識を持ち、積極的に探求する姿勢をもつ

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文献検索の目的と意義	研究テーマとして考えていることをその理由も含めてまとめておく テーマに関する資料・文献を探す（60分）
2.	研究疑問（テーマ）の明確化	研究テーマとして考えていることをその理由も含めてまとめておく テーマに関する資料・文献を探す（60分）
3.	研究疑問（テーマ）の明確化	研究テーマとして考えていることをその理由も含めてまとめておく テーマに関する資料・文献を探す（60分）
4.	研究疑問（テーマ）の明確化	テーマに関する文献を探し、読む（60分）
5.	研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成（60分）
6.	研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成（60分）
7.	研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成（60分）
8.	研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成（60分）
9.	研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成（60分）
10.	研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成（60分）
11.	研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成（60分）
12.	研究テーマに関連した文献検討	卒業研究Ⅰの資料を読んでおく（60分）
13.	研究計画書作成の目的と意義、方法	研究テーマの背景についてまとめる（60分）
14.	研究計画書（背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮）	研究デザインをまとめる（60分）
15.	研究計画書（背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮）	研究方法をまとめる（60分）
16.	研究計画書（背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮）	研究の倫理的配慮についてまとめる（60分）
17.	研究計画書（背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮）	研究の分析方法について考える（60分）
18.	研究計画書（分析方法）	研究の分析方法をまとめる（60分）
19.	研究計画書（分析方法）	研究計画書の原案をまとめる（60分）
20.	研究計画書の作成（原案作成）	研究計画書を修正する（60分）
21.	研究計画書の作成（推敲・修正）	研究計画書を修正する（60分）
22.	研究計画書の作成（推敲・修正）	研究計画書を修正する（60分）
23.	研究計画書の作成（推敲・修正）	研究計画書を修正する（60分）
24.	研究計画書の作成（推敲・修正）	研究計画書を完成する（60分）
25.	研究計画書の作成（完成）	プレゼンテーションの準備をする（60分）
26.	研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする（60分）
27.	研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする（60分）
28.	研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする（60分）
29.	研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする（60分）
30.	まとめ	研究計画書を修正し、完成させる データ収集など今後の計画についてまとめる（60分）

受講者へのメッセージやアドバイス: 自ら積極的に学び、看護専門職者として看護研究を実践していく基礎となる力を身につけましょう。

フィードバックの方法: 授業中にその都度フィードバックする
個別指導については、必要時メールで、または対面で時間外に行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	60%	研究計画書を作成し、修正することができる（目標1～5）
プレゼンテーション、ディスカッション	20%	自分の考えや学習成果を授業の中で明確に発表できること、ディスカッションに積極的に参加すること（目標1～6）
態度	20%	自主性および授業に臨む態度（目標6）

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	メールまたはマナビーを通じて連絡する(hihashim@dwc.doshisha.ac.jp) 必要であれば研究室に来てください

755916

卒業研究Ⅱ

三橋　　美和

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究計画書の作成）

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:
1.文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2.研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる（現状を把握できる）。
3.自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4.研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5.研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
2.	文献検索の目的と意義	興味・関心あるテーマを準備する
3.	研究疑問（テーマ）の明確化	文献検索するためのキーワードを準備する
4.	研究テーマに関連した文献収集	文献検索するためのキーワードを準備する
5.	研究テーマに関連した文献検討①	収集した文献に目をとおし、必要な論文を選んで優先度をつける
6.	研究テーマに関連した文献検討②	文献を丁寧に読んでおく
7.	研究テーマに関連した文献検討③	文献を丁寧に読んでおく
8.	文献検討結果の発表準備	文献検討結果を発表するための構成を考えておく
9.	文献検討結果の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う
10.	文献検討結果の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う
11.	研究課題の明確化	プレゼンテーション結果をふまえ、研究課題を再検討する
12.	研究計画書作成の目的と意義、方法	計画書の概要について復習しておく
13.	研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく
14.	研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を学習しておく
15.	データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく
16.	データ収集方法の検討	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく
17.	研究倫理の確認	研究倫理について復習しておく
18.	分析方法の検討①	研究課題に沿った分析方法を学習しておく
19.	分析方法の検討②	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。
20.	研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく
21.	研究計画書の作成②	研究計画書の原案を作成する
22.	研究計画書の作成③	研究計画書の修正案を作成する
23.	研究計画書の作成④	研究計画書の修正案を作成する
24.	研究計画書の発表準備	研究計画書発表の準備を行う
25.	研究計画書の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う
26.	研究計画書の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う
27.	研究計画書の発表・ディスカッション③	プレゼンテーションの準備を行う。
28.	研究計画書の見直し	研究計画書の修正を行う
29.	研究計画書の完成	研究計画書の修正を行う
30.	まとめ	
1.	ガイダンス	興味・関心あるテーマを準備する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業（ゼミ）でまとめて解説し、計画書および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
プレゼンテーション、ディスカッション	10	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
授業への参加態度	20	研究に取り組む積極性、主体性

教科書: 医学書院　系統看護学講座別巻　看護研究（著者代表　坂下玲子）

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: manabeまたはE-mailにて対応する

755917

卒業研究Ⅱ

小笠　　美春

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究計画書の作成）

授業の概要: 成人看護学領域における研究課題を明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:
1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2. 成人看護学領域の研究課題に関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる（現状を把握できる）。
3. 成人看護学領域の研究課題を見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5. 研究の過程に基づいて自らの研究課題に沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する。
マナビーやzoom、Teams等を使用した遠隔授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　卒業研究Ⅱの進め方	卒業研究Ⅰの復習
2.	関心領域の明確化1	成人領域の関心のある現象を考える（90分）
3.	関心領域の明確化2	成人領域の関心のある現象を考える（90分）
4.	関心領域の研究の動向の探索1	図書館の医学データベースで調べておく（90分）
5.	関心領域の研究の動向の探索2	図書館の医学データベースで調べておく（90分）
6.	研究疑問の絞り込み1	実施可能性のあるテーマの考える（90分）
7.	研究疑問の絞り込み2	実施可能性のあるテーマの考える（90分）
8.	研究課題の明確化	実施可能性のあるテーマの考える（90分）
9.	研究課題に関する文献検討1	図書館の医学データベースで調べておく（90分）
10.	研究課題に関する文献検討2	図書館の医学データベースで調べておく（90分）
11.	研究の背景・意義・目的の検討1	文献から研究課題の位置づけを探る（90分）
12.	研究の背景・意義・目的の検討2	文献から研究課題の位置づけを探る（90分）
13.	研究デザインの検討（質的・量的）	研究課題に即した研究デザインを選択する（90分）
14.	研究方法の検討（質的・量的）1	研究課題に即した研究方法を選択する（90分）
15.	研究方法の検討（質的・量的）2	研究課題に即した研究方法を選択する（90分）
16.	研究枠組の検討（量的）・インタビューガイドの検討（質的）1	研究枠組の作成方法を復習する（90分）
17.	研究枠組の検討（量的）・インタビューガイドの検討（質的）2	研究枠組の作成方法を復習する（90分）
18.	研究枠組の検討（量的）・インタビューガイドの検討（質的）3	研究枠組の作成方法を復習する（90分）
19.	分析枠組の検討（量的）・分析方法の検討（質的）1	統計方法を復習する（90分）
20.	分析枠組の検討（量的）・分析方法の検討（質的）2	統計方法を復習する（90分）
21.	倫理的配慮の検討	研究倫理を復習する（90分）
22.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成1	資料の作成（120分）
23.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成2	資料の作成（120分）
24.	研究計画書（原案）章立ての作成	資料の作成（120分）
25.	研究計画書文献レビューの作成	資料の作成（120分）
26.	研究計画書の作成（推敲・修正）1	資料の作成（120分）
27.	研究計画書の作成（推敲・修正）2	資料の作成（120分）
28.	研究計画書の作成（完成）	資料の作成（120分）
29.	研究計画書のプレゼンテーション1	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく（180分）
30.	研究計画書のプレゼンテーション2	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく（180分）

受講者へのメッセージやアドバイス: 臨床実習や講義・演習を通して関心ある看護現象を明らかにし、看護研究初学者としての第1歩を踏むためのプロセスを獲得してください。

フィードバックの方法: 研究計画書の作成に沿って、助言をしていきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	70	到達目標2～5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式、
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 適宜、紹介する。

参考文献等: 必要時、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: メール　マナビー

756001

卒業研究Ⅲ

小松　　光代

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と成果発表）

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:
1.研究倫理を遵守し、主体的に研究計画を遂行できる。
2.データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
3.国内外の先行文献を用いて論理的に考察できる。
4.研究成果を論文形式にまとめることができる。
5.研究の概要について発表およびディスカッションができる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究実施計画の作成	研究実施計画の作成のための準備。（60分）
2.	卒業研究の実施準備－研究協力の依頼	実施計画書に沿った研究依頼の手順を考えておく。（120分）
3.	卒業研究の実施準備－研究調査の準備	調査の準備をしておく。（180分）
4.	卒業研究の実施－データ収集　調査①	データを収集する。（120分）
5.	卒業研究の実施－データ収集　調査②	データを収集する。（120分）
6.	卒業研究の実施－データ収集　調査③	データを収集する。（120分）
7.	卒業研究のデータ整理	収集したデータを確認し、持参する。（120分）
8.	卒業研究データ入力①	入力準備をしておく。（120分）
9.	卒業研究データ入力②	データを入力し分析資料を作成する。（20分）
10.	卒業研究データ分析(統計的手法や質的分析方法の確認)	入力データの分析手法を学習する。（60分）
11.	卒業研究データ分析(統計的手法や質的分析方法の確認)	データを分析して、結果を整理して持参する。（120分）
12.	卒業研究データの分析(統計的手法や質的分析の理解)	分析結果についてプレゼンテーション資料を作成する。（120分）
13.	卒業研究データの分析(統計的手法や質的分析の理解)	分析結果のプゼンテーション資料を修正する。（60分）
14.	論文作成(背景の記述：先行研究結果から位置づけ)	文献検討結果と分析結果を照合しておく。（120分）
15.	論文作成(背景の記述：研究の目的と意義)	文献検討結果と分析結果を照合し「研究の背景」を記述する。（60分）
16.	論文作成(方法の記述(1))	方法を記述しておく。（60分）
17.	論文作成(方法の記述(2))	方法を見直し記述しておく。（60分）
18.	論文作成(結果の構成)	結果の構成を考えておく。(60分)
19.	論文作成(図表の作成)	結果を正確かつわかりやすく示す図表を作成しておく。（120分）
20.	論文作成(結果の記述)	結果のアウトラインを記述しておく（120分）
21.	論文作成(結果の記述)	結果を記述しておく（180分）
22.	論文作成(結果の推敲)	結果の記述を見直しておく（180分）
23.	論文作成(考察の構成)	考察の構成を考える（60分）
24.	論文作成(考察の記述)	考察を記述しておく(180分)
25.	論文作成(考察の推敲)	考察の見直しをしておく（120分）
26.	論文の結論及び抄録作成	結論と抄録の作成（60分）
27.	抄録の作成とプレゼンテーション準備	抄録と発表資料の作成(120分)
28.	研究のプレゼンテーション	発表資料の作成(60分)
29.	研究のプレゼンテーション	発表資料の作成と発表の練習（60分）
30.	研究実施プロセスの評価	研究プロセスをふりかえりまとめておく（30分）

受講者へのメッセージやアドバイス:
将来的に看護の質の向上につながる研究課題を論文としてまとめるプロセスを経験します。
専門職としての問題意識、学習姿勢を養い、生涯自己研鑽を続けるための基本姿勢を身に付けましょう。

フィードバックの方法: 教室（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	到達目標1～4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。
プレゼンテーション	20	到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。
取り組み姿勢や態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書: 適宜、紹介する。

参考文献等:	必要時、紹介する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	講義時又はメールにて連絡する。

756002

卒業研究Ⅲ

眞鍋　　えみ子

FLTナンバー:　NUSI47-KG

授業テーマ:　研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要:　看護実践の探究とその方法としての研究の必要性を学ぶことをねらいとする。卒業研究Ⅰ Ⅱの学修を基盤として、研究計画書にそって研究を実施し、研究成果の解釈・活用方法を学び、論文にまとめる

到達目標:
1)研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2)データを適切に分析し、成果を解釈できる。
3)文献や統計資料を用いて成果を解釈し、論理的に考察できる。
4)研究成果を論文や抄録にまとめることができる。
5)研究成果について発表することができる。
6)研究についてディスカッションすることができる。

授業方法:　演習（プレゼンテーション・ディスカッション・データ収集など）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
15.	卒業研究の実施⑪　データ分析と解釈	データ分析の可能性や方向性を検討する（60分）
16.	卒業研究の実施⑫　データ分析と解釈	データ分析に必要な知識（例えば、統計学など）を確認しておく（60分）
17.	卒業研究の実施⑬　データ分析と解釈	データ分析に必要な知識（例えば、統計学など）を確認しておく（60分）
18.	卒業研究の実施⑭　データ分析と解釈	図・表の書き方を確認しておく（60分）
19.	論文作成①　背景の記述	文献レビュー、仮説の再検討を行っておく（90分）
20.	論文作成②　背景の記述	文献レビュー、仮説の再検討を行っておく（90分）
21.	論文作成③　方法の記述	記述に必要な文献を整理しておく（90分）
22.	論文作成④　結果の記述	図・表を整理しておく（90分）
23.	論文作成⑤　結果の記述	図・表の整理と文章の推敲をしておく（90分）
24.	論文作成⑥　考察の記述	目的・仮説の確認と論点の整理をしておく（90分）
25.	論文作成⑦　考察の記述	論点の整理と文章の推敲をしておく（90分）
26.	論文作成⑧　要約の記述、抄録の作成	要約・抄録の作成準備をする（90分）
27.	研究成果のプレゼンテーション準備	発表のアウトラインの検討、資料の作成準備をする（90分）
28.	研究成果のプレゼンテーション	・時間内にポイントをしぼり、分かりやすく発表できるように準備する（60分） ・配付された資料を丁寧に読み、質問やコメントができるように準備する（60分）
29.	論文・抄録の完成	文章の推敲・修正をしておく（90分）
30.	まとめ	研究のプロセスを振り返り、今後の課題を考えておく（60分）
1.	研究実施計画の検討①	夏期休暇中の進捗状況を報告できるように準備する（90分）
2.	研究実施計画の検討②	実施に向けての具体的な計画をイメージする（60分）
3.	研究実施の準備①	実施計画に基づき準備を進める（60分）
4.	研究実施の準備②	実施計画に基づき準備を進める（60分）
5.	卒業研究の実施①　データ収集と整理	研究目的、対象者への説明について確認しておく、データ収集に必要な物品を準備しておく（60分）
6.	卒業研究の実施②　データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する（60分）
7.	卒業研究の実施③　データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する（60分）
8.	卒業研究の実施④　データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する（60分）
9.	卒業研究の実施⑤　データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する（60分）
10.	卒業研究の実施⑥　データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する（60分）
11.	卒業研究の実施⑦　データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する（60分）
12.	卒業研究の実施⑧　データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する（60分）
13.	卒業研究の実施⑨　データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する（60分）
14.	卒業研究の実施⑩　データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する（60分）

受講者へのメッセージやアドバイス:　4年次の秋学期は、国家試験対策もあり重要な時期です。卒業研究Ⅲの学習計画を立案し、スケジュール管理を行い、計画的に進めてください。

フィードバックの方法:　授業内で解説・フィードバックを行う、論文はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	50	到達目標2)3)4)の到達度および論文の完成度により評価する
発表・討論	30	到達目標5)6)の達成度やグループ討論での役割とその達成度で評価する
授業への参加度	20	到達目標1)の到達度および積極的な取り組みの姿勢、スケジュール管理について評価する

教科書:

参考文献等:　テーマにあわせ適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法: Eメールなど

756003

卒業研究Ⅲ

片山　　由加里

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文にまとめ発表する

到達目標: ″研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究について発表することができる。
研究についてディスカッションすることができる。″

授業方法: 学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく。(60分)
2.	2. データの収集1	データを収集を進める。(60分)
3.	3. データの収集2	データを収集を進める。(60分)
4.	4. データの収集、整理、入力1	データを収集を進める。(60分)
5.	5. データの収集、整理、入力2	データを収集を進める。(60分)
6.	6. データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する。(60分)
7.	7. データの分析1	データの分析を進める。(60分)
8.	8. データの分析2	データの分析を進める。(60分)
9.	9. データの分析3	データの分析を進める。(60分)
10.	10. データの分析4	データの分析を進める。(60分)
11.	11. 図表の作成1	図表などを作成する。(60分)
12.	12. 図表の作成2	図表などを作成する。(60分)
13.	13. 図表の作成3	図表などを作成する。(60分)
14.	14. データの分析、図表の見直し。	データ分析、図表などを見直す。(60分)
15.	15. 論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく。(60分)
16.	16. 論文作成（背景）	論文の作成を進める。(60分)
17.	17. 論文作成（方法）	論文の作成を進める。(60分)
18.	18. 論文作成（結果）1	論文の作成を進める。(60分)
19.	19. 論文作成（結果）2	論文の作成を進める。(60分)
20.	20. 論文作成（考察）1	論文の作成を進める。(60分)
21.	21. 論文作成（考察）2	論文の作成を進める。(60分)
22.	22. 論文作成（考察）3	論文の作成を進める。(60分)
23.	23. 論文作成（結論、引用参考文献の整理）	論文の作成を進める。(60分)
24.	24. 論文作成（見直し、印刷）	論文の作成を進める。(60分)
25.	25. 抄録の作成	研究論文の本筋部分を取り出しておく。(60分)
26.	26. 抄録の作成	抄録の作成。(60分)
27.	27. 研究発表の準備	発表資料の作成。(60分)
28.	28. 研究発表の準備	発表資料の作成。(60分)
29.	29. 研究の発表	発表の準備。(60分)
30.	30. 研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく。(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。
コロナ感染を起こさない研究計画を授業方法を行います。

フィードバックの方法: 教室（ゼミ）、マナビーなどで対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 南裕子他（2017），看護における研究第2版，日本看護協会出版会。

参考文献等: 小笠原知枝，松木光子編(2007) これからの看護研究—基礎と応用，ヌーヴェルヒロカワ。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

756004

卒業研究Ⅲ

木村　　静

FLTナンバー:　NUSI47-KG

授業テーマ:　研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要:　研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる。

到達目標:
・研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
・データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
・既存の文献を用いて論理的に考察できる。
・研究成果を論文形式にまとめることができる。
・研究について発表することができる。
・研究についてディスカッションすることができる。

授業方法:　学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	本科目のオリエンテーション 卒業研究における実施計画とは	卒業研究ⅠⅡの授業資料を確認する（予習） シラバスを読む（予習） オリエンテーション内容を整理する（復習） （30分）
2.	卒業研究における実施計画の方法	卒業研究Ⅱで作成した研究計画書内容を確認する（予習） 授業内容を整理する（復習） （60分）
3.	卒業研究の実施－研究の依頼について	研究依頼方法について調べる（予習） 授業内容を整理する（復習） （60分）
4.	卒業研究の実施－研究対象者の応募について	研究対象者の応募方法について調べる（予習） 授業内容を整理する（復習） （60分）
5.	卒業研究の実施－データ収集①	データ収集の準備を行う（予習） データ収集内容を確認、整理する（復習） （60分）
6.	卒業研究の実施－データ収集②	データ収集の準備を行う（予習） データ収集内容を確認、整理する（復習） （60分）
7.	卒業研究の実施－データ収集③	データ収集の準備を行う（予習） データ収集内容を確認、整理する（復習） （60分）
8.	卒業研究の実施－データ収集④	データ収集の準備を行う（予習） データ収集内容を確認、整理する（復習） （60分）
9.	卒業研究の実施－データ収集⑤	データ収集の準備を行う（予習） データ収集内容を確認、整理する（復習） （60分）
10.	卒業研究の実施－データ整理・データ入力①	データを整理し、資料を作成する（予習・復習） （60分）
11.	卒業研究の実施－データ整理・データ入力②	データを整理し、資料を作成する（予習・復習） （60分）
12.	卒業研究の実施－データ整理・データ入力③	データを整理し、資料を作成する（予習・復習） （60分）
13.	卒業研究の実施－データ分析①（記述統計）	データを分析し、資料を作成する（予習・復習） （60分）
14.	卒業研究の実施－データ分析②（記述統計）	データを分析し、資料を作成する（予習・復習） （60分）
15.	卒業研究の実施－データ分析①（統計解析）	データを分析し、資料を作成する（予習・復習） （60分）
16.	卒業研究の実施－データ分析②（統計解析）	データを分析し、資料を作成する（予習・復習） （60分）
17.	論文作成－背景の記述①	論文（背景）を作成するために必要な引用文献を選定する（予習・復習） 論文（背景）を整理する（復習） （60分）
18.	論文作成－背景の記述②	論文（背景）を作成するために必要な引用文献を選定する（予習・復習） 論文（背景）を整理する（復習） （60分）
19.	論文作成－方法の記述①	研究計画書を踏まえ、実施した研究方法について整理する（予習・復習） （60分）
20.	論文作成－方法の記述②	研究計画書を踏まえ、実施した研究方法について整理する（予習・復習） （60分）
21.	論文作成－結果の記述①	収集したデータから結果を整理する（予習・復習） （60分）
22.	論文作成－結果の記述②	収集したデータから結果を整理する（予習・復習） （60分）
23.	論文作成－考察の記述①	研究結果から、先行文献を踏まえて考察を整理する（予習・復習） （60分）
24.	論文作成－考察の記述②	研究結果から、先行文献を踏まえて考察を整理する（予習・復習） （60分）

25.	抄録の作成①	論文から要点を取り出し、抄録を作成する（予習・復習） （60分）
26.	抄録の作成②	論文から要点を取り出し、抄録を作成する（予習・復習） （60分）
27.	抄録の作成③	論文から要点を取り出し、抄録を作成する（予習・復習） （60分）
28.	研究についてのプレゼンテーション	プレゼンテーション資料を作成する（予習） プレゼンテーション後、プレゼンテーション資料を振り返る（復習） （60分）
29.	研究についてのプレゼンテーションの振り返り	プレゼンテーションの振り返りを整理する（予習） プレゼンテーションの振り返りから、最終プレゼンテーション資料を作成する（復習） （60分）
30.	まとめ	本科目を振り返る（予習・復習） （90分）

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：
教室（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書：

参考文献等：
基礎看護学④　看護研究、メディカ出版、2018
D,F、ポーリット、C,T,ベック、看護研究　原理と方法、医学書院、2010
西條剛央、看護研究で迷わないための超入門講座、医学書院
黒田裕子、黒田裕子の看護研究　Step by Step　第5版、医学書院、2017

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法：
オフィスアワーを活用して下さい。

756005

卒業研究Ⅲ

光木　　幸子

FLTナンバー:　NUSI47-KG

授業テーマ:　研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要:　卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:
1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2.量的研究ではデータに即した統計手法を選択し、分析できる。
　.質的研究では、対象者の言動の文脈を意味を踏まえて分析できる。
3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4.論理的一貫性を担保して研究成果を論文にまとめることができる。
5.研究について発表およびディスカッションができる。

授業方法:　学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　卒後研究Ⅲの進め方	卒業研究Ⅱの研究計画書を見直す(120分)
2.	質問紙調査の準備（量的）・インタビュー調査の準備（質的）1	研究計画書の修正があれば修正案を考えておく(120分)
3.	質問紙調査の準備（量的）・インタビュー調査の準備（質的）2	印刷物を準備する(120分)
4.	質問紙調査の準備（量的）・インタビュー調査の準備（質的）3	印刷物を準備する(120分)
5.	データ収集　質問紙調査の準備（量的）・インタビュー調査の準備（質的）4	対象者への協力を依頼しておく(120分)
6.	データ収集1　質問紙調査・インタビュー調査	対象者へのインタビュー方法のシミュレーションを行い練習しておく(120分)
7.	データ収集2　質問紙調査・インタビュー調査	前回のインタビュー方法の振り返りを行い練習しておく(120分)
8.	データ収集3　質問紙調査・インタビュー調査	前回のインタビュー方法の振り返りを行い練習しておく(120分)
9.	データ入力1　エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく(120分)
10.	データ入力2　エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく(120分)
11.	データ入力3　エクセル入力	データ入力ミスがないか確認しておく(120分)
12.	データ分析1　SPSS分析（量的）・エクセル分析（質的）	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする(120分)
13.	データ分析2　SPSS分析（量的）・エクセル分析（質的）	SPSSの統計解析方法を復習しておく(120分)
14.	データ分析3　SPSS分析（量的）・エクセル分析（質的）	SPSSの統計解析方法を復習しておく(120分)
15.	データ分析4　SPSS分析（量的）・エクセル分析（質的）	SPSSの統計解析方法を復習しておく(120分)
16.	結果のまとめ　図表の作成（量的）・　カテゴリの作成（質的）1	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく(120分)
17.	結果のまとめ　図表の作成（量的）・カテゴリの作成（質的）2	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく(120分)
18.	結果のまとめ　図表の作成（量的）・カテゴリの作成（質的）3	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく(120分)
19.	背景・目的・意義の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく(120分)
20.	研究方法の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく(120分)
21.	結果の記述1	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく(120分)
22.	結果の記述2	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく(120分)
23.	考察のための文献検討	結果を解釈するに必要な追加文献を収集し、検討しておく(120分)
24.	考察の記述1	結果を解釈できる考察を考えておく(120分)
25.	考察の記述2	結果を解釈できる考察を考えておく(120分)
26.	考察の記述3	結果を解釈できる考察を考えておく(120分)
27.	全体の推敲・修正	論旨の一貫性を担保した論文になっているか見直しておく(120分)
28.	抄録の作成	指定された抄録のフォーマットを確認しておく(120分)
29.	研究のプレゼンテーション1	PPTを使用して、7分程度で発表できる準備をしておく(120分)
30.	研究のプレゼンテーション2	PPTを使用して、7分程度で発表する(120分)

受講者へのメッセージやアドバイス:	卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって、研究プロセスを踏みながら、論旨の一貫性が確保された論文を作成しましょう。
フィードバックの方法:	研究実施を通して、適宜助言・指導を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	到達目標1～4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。
プレゼンテーション	20	到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。
取り組み姿勢や態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:	適宜、紹介する。
参考文献等:	必要時、紹介する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	講義時又はメールにて連絡する。

756006

卒業研究Ⅲ

當目　　雅代

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要: 卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:
1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2.量的研究ではデータに即した統計手法を選択し、分析ができる。
　.質的研究では、対象者の言動の文脈を意味を踏まえて分析できる。
3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4.論理的一貫性を担保して研究成果を論文にまとめることができる。
5.研究について発表およびディスカッションができる。

授業方法: 個別指導　WEB授業配信ツールによる双方向ゼミ

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　卒後研究Ⅲの進め方	卒業研究Ⅱの研究計画書を見直す
2.	質問紙調査の準備（量的）・インタビュー調査の準備（質的）1	研究計画書の修正があれば修正案を考えておく（120分）
3.	質問紙調査の準備（量的）・インタビュー調査の準備（質的）2	印刷物を準備する（120分）
4.	質問紙調査の準備（量的）・インタビュー調査の準備（質的）3	印刷物を準備する（120分）
5.	データ収集　質問紙調査の準備（量的）・インタビュー調査の準備（質的）4	対象者への協力を依頼しておく（120分）
6.	データ収集1　質問紙調査・インタビュー調査	
7.	データ収集2　質問紙調査・インタビュー調査	
8.	データ収集3　質問紙調査・インタビュー調査	
9.	データ入力1　エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく（120分）
10.	データ入力2　エクセル入力	
11.	データ入力3　エクセル入力	データ入力ミスがないか確認しておく（120分）
12.	データ分析1　SPSS分析（量的）・エクセル分析（質的）	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする（180分）
13.	データ分析2　SPSS分析（量的）・エクセル分析（質的）	
14.	データ分析3　SPSS分析（量的）・エクセル分析（質的）	
15.	データ分析4　SPSS分析（量的）・エクセル分析（質的）	
16.	結果のまとめ　図表の作成（量的）・　カテゴリの作成（質的）1	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく（180分）
17.	結果のまとめ　図表の作成（量的）・カテゴリの作成（質的）2	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておくく（180分）
18.	結果のまとめ　図表の作成（量的）・カテゴリの作成（質的）3	
19.	背景・目的・意義の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく（180分）
20.	研究方法の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく（180分）
21.	結果の記述1	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく（180分）
22.	結果の記述2	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく（180分）
23.	考察のための文献検討	結果を解釈するに必要な追加文献を収集し、検討しておく（180分）
24.	考察の記述1	結果を解釈できる考察を考えておく（180分）
25.	考察の記述2	結果を解釈できる考察を考えておく（180分）
26.	考察の記述3	結果を解釈できる考察を考えておく（180分）
27.	全体の推敲・修正	論旨の一貫性を担保した論文になっているか見直しておく（180分）
28.	抄録の作成	指定された抄録のフォーマットを確認しておく（180分）
29.	研究のプレゼンテーション1	PPTを使用して、7分程度で発表できる準備をしておく（180分）
30.	研究のプレゼンテーション2	PPTを使用して、7分程度で発表する（180分）

受講者へのメッセージやアドバイス: 科学的思考を培うための、研究プロセスを踏みながら、目的・方法・結果・考察にズレのない論旨の一貫性が確保された論文作成をしてください。

フィードバックの方法:	研究実施を通して、適宜助言・指導を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	到達目標1～4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。
プレゼンテーション	20	到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。
取り組み姿勢や態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:	適宜、紹介する。
参考文献等:	必要時、紹介する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	メール　マナビー　WEB授業配信ツール

756007

卒業研究Ⅲ

杉原　　百合子

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:
1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2.データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4.研究成果を論文形式にまとめることができる。
5.研究について発表することができる。
6.研究についてディスカッションすることができる。

授業方法: 学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
2.	研究実施計画の作成	研究計画書を見直す（30分）
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データ収集方法について復習する（30分）
4.	卒業研究の実施－データ収集　調査①	データを収集する（60分）
5.	卒業研究の実施－データ収集　調査②	データを収集する（60分）
6.	卒業研究の実施－データ収集　調査③	データを収集する（60分）
7.	卒業研究の実施－データ収集　調査④	データを収集する（60分）
8.	卒業研究の実施－データ収集　調査⑤	データを収集する（60分）
9.	卒業研究の実施－データ収集　調査⑥	データを収集する（60分）
10.	卒業研究の実施－データ整理	データを準備する（60分）
11.	卒業研究の実施－データ入力	データを準備する（60分）
12.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する（60分）
13.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する（60分）
14.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する（60分）
15.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する（60分）
16.	論文作成①	論文作成を行う（60分）
17.	論文作成②	論文作成を行う（60分）
18.	論文作成③	論文作成を行う（60分）
19.	論文作成④	論文作成を行う（60分）
20.	論文作成⑤	論文作成を行う（60分）
21.	論文作成⑥	論文作成を行う（60分）
22.	論文作成⑦	論文作成を行う（60分）
23.	論文作成⑧	論文作成を行う（60分）
24.	論文作成⑨	論文作成を行う（60分）
25.	論文作成⑩	論文作成を行う（60分）
26.	抄録の作成	抄録の構成を考える（60分）
27.	研究の発表およびディスカッション①	発表の準備を行う（60分）
28.	研究の発表およびディスカッション②	発表の準備を行う（60分）
29.	研究の発表およびディスカッション③	発表の準備を行う（60分）
30.	研究の発表およびディスカッション④	発表の準備を行う（60分）
1.	オリエンテーション	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義内およびオフィスアワーで対応する

756008

卒業研究Ⅲ

葉山　　有香

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:
研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究について発表することができる。
研究についてディスカッションすることができる。

授業方法: 学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究実施計画の作成	研究実施計画の作成（30分）
2.	研究実施計画の作成（推敲・修正）	研究実施計画の作成（60分）
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データ収集の準備（60分）
4.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データ収集の準備（60分）
5.	卒業研究の実施－データ収集　調査①	データ収集の準備（60分）
6.	卒業研究の実施－データ収集　調査②	データ収集の準備（60分）
7.	卒業研究の実施－データ収集　調査③	データ収集の準備（60分）
8.	卒業研究の実施－データ整理	分析資料の作成（60分）
9.	卒業研究の実施－データ整理	分析資料の作成（60分）
10.	卒業研究の実施－データ入力	分析資料の作成（60分）
11.	卒業研究の実施－データ入力	分析資料の作成（60分）
12.	卒業研究の実施－データ分析（記述統計）	分析資料の作成（60分）
13.	卒業研究の実施－データ分析（記述統計）（推敲・修正）	分析資料の作成（60分）
14.	卒業研究の実施－データ分析（統計解析）	分析資料の作成（60分）
15.	卒業研究の実施－データ分析（統計解析）（推敲・修正）	分析資料の作成（60分）
16.	論文作成－背景の記述	論文の作成（60分）
17.	論文作成－背景の記述（推敲・修正）	論文の作成（60分）
18.	論文作成－方法の記述	論文の作成（60分）
19.	論文作成－方法の記述（推敲・修正）	論文の作成（60分）
20.	論文作成－結果の記述	論文の作成（60分）
21.	論文作成－結果の記述（推敲・修正）	論文の作成（60分）
22.	論文作成－考察の記述	論文の作成（60分）
23.	論文作成－考察の記述（推敲・修正）	論文の作成（60分）
24.	論文作成－考察の記述（推敲・修正）	論文の作成（60分）
25.	抄録の作成	抄録の作成（60分）
26.	抄録の作成（推敲・修正）	抄録の作成（60分）
27.	研究についてのプレゼンテーション（準備）	発表資料の作成（60分）
28.	研究についてのプレゼンテーション（準備）（推敲・修正）	発表資料の作成（60分）
29.	研究についてのプレゼンテーション	発表準備（60分）
30.	研究についてのプレゼンテーション	発表準備（60分）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: Eメールを利用　葉山　yhayama@dwc.doshisha.ac.jp

756009

卒業研究Ⅲ

和泉　　美枝

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要: 研究計画書にそってウィメンズヘルス領域関する研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:
研究対象者に倫理的配慮を行い、正確にデータ収集することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究成果を発表することができる。
研究成果についてディスカッションすることができる。

授業方法: 学生による発表、学生間での討論、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	研究計画書の内容を復習し、持参する（30分）
2.	研究実施計画の作成	研究計画書の内容を復習し、持参する（30分）
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼	研究力者への依頼文を作成しておく（60分）
4.	卒業研究の実施－データ収集　調査①	データ収集の準備をしておく（120分）
5.	卒業研究の実施－データ収集　調査②	データ収集の準備をしておく（60分）
6.	卒業研究の実施－データ収集　調査③	データ収集の準備をしておく（60分）
7.	卒業研究の実施－データ収集　調査④	データ収集の準備をしておく（60分）
8.	卒業研究の実施－データ収集　調査⑤	データ収集の準備をしておく（60分）
9.	卒業研究の実施－データ整理	収集できたデータを整理しておく（60分）
10.	卒業研究の実施－データ入力①	収集できたデータの入力をしておく（60分）
11.	卒業研究の実施－データ入力②	収集できたデータの入力をしておく（60分）
12.	卒業研究の実施－データ分析（記述統計）	収集できたデータの分析方法を検討しておく（60分）
13.	卒業研究の実施－データ分析（統計解析）	収集できたデータの分析をしておく（60分）
14.	論文作成－背景の記述①	収集した文献と文献検討の結果をまとめ、持参する（120分）
15.	論文作成－背景の記述②	研究の背景を記載しておく（120分）
16.	論文作成－方法の記述①	研究方法を記載しておく（60分）
17.	論文作成－方法の記述②	研究方法を記載しておく（60分）
18.	論文作成－結果の記述①	データ分析の結果をまとめておく（60分）
19.	論文作成－結果の記述②	データ分析の結果をまとめておく（60分）
20.	論文作成－結果の記述③	研究結果を記載しておく（120分）
21.	論文作成－考察の記述①	考察を記載しておく（120分） 収集した文献と文献検討のまとめを持参する
22.	論文作成－考察の記述②	考察を記載しておく（120分） 収集した文献と文献検討のまとめを持参する
23.	論文作成－考察の記述③	考察を記載しておく（120分） 収集した文献と文献検討のまとめを持参する
24.	論文作成－結論の記述	結論を記載しておく（120分） 収集した文献と文献検討のまとめを持参する
25.	論文全体の推敲・完成	論文（原案）を完成させておく（120分） 収集した文献と文献検討のまとめを持参する
26.	抄録（原案）の作成	論文を完成させておく（120分）
27.	抄録の修正・完成	抄録（原案）を完成させておく（120分）
28.	プレゼンテーション①	発表の準備（資料の作成）をしておく（120分）
29.	プレゼンテーション②	発表の準備（資料の作成）をしておく（120分）
30.	まとめ	卒業論文の再確認をしておく（30分）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
出席・態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:
系統看護学講座別巻看護研究、坂下玲子他、医学書院
ナーシング・グラフィカ基礎看護学④看護研究、川村佐和子編、メディカ出版
黒田裕子の看護研究Step by Step 第5版、黒田裕子、医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 質問などは主にゼミ中に対応する

756010

卒業研究Ⅲ

木村　　洋子

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得

授業の概要: 研究計画書に基づいた研究の実施，研究論文の作成.

到達目標: 1.研究計画書に基づいてデータの収集・分析を行うことができる.
2.実施した研究を研究論文にまとめることができる.

授業方法: 演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究計画書に基づいた研究の実施準備(1)	具体的な実施計画を考える. (120分)
2.	研究計画書に基づいた研究の実施準備(2):研究協力依頼等	研究協力を依頼する際の手続きについて (120分)
3.	データ収集(1)	データ収集の準備 (120分)
4.	データ収集(2)	収集したデータの整理 (120分)
5.	データ収集(3)	収集したデータの整理 (120分)
6.	データ収集(4)	収集したデータの整理 (120分)
7.	データ収集(5)	収集したデータの整理 (120分)
8.	収集したデータの整理・分析(1)	データの分析 (120分)
9.	収集したデータの整理・分析(2)	データの分析 (120分)
10.	収集したデータの整理・分析(3)	データの分析 (120分)
11.	収集したデータの整理・分析(4)	データの分析 (120分)
12.	収集したデータの整理・分析(5)	データの分析 (120分)
13.	分析結果についての発表，意見交換	発表資料の作成 (120分)
14.	論文作成(1)	(120分)
15.	論文作成(2)	(120分)
16.	論文作成(3)	(120分)
17.	論文作成(4)	(120分)
18.	論文作成(5)	(120分)
19.	論文作成(6)	(120分)
20.	論文作成(7)	(120分)
21.	論文作成(8)	(120分)
22.	論文作成(9)	(120分)
23.	論文作成(10)	(120分)
24.	グループメンバーによる論文推敲(1)	予め配布されたグループメンバーの論文を熟読しておく. (120分)
25.	グループメンバーによる論文推敲(2)	予め配布されたグループメンバーの論文を熟読しておく. (120分)
26.	抄録の作成	抄録の作成 (120分)
27.	抄録の修正	指導を受けて，抄録を修正する. (120分)
28.	研究についての発表(1)	発表資料の作成 (120分)
29.	研究についての発表(2):発表，意見交換	(120分)
30.	まとめ	研究論文・抄録の提出

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: グループ，あるいは個別にフィードバックを行う.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究実施・研究論文作成	80	研究計画書に基づいて研究を行うことができる. 研究論文を作成することができる.
授業への取り組み	20	積極的・主体的に取り組むことができる.

教科書:	適宜紹介する.
参考文献等:	適宜紹介する.
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己実現力
教員との連絡方法:	ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

756011

卒業研究Ⅲ

川崎　　友絵

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文にまとめ発表する

到達目標:
研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究について発表することができる。
研究についてディスカッションすることができる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく。「看護における研究第2版」（p.140～170のデータ収集方法の自己の研究に該当する部分）を読んでおくこと(90分)。
2.	データの収集1	データの収集を進める(90分)。
3.	データの収集2	データの収集を進める(90分)。
4.	データの収集、整理、入力1	データの収集を進める(90分)。
5.	データの収集、整理、入力2	データの収集を進める(90分)。
6.	データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する(90分)。
7.	データの分析1	データの分析を進める。「看護における研究第2版」（p.172～239のデータ分析方法の自己の研究に該当する部分）を読んでおくこと(90分)。
8.	データの分析2	データの分析を進める(90分)。
9.	データの分析3	データの分析を進める(90分)。
10.	データの分析4	データの分析を進める(90分)。
11.	図表の作成1	図表などを作成する(90分)。
12.	図表の作成2	図表などを作成する(90分)。
13.	図表の作成3	図表などを作成する(90分)。
14.	データの分析、図表の見直し	データ分析、図表などを見直す(90分)。
15.	論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく(60分)。
16.	論文作成（背景）	論文の作成を進める(90分)。
17.	論文作成（方法）	論文の作成を進める(90分)。
18.	論文作成（結果）1	論文の作成を進める(90分)。
19.	論文作成（結果）2	論文の作成を進める(90分)。
20.	論文作成（考察）1	論文の作成を進める(120分)。
21.	論文作成（考察）2	論文の作成を進める(90分)。
22.	論文作成（考察）3	論文の作成を進める(90分)。
23.	論文作成（結論、引用参考文献の整理）	論文の作成を進める(90分)。
24.	論文作成（見直し、印刷）	論文の作成を進める(90分)。
25.	抄録の作成	研究論文の本筋部分を取り出しておく(60分)。
26.	抄録の作成	抄録の作成(120分)。
27.	研究発表の準備	発表資料の作成(90分)。
28.	研究発表の準備	発表資料の作成(90分)。
29.	研究の発表	発表の準備(90分)。
30.	研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく(60分)。

受講者へのメッセージやアドバイス: 研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。

フィードバックの方法: ゼミ（対面またはオンラインゼミ）、マナビー、メールなどで対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	研究の独自性及び論理性、論文の内容、形式について評価する。
プレゼンテーション、ディスカッション	15	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性について評価する。
授業への参加度	15	授業に取り組む積極性、主体性について評価する。

教科書: 南裕子他（2017），看護における研究第2版，日本看護協会出版会。

参考文献等: 適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

756013

卒業研究Ⅲ

山縣　　恵美

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:
1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2.データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4.研究成果を論文形式にまとめることができる。
5.研究について発表することができる。
6.研究についてディスカッションすることができる。

授業方法: 学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	研究実施計画の作成	研究計画書を見直す（60分）
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データ収集方法について復習する（60分）
4.	卒業研究の実施－データ収集　調査①	データを収集する（90分）
5.	卒業研究の実施－データ収集　調査②	データを収集する（90分）
6.	卒業研究の実施－データ収集　調査③	データを収集する（90分）
7.	卒業研究の実施－データ収集　調査④	データを収集する（90分）
8.	卒業研究の実施－データ収集　調査⑤	データを収集する（90分）
9.	卒業研究の実施－データ収集　調査⑥	データを収集する（90分）
10.	卒業研究の実施－データ整理	データを準備する（90分）
11.	卒業研究の実施－データ入力	データを準備する（90分）
12.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する（90分）
13.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する（90分）
14.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する（90分）
15.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する（90分）
16.	論文作成①	論文作成を行う（90分）
17.	論文作成②	論文作成を行う（90分）
18.	論文作成③	論文作成を行う（90分）
19.	論文作成④	論文作成を行う（90分）
20.	論文作成⑤	論文作成を行う（90分）
21.	論文作成⑥	論文作成を行う（90分）
22.	論文作成⑦	論文作成を行う（90分）
23.	論文作成⑧	論文作成を行う（90分）
24.	論文作成⑨	論文作成を行う（90分）
25.	論文作成⑩	論文作成を行う（90分）
26.	抄録の作成	抄録の構成を考える（90分）
27.	研究の発表およびディスカッション①	発表の準備を行う（90分）
28.	研究の発表およびディスカッション②	発表の準備を行う（90分）
29.	研究の発表およびディスカッション③	発表の準備を行う（90分）
30.	研究の発表およびディスカッション④	発表の準備を行う（90分）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義時、オフィスアワーに対応する。

756014

卒業研究Ⅲ

萩本　　明子

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文にまとめ発表する。

到達目標:
研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究について発表することができる。
研究についてディスカッションすることができる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく（60分）。
2.	2. データの収集1	データを収集を進める（120分）。
3.	3. データの収集2	データを収集を進める（120分）。
4.	4. データの収集、整理、入力1	データを収集を進める（120分）。
5.	5. データの収集、整理、入力2	データを収集を進める（120分）。
6.	6. データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する（60分）。
7.	7. データの分析1	データの分析を進める（180分）。
8.	8. データの分析2	データの分析を進める（180分）。
9.	9. データの分析3	データの分析を進める（180分）。
10.	10. データの分析4	データの分析を進める（180分）。
11.	11. 図表の作成1	図表などを作成する（120分）。
12.	12. 図表の作成2	図表などを作成する（120分）。
13.	13. 図表の作成3	図表などを作成する（120分）。
14.	14. データの分析、図表の見直し	データ分析、図表などを見直す（60分）。
15.	15. 論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく（60分）。
16.	16. 論文作成（背景）	論文の作成を進める（60分）。
17.	17. 論文作成（方法）	論文の作成を進める（60分）。
18.	18. 論文作成（結果）1	論文の作成を進める（120分）。
19.	19. 論文作成（結果）2	論文の作成を進める（120分）。
20.	20. 論文作成（考察）1	論文の作成を進める（180分）。
21.	21. 論文作成（考察）2	論文の作成を進める（180分）。
22.	22. 論文作成（考察）3	論文の作成を進める（180分）。
23.	23. 論文作成（結論、引用参考文献の整理）	論文の作成を進める（60分）。
24.	24. 論文作成（見直し、印刷）	論文の作成を進める（60分）。
25.	25. 抄録の作成1	研究論文の本筋部分を取り出しておく（120分）。
26.	26. 抄録の作成2	抄録の作成（120分）。
27.	27. 研究発表の準備1	発表資料の作成（180分）。
28.	28. 研究発表の準備2	発表資料の作成（180分）。
29.	29. 研究の発表	発表の準備（60分）。
30.	30. 研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく（60分）。

受講者へのメッセージやアドバイス:
研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。
＊準備学習等の内容で記載した時間数は目安であり、研究方法やテーマによって異なります。

フィードバックの方法: 教室（ゼミ）、マナビーなどで対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70%	研究の独自性及び論理性
プレゼンテーション、ディスカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 南裕子他（2017），看護における研究第2版，日本看護協会出版会。

参考文献等: 適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

756015

卒業研究Ⅲ

橋本　　秀実

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:
1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2. データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4. 研究成果を論文形式にまとめることができる。
5. 研究を発表することができる。
6. 研究を批判的に吟味し、ディスカッションすることができる。
7. 看護を探求する姿勢を持ち、研究に積極的に取り組む

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究実施計画の作成	研究実施計画の作成（60分）
2.	研究協力の依頼	依頼文書・質問紙・インタビューガイド等の準備（60分）
3.	データ収集	必要書類の印刷、物品等準備（60分）
4.	データ収集	必要書類の印刷、物品等準備（60分）
5.	データ整理・入力	データ入力票の作成（60分）
6.	データ整理・入力	データの整理（60分）
7.	データ分析一記述統計	分析資料の作成（60分）
8.	データ分析一統計解析等	分析資料の作成（60分）
9.	データ分析	分析資料の作成（60分）
10.	データ分析	分析資料の作成（60分）
11.	データ分析	分析資料の作成（60分）
12.	データ分析（まとめ）	データ分析結果のまとめ（60分）
13.	研究（中間）報告会準備	資料作成（60分）
14.	研究報告会	発表準備（60分）
15.	研究報告会	発表準備（60分）
16.	研究論文の作成-序論	論文原稿作成（60分）
17.	研究論文の作成-序論	論文原稿作成（60分）
18.	研究論文の作成-方法	論文原稿作成（60分）
19.	研究論文の作成-方法	論文原稿作成（60分）
20.	研究論文の作成-結果	論文原稿作成（60分）
21.	研究論文の作成-結果	論文原稿作成（60分）
22.	研究論文の作成—考察	論文原稿作成（60分）
23.	研究論文の作成—考察	論文原稿作成（60分）
24.	研究論文の作成-結論	論文原稿作成（60分）
25.	研究論文の作成一完成	論文原稿作成（60分）
26.	抄録作成	抄録作成（60分）
27.	抄録作成	抄録作成（修正）（60分）
28.	研究発表会準備	発表資料作成（60分）
29.	研究発表	発表準備（60分）
30.	研究発表	発表準備（60分）

受講者へのメッセージやアドバイス: 自ら積極的に学び、看護専門職者として看護研究を実践していける基礎となる力を身につけましょう。

フィードバックの方法: 授業中にその都度フィードバックする
個別指導については、メールを通して、または時間外に行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	60	研究計画書に沿って研究を進め、論文としてまとめることができる（目標1～4）
プレゼンテーション、ディスカッション	20	自分の考えや学習成果を授業の中でわかりやすく発表できること、ディスカッションに積極的に参加すること（目標5，6）
態度	20	自主性および授業に臨む態度（目標7）

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: メールまたはマナビーを通じて連絡する（hihashim@dwc.doshisha.ac.jp）
必要であれば研究室に来てください

756016

卒業研究Ⅲ

三橋　　美和

FLTナンバー:　NUSI47-KG

授業テーマ:　研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要:　研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:
1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる
2.データを正確に分析し結果を明確に示すことができる
3.既存の文献を用いて論理的に考察できる
4.研究成果を論文形式にまとめることができる
5.研究について発表することができる
6.研究についてディスカッションすることができる

授業方法:　学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	研究実施計画の作成	研究実施計画の概要について復習しておく
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	研究協力の依頼方法について復習する
4.	卒業研究の実施－データ収集　調査①	データ収集の準備をする
5.	卒業研究の実施－データ収集　調査②	データ収集の準備をする
6.	卒業研究の実施－データ収集　調査③	データ収集の準備をする
7.	卒業研究の実施－データ収集　調査④	データ収集の準備をする
8.	卒業研究の実施－データ収集　調査⑤	データ収集の準備をする
9.	卒業研究の実施－データ収集　調査⑥	データ収集の準備をする
10.	卒業研究の実施－データ整理	データ整理方法について復習しておく
11.	卒業研究の実施－データ入力	データ入力に必要な物品を準備しておく
12.	卒業研究の実施－データ分析①	データ分析方法を復習しておく
13.	卒業研究の実施－データ分析②	データ分析方法を復習しておく
14.	卒業研究の実施－データ分析③	データ分析方法を復習しておく
15.	卒業研究の実施－データ分析④	データ分析方法を復習しておく
16.	論文作成①	論文の構成について復習しておく
17.	論文作成②	論文作成を行う
18.	論文作成③	論文作成を行う
19.	論文作成④	論文作成を行う
20.	論文作成⑤	論文作成を行う
21.	論文作成⑥	論文作成を行う
22.	論文作成⑦	論文作成を行う
23.	論文作成⑧	論文作成を行う
24.	論文作成⑨	論文作成を行う
25.	論文作成⑩	論文作成を行う
26.	抄録の作成	抄録の構成について復習しておく
27.	研究の発表およびディスカッション①	発表の準備をする
28.	研究の発表およびディスカッション②	発表の準備をする
29.	研究の発表およびディスカッション③	発表の準備をする
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
プレゼンテーション	10	プレゼンテーションの適切性
授業への参加態度	20	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:　医学書院　系統看護学講座別巻　看護研究（著者代表　坂下玲子）※卒業研究Ⅱで購入済み

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　manabeまたはE-mailにて対応する

756017

卒業研究Ⅲ

小笠　　美春

FLTナンバー:　NUSI47-KG

授業テーマ:　研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要:　卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:
1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2.量的研究ではデータに即した統計手法を選択し、分析ができる。
　.質的研究では、対象者の言動の文脈を意味を踏まえて分析できる。
3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4.論理的一貫性を担保して研究成果を論文にまとめることができる。
5.研究について発表およびディスカッションができる。

授業方法:　グループで作成した計画書に基づいて研究を実施する。学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　卒後研究Ⅲの進め方	卒業研究Ⅱの研究計画書を見直す（60分）
2.	質問紙調査の準備（量的）・インタビュー調査の準備（質的）1	研究計画書の修正があれば修正案を考えておく（60分）
3.	質問紙調査の準備（量的）・インタビュー調査の準備（質的）2	印刷物を準備する（60分）
4.	質問紙調査の準備（量的）・インタビュー調査の準備（質的）3	印刷物を準備する（60分）
5.	データ収集　質問紙調査の準備（量的）・インタビュー調査の準備（質的）4	対象者への協力を依頼しておく（60分）
6.	データ収集1　質問紙調査・インタビュー調査	データ収集に必要な準備をしておく（90分）
7.	データ収集2　質問紙調査・インタビュー調査	データ収集に必要な準備をしておく（90分）
8.	データ収集3　質問紙調査・インタビュー調査	データ収集に必要な準備をしておく（90分）
9.	データ入力1　エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく（90分）
10.	データ入力2　エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく（90分）
11.	データ入力3　エクセル入力	データ入力ミスがないか確認しておく（60分）
12.	データ分析1　SPSS分析（量的）・エクセル分析（質的）	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする（60分）
13.	データ分析2　SPSS分析（量的）・エクセル分析（質的）	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする（60分）
14.	データ分析3　SPSS分析（量的）・エクセル分析（質的）	データ分析をすすめておく（120分）
15.	データ分析4　SPSS分析（量的）・エクセル分析（質的）	データ分析をすすめておく（120分）
16.	結果のまとめ　図表の作成（量的）・　カテゴリの作成（質的）1	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく（60分）
17.	結果のまとめ　図表の作成（量的）・カテゴリの作成（質的）2	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく（60分）
18.	結果のまとめ　図表の作成（量的）・カテゴリの作成（質的）3	結果を図や表にまとめておく（180分）
19.	背景・目的・意義の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく（90分）
20.	研究方法の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく（90分）
21.	結果の記述1	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく（90分）
22.	結果の記述2	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく（90分）
23.	考察のための文献検討	結果を解釈するに必要な追加文献を収集し、検討しておく（120分）
24.	考察の記述1	結果を解釈できる考察を考えておく（120分）
25.	考察の記述2	結果を解釈できる考察を考えておく（120分）
26.	考察の記述3	結果を解釈できる考察を考えておく（120分）
27.	全体の推敲・修正	論旨の一貫性を担保した論文になっているか見直しておく（90分）
28.	抄録の作成	指定された抄録のフォーマットを確認しておく（60分）
29.	研究のプレゼンテーション1	PPTを使用して、7分程度で発表できる準備をしておく（120分）
30.	研究のプレゼンテーション2	PPTを使用して、7分程度で発表できる準備をしておく（120分）

受講者へのメッセージやアドバイス:　科学的思考を培うための、研究プロセスを踏みながら、目的・方法・結果・考察にズレのない論旨の一貫性が確保された論文作成をしてください。

フィードバックの方法:	研究実施を通して、適宜助言・指導を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	到達目標1～4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。
プレゼンテーション	20	到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。
取り組み姿勢や態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:	適宜、紹介する。
参考文献等:	必要時、紹介する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	講義時またはメール・マナビーで連絡する。

792004

薬学特別研究Ⅰ

森田　　邦彦

FLTナンバー:

授業テーマ: 博士論文の研究課題遂行に向けた学識ならびに方法論的準備

授業の概要: 薬学特別研究Ⅰは、薬学特別研究Ⅳでの最終的な博士学位論文を完成するための準備段階として位置づけられる。薬学特別研究Ⅰでは、目的とする研究分野の基礎的な知見を精査し、研究の方向性を吟味することに力点を置きつつ、研究の方法や技術について基礎的な考え方を習得する。また、各講義では、研究科所属の全教員とともに進捗状況と将来性について質疑応答ならびに意見交換を行う。便宜上15項目を列挙するが、順序やそれぞれの回数は内容に応じて流動的に計画されている。

到達目標: 薬学特別研究Ⅰでの成果をもとに博士学位論文作成に向けての方向性を見定め、そのために必要となる専門的知識や技能習得を展開し、かつその中核となる研究を進展させることを目標とする。

授業方法: 定期的にラボミーティングを行い、実験データ、実験方法、実験条件、次の実験方針、関連する先端的研究の内容などについて討議する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬学特別研究Ⅰの評価と方向性の確認のための討議1	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など（3～4時間）
2.	テーマに関連する問題点の洗い出し、関連論文の抽出	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など（3～4時間）
3.	目標達成のための方法論の討議、仮説の再構築	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など（3～4時間）
4.	関連論文講読・発表1	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など（3～4時間）
5.	関連論文講読・発表2	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など（3～4時間）
6.	検証実験1と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
7.	検証実験2と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など（3～4時間）
8.	検証実験3と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など（3～4時間）
9.	データのまとめと論点整理	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など（3～4時間）
10.	中間報告会	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など（3～4時間）
11.	中間報告会の指摘事項の整理、方法論の討議	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など（3～4時間）
12.	検証実験4と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など（3～4時間）
13.	検証実験5と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など（3～4時間）
14.	検証実験6と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など（3～4時間）
15.	発表会での討議や方向性の妥当性評価	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など（3～4時間）

受講者へのメッセージやアドバイス: 常に研究テーマに関連する原著論文を精査し、研究手法や方向性についての知識や考え方を習得する姿勢を持つこと。

フィードバックの方法: ラボミーティングや日々の研究の中で随時、研究室で対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ラボミーティング	100%	研究の背景や原理、研究手法に関する知識、実験手技の熟練度、次の実験の立案、分かりやすい研究のプレセンテーション力から総合的に到達目標への到達度を評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 研究室で随時対応。

792107

薬学特別研究Ⅱ

髙橋　　玲

FLTナンバー:

授業テーマ: 博士論文の研究課題の発展

授業の概要: 薬学特別研究は、Ⅳにおいて最終的に博士論文を完成することを目的としている。その最終目標を達成するため、薬学特別研究Ⅱでは、中間報告会を設け、研究科所属教員全員で進捗状況と将来性の判定をおこなう。この時点で大きな懸念がある場合は、方向性の見直しを含めた指導方針の変更があり得る。この授業で網羅する15項目を列挙したが、順序やそれぞれの回数は内容に応じて流動的である。

到達目標: 薬学特別研究Ⅰの成果をさらに発展させ、感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬ならびに免疫抑制薬のいずれかを対象とした体内動態と薬効あるいは毒性の関係解析を通した臨牀研究課題を遂行し、投与設計のあり方にアプローチする。薬学特別研究Ⅰで取り組んだ臨床研究での症例数をさらに増やして解析を進める。

授業方法: 頻回のミーティングを行い、実験研究と文献調査を継続する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬学特別研究Ⅰの評価と方向性の確認のための討議1	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
2.	テーマに関連する問題点の洗い出し、関連論文の抽出	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
3.	目標達成のための方法論の討議、仮説の再構築	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
4.	関連論文講読・発表1	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
5.	関連論文講読・発表2	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
6.	検証実験1と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
7.	検証実験2と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
8.	検証実験3と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
9.	データのまとめと論点整理	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
10.	中間報告会	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
11.	中間報告会の指摘事項の整理、方法論の討議	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
12.	検証実験4と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
13.	検証実験5と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
14.	検証実験6と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
15.	発表会での討議、方向性の妥当性評価	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。

受講者へのメッセージやアドバイス: 研究成果は一朝一夕には得られません。1%の発想と99%たゆまぬ努力が道を開きます。同時に、テーマに関連する文献を独自で検索し、研究手法の吟味や方向付けを行っていくことが大切です。

フィードバックの方法: ミーティングや日々の研究・実験遂行の中で、随時研究室で対応し、コメントを与える。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	プレゼンテーション	100%	期末の発表会の内容に基づき、評価する。

教科書:

参考文献等: 教員の指導のもとに学生が自力で探索する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 研究室で必要な時に随時対応する。

792202

薬学特別研究Ⅲ

川崎　　清史

FLTナンバー:

授業テーマ: 博士学位論文のための研究指導

授業の概要: 研究テーマに沿って博士学位論文作成のための必要な研究成果を挙げることを目標とし、研究の遂行と課題解決のための実験方法を提案し、得られた結果について議論し、次の課題を解決させるサイクルを通じて研究活動を行い、その中から学会発表並びに学術論文執筆に値する成果を得ることを目的とする。

到達目標: 国際的なジャーナル紙に投稿する英語論文の執筆のための必要な実験データなどを得、統計処理を行い、論文執筆のノウハウを学ぶとともに、実際にそれらのデータを用いて執筆を行うことを目標とする。

授業方法: 議論と執筆指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
2.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
3.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
4.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
5.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
6.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
7.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
8.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
9.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
10.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
11.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
12.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
13.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
14.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
15.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。
16.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
17.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
18.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
19.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
20.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
21.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
22.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
23.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
24.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
25.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
26.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
27.	学会発表の予備練習	発表のためのポスターやスライドを作成する(20時間)
28.	学会発表の予備練習	発表のためのポスターやスライドを作成する(20時間)
29.	英語論文の投稿準備1	研究成果を英語論文として発表するための草稿を作成する(720時間)
30.	英語論文の投稿準備2	指導を経て英語論文の草稿を精度の高いものに仕上げる(720時間)

受講者へのメッセージやアドバイス: 研究成果は一朝一夕には得られません。1%の発想と99%たゆまぬ努力が道を開きます。

フィードバックの方法: 直接の議論

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究成果と成果に関する議論	100	学術の進歩に貢献しうる研究成果が得られているか、そしてその成果を適切に議論できるかを評価のポイントとする。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	対面指導

792313 **薬学特別研究Ⅳ**

中西　　弘和

FLTナンバー:

授業テーマ: 博士学位論文のための研究と博士学位論文作成

授業の概要: 薬学特別研究Ⅰ～Ⅲにおいて培ってきた専門知識あるいはその領域におけるテーマに沿って実験した結果得られたデータを統計解析し、吟味および討議した後、課題の問題解決に向けた論点を整理し、学会発表を行うとともに、博士学位論文作成のためのストーリーを構築して執筆活動を行う。

到達目標: 国際的なジャーナル紙に投稿して受理された英語論文を主軸とし、博士学位論文のストーリー展開を構築し、与えられたテーマについて専門的な学識を交えた博士学位論文を執筆し完成させることを目的とする。また、博士学位論文内容に関してその内容を公開の場で口頭発表を行い、議論をする。

授業方法: 議論と執筆指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
2.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
3.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
4.	研博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
5.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
6.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
7.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間))
8.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
9.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
10.	研博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
11.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
12.	研博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
13.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
14.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
15.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
16.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
17.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
18.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
19.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
20.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
21.	研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
22.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
23.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	課博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)

24.	研博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
25.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
26.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
27.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
28.	博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つかれば、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
29.	博士学位論文発表会の準備	博士学位論文発表会のための草稿を作成する(720時間)
30.	博士学位論文発表会の準備	博士学位論文発表会のための草稿を作成する(720時間)

受講者へのメッセージやアドバイス:
博士学位論文では、国際的なジャーナル紙に投稿して受理された英語論文を主軸として、研究テーマに関する専門的な知識を加味しながら、ストーリーを展開してゆきます。

フィードバックの方法:
直接の議論

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
博士学位論文と質疑応答	100	学術の進歩に貢献しうる研究成果により、論点を見極めたストーリー展開が博士学位論文に認められるか、そしてその発表会において適切に発表し、質疑応答ができているかを評価のポイントとする。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
対面指導

880400、60

博物館実習

山田　　邦和

FLTナンバー:　EDUe44-GS

授業テーマ:　博物館学芸員としての基礎的技術の習得

授業の概要:　今日の博物館は，学校教育のみならず生涯教育の場として，また文化の保存・伝承と研究発信の場として現代社会の中で大きな役割を果たしている。この「博物館実習」は「博物館学芸員資格」取得のための要となる授業であり博物館学芸員としての基礎的な心構えと技術を習得することを目的とする。
　そうした実際の博物館での実習を行う上で必要な博物館資料の取り扱いから展示の実現まで，主として考古学・歴史学の立場を軸としつつも，地理学・民俗学・美術史など幅広い観点から，多様な実務についての基礎技術を実習し，また，さまざまな博物館のあり方を現地で学び，地域社会における博物館のあり方を総合的に学習することを目標とする。
　また「博物館実習」の単位を取得するためには大学内での受講だけではなく実際の博物館の現場でおこなわれる「館園実習」（5～14日間程度）に参加することが必要となる。

到達目標:　博物館学芸員としての基礎的な技術を習得する。

授業方法:　本学の春学期の授業はすべて遠隔授業となった。この授業も、授業支援システム「マナビー」（主として「掲示板」「レポート」）とYoutubeの動画を利用するものとする。「マナビー」の掲示板に当日の授業の指示をするので、それにしたがって受講すること。
　秋学期は実習形式とする（ただし、新型コロナウイルス感染症対策が秋学期まで長引いた場合は、変更がありうる）。教室における屋内実習、野外でおこなう屋外実習、学外の博物館を訪れる見学実習がある。実際の作業や，ディスカッション等も含めて積極的な姿勢が前提となる。また，夏期を中心として実際の博物館での「館園実習」への参加も前提となる。また受講にあたっては定められた実習費を納めることが必要である。
　なお、この科目は、京田辺キャンパスと今出川キャンパスの双方で開講する。それぞれのキャンパスの特性を活かして、京田辺では博物館資料の取り扱い方に重点を置き、今出川では京都市内の博物館の実地見学実習（入館料・交通費は自己負担となる）を多く取り入れることとする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　博物館実習の心構え（両キャンパス共通）	1. これまでの博物館学芸員関係科目の内容を復習しておくこと(60分)。 2. 準備学習にあたっては、実際の博物館を見学することが望ましい。
2.	博物館のバーチャル見学実習1（共通）	1. 博物館の見学のマナーを考えておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。
3.	博物館広報チラシの比較検討（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。
4.	博物館資料室のバーチャル見学（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。
5.	民俗資料実習1～信仰資料の整理（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。
6.	民俗資料実習2～信仰資料の整理（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。
7.	民俗資料実習3～信仰資料の整理（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。
8.	考古学資料実習1～遺物の扱い方（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。
9.	考古学資料実習2～遺物実測（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。
10.	考古学資料実習3～遺物実測（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。
11.	考古学資料実習4～遺物実測（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。
12.	考古学資料実習5～拓本（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。
13.	考古学資料実習5～拓本（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。
14.	考古学資料実習6～拓本（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。
15.	博物館館園実習に関する事前指導（共通）	1. 自分が館園実習に行く博物館についてまとめておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。
16.	博物館館園実習の個別報告1（共通）	館園実習で経験したことをまとめ、説明できるようにしておくこと(30分)。
17.	博物館館園実習の個別報告2（共通）/博物館の実地見学実習6（今出川）	館園実習で経験したことをまとめ、説明できるようにしておくこと(30分)。
18.	歴史地理学資料実習1～古地図資料（京田辺）/考古学資料実習4～遺物実測（今出川）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと(30分)。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の博物館を見学することが望ましい。

19.	歴史地理学資料実習２～近代地図資料（京田辺）/考古学資料実習５～遺物実測（今出川）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと（30分）。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと（30分）。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の博物館を見学することが望ましい。
20.	美術資料実習１～掛軸（京田辺）/博物館の実地見学実習７（今出川）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと（30分）。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと（30分）。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の博物館を見学することが望ましい。
21.	美術資料実習２～巻物（京田辺）/美術資料実習１～掛軸・巻物（今出川）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと（30分）。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと（30分）。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の博物館を見学することが望ましい。
22.	美術資料実習３～文書（京田辺）/美術資料実習２～文書・典籍（今出川）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと（30分）。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと（30分）。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の博物館を見学することが望ましい。
23.	美術資料実習４～典籍（京田辺）/博物館の実地見学実習８（今出川）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと（30分）。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと（30分）。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の博物館を見学することが望ましい。
24.	写真実習１（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと（30分）。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと（30分）。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の博物館を見学することが望ましい。
25.	写真実習２（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと（30分）。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと（30分）。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の博物館を見学することが望ましい。
26.	展示図録１～印刷の知識（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと（30分）。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと（30分）。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の博物館を見学することが望ましい。
27.	展示図録２～図録のレイアウト（共通）	1. 博物館資料についての取り扱い方を考えておくこと（30分）。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと（30分）。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の博物館を見学することが望ましい。
28.	展覧会の構成１～展示計画の立案（共通）	1. 展示計画を立案しておくこと（60分）。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと（30分）。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の博物館を見学することが望ましい。
29.	展覧会の構成２～展示計画の発表（共通）	1. 立案した展示計画を発表できるようにしておくこと（60分）。 2. 前回の授業の内容を復習しておくこと（30分）。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の博物館を見学することが望ましい。
30.	博物館実習の総括	授業全般をふりかえり、自分なりに総括しておくこと（60分）。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実習の各作業に積極的に参加する姿勢が求められる。実習授業であるので、4分の1以上の欠席は、理由のいかんを問わず認めない（公欠は除く）。特に、学期最初、学期末の授業は欠席してはならない。多くの博物館を自主的に見学することも必須となる。特に実際の博物館の現場でおこなわれる「館園実習」は学外の博物館の厚意によって受け入れていただくものであるから生半可な気持ちで参加することは許されないことを肝に銘じていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ覚悟を持たない者はこの授業を受講してはならないことを強調しておく。

ただし、新型コロナウイルス感染症対策により、春学期の授業はすべて遠隔授業となったため、「マナビーの掲示板」による指示に従って受講し、課題を必ず提出すること。

なお、上記の特殊事情により、本年は館園実習を受けることについても変動がある可能性が高い（博物館が館園実習を停止するなど）。免許・資格課からの連絡に常に対応すること。また、変動があったの場合の代替措置については改めて指示するので、「マナビー」を注視しておくこと。

フィードバックの方法:

「マナビー」による連絡

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	春学期は、「マナビー」の掲示板にきちんとアクセスし、その指示に従うことをもって出席とみなす。 秋学期は、遅刻せずに出席し、また、指定されたペーパー等を提出したか。 年間を通じて、実習授業であるので、4分の1以上の欠席は、理由のいかんを問わず認めない（公欠は除く）。博物館学芸員としての基礎的な技術を習得できたかどうか。
授業への積極的参加度・レポート提出	30	春学期は、「マナビー」で指示したレポートをきちんと提出したかどうか。 秋学期は、きちんと受講し、授業への積極的に参加し、博物館学芸員としての基礎的な技術を習得できたかどうか。
館園実習での評価	20	館園実習をきちんと受講したかどうか。

教科書:

参考文献等:	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』(芙蓉書房出版2002年2,700円＋税)
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	「マナビー」による連絡 「マナビー」のリマインダ機能を設定し、掲示板・個別指導を常時確認しておくこと。

886700

図書館実習

村木　　美紀

FLTナンバー:　EDUc44-J

授業テーマ:　図書館サービスの実践

授業の概要:　図書館情報学は極めて実践的な学問であり図書館サービス理論も整理技術も現実の図書館活動の中から生まれ発展してきた。さらに今日では利用者のニーズおよびメディアの多様化も相まって、図書館は大きな変容を遂げつつある。それだけに図書館への理解のためには、実務を経験し、利用者に対応することが必要である。
本科目では、司書課程の集大成として、図書館の現場で図書館員の指導のもとに図書館の実態と理論を学ぶ。実習は基本的に公立図書館で行う。

到達目標:
1【知識・理解】図書館のサービスや業務について理解し、わかりやすく説明できる。
2【関心・意欲・態度】社会人としての基本的なマナーを身につけるとともに、責任感や協調性をもって他者と接することができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーションに必要な技能や評価する力を身に着ける。

授業方法:　講義・演習および実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	事前演習	イベントの企画、お話会、展示、広報等に関する演習の準備（120分）
3.	実習の心構え	実習対象館の調査および提供されているデータベースの操作の確認（120分）
4.	公立図書館の現場から	参考文献として挙げているビデオ教材の視聴（本学図書館に所蔵）30分
5.	実習	実習先の指示や課題による
6.	実習	実習先の指示や課題による
7.	実習	実習先の指示や課題による
8.	実習	実習先の指示や課題による
9.	実習	実習先の指示や課題による
10.	実習	実習先の指示や課題による
11.	実習	実習先の指示や課題による
12.	実習	実習先の指示や課題による
13.	実習生による発表：実習報告	資料等発表の準備（120分）
14.	振り返り	自己評価資料の準備（120分）
15.	評価	

受講者へのメッセージやアドバイス:
・受講者数に応じて若干の変更を加える場合がある
・免許・資格課からの連絡があるので、掲示板やメールには注意して見ておくこと

フィードバックの方法:　授業時に口頭で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習	80	実習訪問時の様子、実習ノート、実習受け入れ先からの評価から総合的に判断する
レポート・演習	20	到達目標の1・3を中心に事前・事後講義から評価する

教科書:

参考文献等:　日本図書館協会『図書館の達人 司書実務編２：コミュニケーション』紀伊國屋書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール：mmuraki@dwc,doshisha.ac.jp

887600、60

情報資源組織演習

石橋　　進一

FLTナンバー: MDAf42-J

授業テーマ: 情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法及び主題組織法（分類法、件名索引法）の実践演習

授業の概要: 本科目では情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法，分類法・件名索引法の実際を演習し、理解を図る。
　春学期には記述目録法について、演習を通じて書誌レコードのコピーカタロギング、新規作成を学習する。さらに、典拠レコードの作成と書誌レコードとのリンクを演習して、書誌コントロールの意味を実体験し、理解を獲得する。
　秋学期には主題索引法（分類法、件名索引法）について、演習を通じて学習する。分類法の演習では、『日本十進分類法』を使用する。件名索引法では、『基本件名標目表』を使用する。ともに、日本図書館界で標準的に使用されている主題索引のツールである。本演習を通じて、主題索引法（分類法、件名索引法）の理解を図るとともに、実戦能力の獲得を目指す。

到達目標: 本科目では情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法，分類法・件名索引法の実際を演習し、理解を図る。
　春学期には記述目録法について、演習を通じて書誌レコードのコピーカタロギング、新規作成を学習する。さらに、典拠レコードの作成と書誌レコードとのリンクを演習して、書誌コントロールの意味を実体験し、理解を獲得する。
　秋学期には主題索引法（分類法、件名索引法）について、演習を通じて学習する。分類法の演習では、『日本十進分類法』を使用する。件名索引法では、『基本件名標目表』を使用する。ともに、日本図書館界で標準的に使用されている主題索引のツールである。本演習を通じて、主題索引法（分類法、件名索引法）の理解を図るとともに、実戦能力の獲得を目指す。

授業方法: 演習（事前に示した課題を提出する。その中から発表をし、講評や解説を行う。また、毎回、コメントペーパーの提出を求める。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	科目概要の確認	DOORS、CiNii，国立国会図書館サーチなどで実際の資料を検索しておくこと。
2.	目録法の記述、区切り記号、BIBLASについて	目録法、特にISBD区切り記号について、教科書およびプリント等を用い、予習・復習をすること。（30分）
3.	カード目録演習その1	カード目録の基礎について、教科書およびプリント等を用い、予習・復習をすること。（30分）
4.	カード目録演習その2（課題提出）	BIBLAS上にてカード目録作成ができるよう教科書およびプリント等を用いて予習・復習をすること。（30分）
5.	書誌ユーティリティ(講義)、和図書コピーカタロギングその1	NIIの書誌ユーティリティについて、教科書およびプリント等で予習・復習をすること。（30分）
6.	和図書コピーカタロギングその2	和洋のコピーカタロギングの基本について、教科書およびプリント等で予習・復習をすること。（30分）
7.	和図書コピーカタロギングその3（課題提出）	BIBLAS上にて和図書のコピーカタロギングができるよう教科書およびプリント等を用い、予習・復習をすること。（30分）
8.	和図書オリジナルカタロギングその1	和図書のオリジナルカタロギングの基本について、教科書およびプリント等で予習・復習をすること。（30分）
9.	和図書オリジナルカタロギングその2（課題提出）	BIBLAS上にて和図書のオリジナルカタロギングができるよう教科書およびプリント等を用い、予習・復習をすること。（30分）
10.	洋図書コピーカタロギング（課題提出）	BIBLAS上にて洋図書のコピーカタロギングができるよう教科書およびプリント等を用い、予習・復習をすること。（30分）
11.	洋図書オリジナルカタロギングその1	洋図書のオリジナルカタロギングの基本について、教科書およびプリント等で予習・復習をすること。（30分）
12.	洋図書オリジナルカタロギングその2（課題提出）	BIBLAS上にて洋図書のオリジナルカタロギングができるよう教科書およびプリント等を用い、予習・復習をすること。（30分）
13.	著者名典拠コントロール（課題提出）	著者名の典拠について教科書およびプリント等で予習・復習をすること。Web NDL Authoritiesの概要を把握すること（30分）
14.	雑誌書誌及び所蔵データ（課題提出）	BIBLAS上にて逐次刊行物のカタロギングができるよう教科書およびプリント等を用い、予習・復習をすること。（30分）
15.	まとめ	春学期のまとめをしておくこと。（120分）
16.	分類法・件名法の概略～NDCとBSHについて	「情報資源組織論」の教科書等でNDCとBSHの概要を把握しておくこと。（60分）
17.	分類法①分類規定	NDCの分類規定についてプリント等で予習・復習をすること。（30分）
18.	分類法②補助表 形式区分	NDC補助表のうち、形式区分についてプリント等で予習・復習をすること。（30分）
19.	分類法③補助表 地理区分	NDC補助表のうち、地理区分についてプリント等で予習・復習をすること。（30分）
20.	分類法④補助表 言語区分	NDC補助表のうち、言語区分についてプリント等で予習・復習をすること。（30分）
21.	分類法⑤各類別その1	NDC本表のうち、0類1類2類についてプリント等で予習・復習をすること。（30分）
22.	分類法⑥各類別その2	NDC本表のうち、3類4類についてプリント等で予習・復習をすること。（30分）
23.	分類法⑦各類別その3	NDC本表のうち、5類6類7類についてプリント等で予習・復習をすること。（30分）
24.	分類法⑧各類別その4	NDC本表のうち、8類9類についてプリント等で予習・復習をすること。（30分）
25.	分類法⑨総合演習	NDC本表および補助表のすべてを使えるようプリント等で予習・復習すること。（30分）
26.	件名法①BSHの仕組みと特徴	BSHの基本についてプリント等で予習・復習をすること。（30分）
27.	件名法②主標目と細目付き件名	BSHの細目の使い方についてプリント等で予習・復習をすること。（30分）
28.	件名法③総合	BSHの本表および付属するすべてのツールを使えるようプリント等で予習・復習すること。（30分）

29.	目録と分類のまとめ	NDCとBSHを組み合わせて使えるようプリント等で予習・復習をすること。(30分)
30.	分類法、件名法のまとめ	秋学期のまとめをしておくこと。(120分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

・USBメモリを必ず持参すること。(毎回、作成したデータを保存するため、忘れると授業を受講することができない。システムはUSBメモリーがないと保存ができない仕組みになっているため、授業を受けることができないので注意すること。)
・教科書に従って授業を行う。教科書は必ず購入のこと。
・ほぼ毎回ホームワークの課題を出す。
・一つ一つ積み上げの授業のため、遅刻や欠席をすると理解困難となり、新しい課題の取り組みができなくなる。
・やむをえず欠席した場合、教科書・レジュメを基にした独習を求める。この場合も課題・レポートは必ず提出すること。

フィードバックの方法:

コメントペーパーの質問、要望等については、次回、教室でまとめて回答します。なお、提出物は返却しません。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	30	演習の回答発表
課題	30	提出率と課題の正確性
試験	40	正答率

教科書:

北克一・村上泰子共著『資料組織演習』改訂第4版、M.B.A、2017

参考文献等:

『日本目録規則 1987年版 改訂3版』、日本図書館協会、2003 (授業時貸出)
『日本十進分類法 第10版』、日本図書館協会、2014 (授業時貸出)
『基本件名標目表 第4版』、日本図書館協会、1999 (授業時貸出)
田窪直規ほか『改訂 情報資源組織演習』、樹村房、2017
那須雅熙『情報資源組織論及び演習 第2版』(ライブラリー図書館情報学 9)、学文社、2016
『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』日本図書館研究会、2015
宮沢厚雄『目録法キイノート』樹村房、2016
宮沢厚雄『分類法キイノート』樹村房、2017

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対。Eメールを利用。

892400

助産診断技術学演習

宮川　幸代、和泉　美枝、大内　裕美、緒方　あかね、越山　茂代、谷口　利絵、渡邊　裕也

FLTナンバー:

授業テーマ: 周産期に必要な助産診断・技術に関する実践能力の修得

授業の概要: 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期助産診断技術学で習得した知識や理論を統合し、助産過程の展開や助産実践に必要な諸技能・ケアの評価方法を習得する。周産期のケア場面のシミュレーション学習や助産OSCEを通して、助産診断の統合や援助技術の習得状況を評価し、自らの課題を明確にする。周産期に必要な助産診断・技術を修得していくプロセスにおいて、助産師に期待される役割や姿勢・態度を探求する。

到達目標:

[和泉美枝／5回]
妊娠期・産褥期の問診、全身のフィジカルイグザミネーション、新生児期のフィジカルイグザミネーションなどから得られた情報のアセスメント、個別性を尊重した計画立案、実行、評価などの助産過程の展開ができる。
妊娠期や産褥期に必要な保健指導や健康教育を対象の時期や背景を考慮して、集団と個人への指導を組み合わせた効果的な方法で企画・実践できる。
[植松紗代／6回]
女性の産む力をひきだす自然で安全・快適、バースプランを尊重し、根拠に基づいた分娩期のケア技術、分娩介助法、分娩促進ケアや出生直後の新生児の胎外生活への適応促進のための支援方法を修得できる。
産婦や新生児の事例を用いて助産過程を展開し、分娩期に必要な助産診断のプロセスを理解すると共に対象の個別性を尊重したケア技術を修得できる。
[谷口利絵／4回]
フリースタイル出産における分娩介助技術の原理と技法が修得できる。
[越山茂代／6回]
科学的・効果的な母乳育児支援技術、母乳育児についての基本的知識、妊娠中から出産後の母乳育児支援、エモーショナル・サポートの技法を修得できる。
[大内裕美／4回]
シミュレーターを用いた演習を実施し、国際基準の新生児蘇生法の基礎知識と技術を修得できる。
[緒方あかね／2回]
事例を通して、リスクのある妊産褥婦のケアや周産期におけるメンタルヘルスへの支援方法が修得できる。
[渡邊裕也／3回]
女性を対象としたエクササイズに関する教室展開の基礎として、身体活動、有酸素運動、筋力トレーニングなどの原理と基本動作や特徴、留意点について理解できる。

授業方法: 講議・演習形式で行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	乳房・母乳の基礎知識，母乳育児の利点（越山）	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく（60分）
2.	母乳育児成功のための10ヵ条の実践とBFHの取り組み（越山）	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく（60分）
3.	母乳育児支援①　早期接触，抱き方含ませ方（越山）	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく（30分）
4.	母乳育児支援②　エモーショナルケア（越山）	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく（30分）
5.	母乳育児支援③　問題のあるケースへの支援（越山）	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく（30分）
6.	授乳中の諸問題とその支援（越山）	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく（30分）
7.	新生児の蘇生（NCPR）①　基礎（大内）	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく（60分）
8.	新生児の蘇生（NCPR）②　アルゴリズムと蘇生技術（大内）	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく（30分）
9.	新生児の蘇生（NCPR）③　シミュレーションシナリオトレーニング（大内）	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく（30分）
10.	新生児の蘇生（NCPR）④　シミュレーションシナリオトレーニング（大内）	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく（30分）
11.	妊娠期のフィジカルイグザミネーション技術（和泉）	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく（60分）
12.	妊娠期の健康診査：シミュレーションシナリオトレーニング（和泉）	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく（60分）
13.	妊娠期の保健指導：シミュレーションシナリオトレーニング（和泉）	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく（60分）
14.	助産OSCE：妊娠期（和泉）	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく（60分）
15.	身体活動、エクササイズの種類と特徴（渡邊）	身体活動、エクササイズの種類と特徴について調べておく（60分）
16.	有酸素運動の原理と基本動作、留意点（渡邊）	有酸素運動の原理と基本動作、留意点について調べておく（60分）
17.	筋力トレーニングの原理と基本動作、留意点（渡邊）	筋力トレーニングの原理と基本動作、留意点について調べておく（60分）
18.	分娩介助技術（1）分娩進行にかかわる診断技術（内診，導尿，人工破膜等）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく（60分）
19.	分娩介助技術（2）分娩介助に伴う清潔操作	分娩期助産診断技術学の復習をしておく（60分）
20.	分娩介助技術（3）分娩介助技術（会陰保護等）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく（60分）
21.	分娩介助技術（4）分娩介助技術（胎盤娩出，縫合介助等）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく（60分）
22.	分娩介助技術（5）技術試験（シミュレーション）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく（60分）
23.	助産OSCE：分娩期	分娩期助産診断技術学の復習をしておく（120分）

24.	産褥・新生児期の保健指導：シミュレーションシナリオトレーニング（和泉）	産褥・新生児期助産診断技術学の復習をしておく（60分）
25.	アクティブバースとは、メリットとデメリット（谷口）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく（60分）
26.	フリースタイル分娩介助　仰臥位・側臥位・四つん這い・立位での分娩介助（谷口）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく（60分）
27.	フリースタイル分娩介助　児の回旋と会陰保護（谷口）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく（60分）
28.	会陰裂傷予防（谷口）	分娩期助産診断技術学の復習をしておく（60分）
29.	身体的ハイリスク妊産婦の看護援助と評価（緒方）	妊娠期助産診断技術学の復習、特に妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメントについて復習しておく（60分）
30.	心理・社会的ハイリスク妊産婦の看護援助と評価（緒方）	妊娠期助産診断技術学の復習、特に妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメントについて復習しておく（60分）

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：課題については授業内でコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
助産OSCE	20	OSCEの評価点から評価する
授業への積極的態度	80	積極的、主体的に授業に参加しているなど態度、意欲も評価する

教科書：
UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド　ベーシック・コース「母乳育児のための10ヵ条」の実践，医学書院
細野茂春監修，日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト第3版，メジカルビュー社

参考文献等：
助産学講座 6　助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期，医学書院
助産学講座 7　助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期，医学書院
助産学講座 8　助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期，医学書院
NCPR 新生児蘇生法テキスト 第3版 日本周産期・新生児医学会・新生児蘇生法委員会委員長細野茂春（監修）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法：質問などは主に授業内で対応する

892900

助産学実習Ⅲ

和泉　　美枝、仲田　　靖子

FLTナンバー:

授業テーマ: 周産期にある母子や家族を対象にした助産実践・関連職種および地域との連携と協働

授業の概要: 妊娠中期から産後1か月までの事例を継続して受け持ち、助産過程を展開し、対象者のニーズや個別性、多様性を理解し、安全・安心・快適・満足なお産の実現に向けた助産師の役割を学び、個別性を尊重した助産ケアの実践能力を修得する。さらに、他職種および地域との連携の必要性やそのあり方を理解し、助産ケアや保健サービス向上のための方策を考察できる能力を修得する。

到達目標: 妊娠期からの継続ケアと対象との信頼関係に基づき、妊婦・分娩・産褥・新生児・育児期の助産過程が展開でき、日常生活に応じた個別的な援助ができる。
安全・安心・快適・満足なお産の実現に向けた助産師の役割が理解でき、実践できる。
多職種や地域との連携の必要性やそのあり方を理解でき、助産ケアや保健サービス向上のための方策を考察できる。

授業方法: 実験実習実技(学外)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	妊娠経過が正常である妊婦を妊娠中期から産褥母子訪問を含め産後1か月まで受け持ち、助産過程の展開と助産計画に基づいた助産ケアや保健指導を指導助産師の指導の下行う。	助産学概論、ペアレンティング援助論、妊娠期・分娩期・産褥・新生児期助産診断技術学・助産技術学演習、助産学実習Ⅰ・Ⅱ、助産マネジメント等での学習内容、および教科書・資料を復習しておく(30分)。また保健指導を行う場合は指導案を教員に提出し事前に指導を受ける(60分)。 詳細は実習要項を参照する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 実習記録はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
知識・技術	80	到達目標における知識や技術の到達度によって総合的に評価する
実習への積極的態度	20	事前学習や積極的・主体的な実習への取り組み、到達目標の理解を深めようとする姿勢、態度を評価する

教科書: ペアレンティング援助論、妊娠期・分娩期・産褥・新生児期助産診断技術学、助産技術学演習等で使用した教科書

参考文献等: 実習の進行状況に則して適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法: 質問には主に実習中に対応する

893500

高次助産診断技術学演習

眞鍋　えみ子、山畑　佳篤、吉田　英美、澤田　守男

FLTナンバー:

授業テーマ: 周産期における高度な診断能力と実践力

授業の概要: 周産期における高度専門職として、高度な診断能力と実践力を有し、緊急時の対応やエビデンスに基づいた最新の知識・技術が提供できる実践力を培う。
（眞鍋） 安心・安全な出産環境を整え、周産期の母体安全を確保するための分娩取扱施設での急変発生時の初期対応と助産師の役割について考える。また、ストレスコーピングの視点から出産前に胎児の死亡が確認された事例や出産後に児を失った事例において家族が死を受容する心理過程について検討し、周産期におけるグリーフケア時の助産師の役割について考察する。

（澤田） 会陰切開および会陰縫合の適応とその方法、婦人科的診察と子宮がんのスクリーニング検査の方法を習得する。
（山畑） 産後の出血性ショック、肺塞栓症、子癇などの母体急変時の知識や母体の救命処置の実技、チームワークと連携強化についてシミュレーション場面で学習する。
（吉田） 助産診断を補うために超音波診断の基礎的画像診断能力を養うとともに、基礎的な超音波装置の走査法および画像診断法をシミュレーションモデルや画像などを用いて修得する。

到達目標: 1)会陰切開および会陰縫合の適応とその方法が理解できる、子宮がんのスクリーニング検査を演習でできる
2)母体の救命処置についてシミュレーション場面で習得できる
3)超音波診断の基礎的画像診断能力を養い、画像診断法をシミュレーションモデルで習得できる

授業方法: 講義・演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	母体急変対応のABC、急変時の初期対応［山畑］	成人のBLSについて手技も含めて学習しておく（60分）
2.	シミュレーションシナリオトレーニング母体急変対応(1)：子癇［山畑］	前回の授業内容を理解しておく（60分）
3.	シミュレーションシナリオトレーニング母体急変対応(2)：分娩出血［山畑］	前回の授業内容を理解しておく（60分）
4.	シミュレーションシナリオトレーニング母体急変対応(3)：チームトレーニング［山畑］	前回の授業内容を理解しておく（60分）
5.	超音波断層装置の基礎［吉田］	妊娠期助産診断技術学の内容を復習する（60分）
6.	周産期における超音波検査の基礎［吉田］	前回の授業内容を理解しておく（90分）
7.	周産期における超音波画像の読み方［吉田］	前回の授業内容を理解しておく（90分）
8.	シミュレータトレーニングモデルによる超音波演習(1)妊娠中・末期［吉田］	前回の授業内容を理解しておく（90分）
9.	シミュレータトレーニングモデルによる超音波演習(2)血流・胎児well-being評価［吉田］	前回の授業内容を理解しておく（90分）
10.	シミュレーションシナリオトレーニング胎児急変対応：臍帯脱出・胎児心拍異常［眞鍋］	産科医療保障制度の対象となった事例を確認しておく（60分）
11.	周産期におけるグリーフケア：ペリネイタル・ロス事例の検討［眞鍋］	事例や手記を探し、内容を理解する（60分）
12.	会陰切開および会陰縫合の適応［澤田］	分娩期助産診断技術学の内容を復習する（60分）
13.	会陰切開術および会陰縫合の手技［澤田］	前回の授業内容を理解しておく（60分）
14.	シミュレータトレーニングモデルによる会陰縫合の実際［澤田］	前回の授業内容を理解しておく（60分）
15.	婦人科的診察と子宮がんのスクリーニング検査［澤田］	前回の授業内容を理解しておく（60分）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業内でフィードバックする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的態度	50	演習への態度、理解度、演習時の手技などについて、目標の1)～3)の到達度を評価する
レポート	50	目標の1)～3)の理解度を評価する

教科書: 新版　助産師外来で役立つ　超音波検査ガイドブック　メディカ出版

参考文献等: 適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法: 質問などは主に授業内で対応する

893802

特別研究

眞鍋　　えみ子

FLTナンバー:

授業テーマ: ウイメンズヘルス領域に関する看護学研究（修士論文作成）

授業の概要: 妊産褥婦及び育児期の女性とその家族を対象とした健康教育の実施、ライフスタイルの実態調査や文献検討等により、対象のセルフケアの向上を目指したケアのあり方を探求するなど、専門領域における特定の看護課題を明確にし論文としてまとめる

到達目標:
1.研究動向を踏まえ、専門領域における看護研究課題を明確にできる
2.研究課題に対して適切な研究方法を選定することができる
3.研究倫理に配慮した研究計画書を作成することができる
4.研究者としての自覚をもち、研究計画を遂行しデータ収集、分析ができる
5.収集したデータに基づき論文を作成することができる
6.修士論文の概要を報告することができる

授業方法: ゼミナール形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1)-1研究課題の明確化 研究課題と理論、概念の検討	研究課題や関連する理論に関する文献収集（120分）
2.	1)-2研究課題の明確化 研究課題と理論、概念の検討	研究課題や関連する理論に関する文献収集（120分）
3.	1)-3研究課題の明確化 研究課題と理論、概念の明確化	研究課題や関連する理論に関する文献収集（120分）
4.	2)-1先行研究のクリティーク 研究デザインの検討 研究の意義の明確化	研究論文をクリティークし活用できる論文を選定 研究方法の復習とデザインの選択（120分）
5.	2)-2先行研究のクリティーク 研究方法の検討	研究論文をクリティークし活用できる論文を選定 研究方法の学習（120分）
6.	2)-3先行研究のクリティーク データ分析、結果の検討	研究論文をクリティークし活用できる論文を選定 データ分析方法の学習（120分）
7.	3)研究方法の決定	研究方法の復習、測定用具の信頼性妥当性について理解する（120分）
8.	4)-1研究計画書の作成	研究目的、意義、仮説を明確にする 研究計画書作成準備（120分）
9.	4)-2研究計画書、実施計画書の作成	研究計画書を修正、実施計画書作成準備（120分）
10.	5)-1倫理審査委員会申請書類の作成	研究倫理審査申請書作成準備（120分）
11.	5)-2倫理審査委員会申請書類の作成	研究倫理審査申請書の修正、提出準備（120分）
12.	6)-1データの収集と実施計画の見直し	データ収集準備 調査に向けた課題を明確にする（120分）
13.	6)-2データの収集	研究データの収集・分析
14.	6)-3データの収集と分析	研究データの収集・分析
15.	6)-4データの収集と分析	不足する研究データの収集
16.	7)-1論文執筆(結果の構成)	調査結果の構成を考える（120分）
17.	7)-2論文執筆(結果の記述)	構成にそって図表の作成、結果の記述を準備する（240分）
18.	7)-3論文執筆(結果の推敲)	結果の確認と推敲（240分）
19.	8)-1論文執筆(考察の構成)	考察を構成を考える（120分）
20.	8)-2論文執筆（考察）	構成にそって考察の記述を準備する（240分）
21.	8)-3論文執筆（考察）	考察の記述（240分）
22.	8)-4論文執筆（考察の推敲）	論文の論理性、整合性を確認しながら考察を推敲する（240分）
23.	9)論文執筆(結論)	結論を記述（120分）
24.	10)論文執筆(要約)	要約を記述（120分）
25.	11)論文推敲	全体的な論文の論理性、整合性を確認する（120分）
26.	12)発表準備	プレゼンテーション資料作成準備（120分）
27.	13)-1論文発表・ディスカッション	プレゼンテーション・ディスカッションの準備（120分）
28.	13)-2論文発表・ディスカッション	プレゼンテーション・ディスカッションの準備（120分）
29.	14)論文修正	質疑応答や助言を論文に反映させて修正（120分）
30.	15)まとめ	研究プロセスを振り返り、今後の課題を明確にする（90分）

受講者へのメッセージやアドバイス: ウイメンズヘルス領域に関する看護研究課題にじっくりと向き合い、EBNの実践につながる論文を作成しましょう

フィードバックの方法: ゼミ時や課題提出時に直接コメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
修士論文	80	到達目標1～5の到達度により評価する
プレゼンテーション	10	到達目標6のプレゼンテーションを評価する
意欲・取り組み姿勢・態度	10	到達目標1～6の主体性、積極性について評価する

教科書: 適宜、紹介する

参考文献等:	必要時、紹介する
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	ゼミ時ならびにメールにより連絡する

893803

特別研究

小松　　光代

FLTナンバー:

授業テーマ: 高齢者・在宅看護学領域に関する看護学研究（修士論文作成）

授業の概要: 専門領域における特定の看護課題を明確にし論文としてまとめる

到達目標:
1.研究動向を踏まえ、専門領域における看護研究課題を明確にできる
2.研究課題に対して適切な研究方法を選定することができる
3.研究倫理に配慮した研究計画書を作成することができる
4.研究者としての自覚をもち、研究計画を遂行しデータ収集、分析ができる
5.収集したデータに基づき論文を作成することができる
6.修士論文の概要を報告することができる

授業方法: ゼミナール形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1-1)研究課題の明確化 研究課題と理論、概念の検討	研究課題や関連する理論に関する文献収集（120分）
2.	1-2)研究課題の明確化 研究課題と理論、概念の検討	研究課題や関連する理論に関する文献収集（180分）
3.	1-3)研究課題の明確化 研究課題と理論、概念の明確化	研究課題や関連する理論に関する文献収集（180分）
4.	2-1)先行研究のクリティーク 研究デザインの検討 研究の意義の明確化	研究論文をクリティークし活用できる論文を選定 研究方法の復習とデザインの選択（180分）
5.	2-2)先行研究のクリティーク 研究デザインの検討 研究の意義の明確化	研究論文をクリティークし活用できる論文を選定 研究方法の学習（180分）
6.	2-3)先行研究のクリティーク 研究デザインの検討 研究の意義の明確化	研究論文をクリティークし活用できる論文を選定 研究方法の学習（180分）
7.	3研究方法の決定	研究方法手順の作成（240分）
8.	4-1)研究計画書の作成	研究計画書を作成（300分）
9.	4-2)研究計画書の作成	研究計画書を修正（300分）
10.	5-1)倫理審査委員会申請書類の作成	研究倫理審査申請書を作成（180分）
11.	5-2)倫理審査委員会申請書類の作成	研究倫理審査申請書を修正し、提出、審査結果に応じて修正後再提出（180分）
12.	6-1)予備データの収集と分析	予備研究データを収集し、分析 本調査に向けた課題を明確にする（180分）
13.	6-2)本調査データの収集と分析	研究データの収集・分析（240分）
14.	6-3)本調査データの収集と分析	研究データの収集・分析（240分）
15.	6-4)本調査データの収集と分析	不足する研究データの収集（240分）
16.	7-1)論文執筆(図表作成)	調査結果を図表にまとめる（300分）
17.	7-2)論文執筆(結果の構成)	結果を構成にそって記述（300分）
18.	7-3)論文執筆(結果の推敲)	結果の確認と推敲（300分）
19.	8-1)論文執筆(考察の構成)	考察を構成にそって記述（300分）
20.	8-2)論文執筆（考察）	考察執筆（300分）
21.	8-3)論文執筆（考察）	考察執筆（300分）
22.	8-4)論文執筆（考察の推敲）	考察の推敲（300分）
23.	9論文執筆(結論)	結論を記述(120分）
24.	10論文執筆(要約)	要約を記述(120分）
25.	11論文推敲	論文の論理性、整合性を確認（180分）
26.	12発表準備	プレゼンテーション資料を作成（180分）
27.	13-1)論文発表・ディスカッション	プレゼンテーションの準備（180分）
28.	13-2)論文発表・ディスカッション	プレゼンテーションの準備（180分）
29.	14論文修正	質疑応答や助言を論文に反映させて修正（180分）
30.	15まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 高齢者・在宅看護学領域に関する看護研究課題にじっくりと向き合い、在宅・高齢者看護学の質の向上、今後のキャリアアップにつなげましょう

フィードバックの方法: 講義時や課題提出時に直接コメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
修士論文	80	到達目標1～5の到達度により評価する
プレゼンテーション	10	到達目標6のプレゼンテーションを評価する
意欲・取り組み姿勢・態度	10	到達目標1～6の主体性、積極性について評価する

教科書: 適宜、紹介する

参考文献等: 必要時、紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	講義時ならびにメールにより連絡する

893900

課題研究

眞鍋　　えみ子、和泉　　美枝

FLTナンバー:

授業テーマ:　助産学実践における研究課題への取組みと論文作成

授業の概要:　看護学研究科目（ウイメンズヘルス特論Ⅰ、ウイメンズヘルス特論Ⅱ）、助産学実践科目の履修を通して見出した研究課題を追及し、研究のプロセスに沿って実践的かつ実証的に研究を行い、課題研究論文としてまとめる。課題研究を通して助産師として必要な研究能力を修得する。具体的には、助産における研究の意義と特徴、研究デザインの考え方、研究方法、倫理上の配慮など、研究を進める上で必要な知識への理解を深めるとともに助産実践から研究疑問を抽出し、研究計画書を作成し、実施した結果を論文にまとめ発表会で発表する。

到達目標:
1)研究動向を踏まえ、専門領域における研究課題を明確にできる
2)研究課題に対して適切な研究方法を選定することができる
3)研究倫理に配慮した研究計画書を作成することができる
4)研究者としての自覚をもち、研究計画を遂行しデータ収集、分析ができる
5)収集したデータに基づき論文を作成することができる
6)課題論文の概要を報告することができる

授業方法:　ゼミナール形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1)-1研究課題の明確化 研究課題の検討	・研究課題や関連する文献収集（90分）
2.	1)-2研究課題の明確化 研究課題の検討	・研究課題や関連する文献収集 ・前回講義時の課題の検討（90分）
3.	1)-3研究課題の明確化 研究課題と仮説の明確化	・研究課題や関連する文献収集 ・前回講義時の課題の検討（90分）
4.	2)-1先行研究のクリティーク 研究デザインの検討 研究の意義の明確化	・研究論文をクリティークしプレゼンできるように準備する ・研究方法・デザインについて復習する ・前回講義時の課題の検討（90分）
5.	2)-2先行研究のクリティーク 研究方法の検討	・研究論文をクリティークしプレゼンできるように準備する ・前回講義時の課題の検討（90分）
6.	2)-3先行研究のクリティーク データ分析・結果の検討	・研究論文をクリティークしプレゼンできるように準備する ・前回講義時の課題の検討（90分）
7.	3)研究方法の決定	・研究方法の検討、測定用具の信頼性妥当性について理解する ・前回講義時の課題の検討（90分）
8.	4)-1研究計画書の作成	・研究計画書の作成準備 ・前回講義時の課題の検討（90分）
9.	4)-2研究計画書、実施計画書の作成	・研究計画書を修正、実施計画書の作成準備 ・前回講義時の課題の検討（90分）
10.	5)-1倫理審査委員会申請書類の作成	・研究倫理審査申請書の作成準備 ・前回講義時の課題の検討（90分）
11.	5)-2倫理審査委員会申請書類の作成	・研究倫理審査申請書を修正し、提出 ・前回講義時の課題の検討（90分）
12.	6)-1データの収集と実施計画の見直し	・データ収集準備、調査に向けた課題を明確にする ・前回講義時の課題の検討（120分）
13.	6)-2データの収集	・研究データの収集・分析 ・研究の進捗状況の確認 ・前回講義時の課題の検討
14.	6)-3データの収集	・研究データの収集・分析 ・研究の進捗状況の確認 ・前回講義時の課題の検討
15.	6)-4データの収集	・不足する研究データの収集 ・研究の進捗状況の確認 ・前回講義時の課題の検討
16.	7)-1データ分析	・調査結果を仮説に基づきまとめる ・前回講義時の課題の検討（120分）
17.	7)-2データ分析(結果の構成)	・調査結果を仮説に基づきまとめる ・結果の構成を考える ・前回講義時の課題の検討（120分）
18.	7)-3データ分析、結果執筆	・結果の構成に基づき結果をまとめる ・前回講義時の課題の検討（120分）
19.	8)-1論文執筆(考察の構成)	・考察の構成を考える ・前回講義時の課題の検討（120分）
20.	8)-2論文執筆（考察）	・考察をまとめる ・前回講義時の課題の検討（120分）
21.	8)-3論文執筆（考察）	・考察をまとめる ・前回講義時の課題の検討（120分）
22.	8)-4論文執筆（考察の推敲）	・考察を推敲する ・前回講義時の課題の検討（120分）
23.	9)論文執筆(結論・研究課題の明確化)	・結論をまとめる、研究課題をまとめておく ・前回講義時の課題の検討（120分）
24.	10)論文執筆(要約)	・要約を記述する ・前回講義時の課題の検討（120分）
25.	11)論文推敲	・論旨の論理性、整合性を確認する ・前回講義時の課題の検討（120分）
26.	12)発表準備	・プレゼンテーション資料を作成 ・前回講義時の課題の検討（120分）

27.	13)-1論文発表・ディスカッション	・プレゼンテーション・ディスカッションの準備 ・前回講義時の課題の検討(90分)
28.	13)-2論文発表・ディスカッション	・プレゼンテーション・ディスカッションの準備 ・前回講義時の課題の検討(90分)
29.	14)論文修正	・質疑応答や助言を論文に反映させて修正 ・前回講義時の課題の検討(90分)
30.	15)まとめ	研究プロセスを振り返り、今後の課題を明確にする(90分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

研究プロセスの理解・実践は、助産師として必要な臨床能力です。1段階ずつ丁寧に、計画的に学習を進めましょう。

フィードバックの
方法:

講義時や課題提出時に直接コメントする

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	20	到達目標1)～3)の到達度により評価する
課題研究論文	50	到達目標1)～5)の到達度により評価する
プレゼンテーション	10	到達目標6の到達度を評価する
取り組み姿勢・態度	20	到達目標1～6の主体性、積極性について評価する

教科書:

適宜、紹介する

参考文献等:

必要時、紹介する

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

講義時ならびにメールにより連絡する

894801

看護学特別研究Ⅰ

當目　　雅代

FLTナンバー:

授業テーマ: 看護の研究課題への取り組みと研究計画書の立案

授業の概要: 博士論文の研究計画書を作成する。そのために、関心領域の概念分析をする。文献レビューにより、当該領域の動向を把握する。文献レビューし、研究方法の要素を抽出する。

到達目標:
1. 関心領域の概念分析をする。
2. 文献レビューにより、当該領域の研究動向を把握する。
3. 文献レビューにより、研究方法の要素を抽出する。
4. 研究計画書を作成し、倫理委員会の審査を受ける。

授業方法: ゼミ形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	関心領域の概念分析1	
2.	関心領域の概念分析2	
3.	関心領域の概念分析3	
4.	関心領域の概念分析4	
5.	関心領域の概念分析5	
6.	概念分析の論文化	
7.	文献レビュー1	
8.	文献レビュー2	
9.	文献レビュー3	
10.	文献レビュー4	
11.	研究方法論の枠組み作成1	
12.	研究方法論の枠組み作成2	
13.	研究方法論の枠組み作成3	
14.	研究方法論の枠組み作成4	
15.	研究方法論の枠組み作成5	
16.	研究方法論の枠組み作成6	
17.	研究計画書の作成1	
18.	研究計画書の作成2	
19.	研究計画書の作成3	
20.	研究計画書の作成4	
21.	研究計画書の作成5	
22.	研究計画書の作成6	
23.	研究計画報告会の準備1	
24.	研究計画報告会の準備2	
25.	研究報告会開催	
26.	研究計画書修正1	
27.	研究計画書修正2	
28.	倫理員会申請書作成1	
29.	倫理委員会申請書作成2	
30.	倫理員会申請書作成3	

受講者へのメッセージやアドバイス: 自主的に進めてください

フィードバックの方法: ゼミでのデスカッション

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
博士研究計画書	100	目標1から4を達成で評価する

教科書: 適宜紹介する

参考文献等: 適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, 自己管理力, 自己実現力

教員との連絡方法: メール　WEB会議ツール